

殺菌剤耐性菌に関する国内文献集（増補版）①（1996～2012）

2019年11月更新

まえがき

本増補版には、初版への掲載以降1996年から2016年までの間に国内の研究者が主要学術雑誌（海外のものを含む）に発表した文献および初版同様、単行本、国公立試験研究機関報告（～2012）、学会・シンポジウムの講演要旨等に掲載された文献についても可能な限り収録に努めた。

本増補版①および②（2019年11月更新）に収録された文献数は延べ1264に上る。本増補版は、全国の大学、農業試験場、その他の研究機関等の協力を得て日本植物病理学会 殺菌剤耐性菌研究会によって編集された。文献の記載もれ、記載方法の不備等お気づきの点についてご指摘願えれば幸いである。

以降、修正点等を研究会ホームページ（<http://www.taiseikin.jp/>）を通じてお知らせしたい。

この文献集が殺菌剤耐性菌研究の発展のため、また、生産現場での病害防除に役立つことを念願するとともに、協力いただいた各位に厚くお礼申し上げます。

2019年11月

日本植物病理学会 殺菌剤耐性菌研究会

凡 例

1. 掲載順序は、作物分類、作物・病害、著者の順とした。作物および病害の掲載順序は、岸国平編「作物病害辞典」（全国農村教育協会、1988）によった。また、著者の掲載順序は第1著者名のABC順とし、同一著者については年代順とした。
2. 掲載した文献は、可能な限り作物・病害の組み合わせで表記した。事項の掲載作物病害一覧は、初版および増補版（2009年6月発刊）と共通のものとしたため、掲載されていない文献もあるので、あらかじめご了承ください。
3. 各文献の末尾に、その文献の内容を示す以下の分類記号を付した。

分類記号	A：圃場における耐性菌の発生	B：室内試験での耐性菌の発生
	C：薬剤感受性検定方法	D：モニタリング（耐性菌の分布）
	E：薬剤の効果	F：耐性菌の環境適応度
	G：耐性菌と感受性菌との競合	H：耐性の遺伝
	I：耐性のメカニズム	J：耐性の分子生物学
	K：耐性菌対策	M：交差耐性
	N：負相関交差耐性	L：その他

水稻

イネ 総説

- (1) 阿部浩人 (2005), イネ種子の流通実態について, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :29-34.
- (2) 高士祥助 (1998), 最近10年間ににおける水稻病害防除技術の変遷と課題, 関西病虫研報 (40) :13-15. D

イネいもち病

- (1) 荒井治喜 (2004), MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生経過と防除対策, 植物防疫 58 (1) :20-23. ACDEFK
- (2) 荒井治喜 (2004), イネいもち病の発生動向と防除上の諸問題(MBI-D耐性菌問題を中心に), 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :27-36. AD
- (3) 荒井治喜・鈴木文彦・中島隆 (2004), 九州地域におけるMBI-D耐性イネいもち病菌の発生動向と種子来歴や防除薬剤との関係, 九病虫研会報(講要) 50 :96. DK
- (4) 荒井治喜・鈴木文彦・山口純一郎 (2006), MBI-D耐性菌初確認地域におけるイネいもち病菌の個体群動態, 九病虫研会報(講要) 52 :84. DFG
- (5) 荒井治喜・鈴木文彦 (2008), 飼料イネ栽培圃場におけるいもち病発生事例とその要因, 九病虫研会報 54 :154-
- (6) 新木康夫・相原穂・沢田治子・益子道生 (2004), 1999年-2003年のイネいもち病菌圃場採取菌におけるメトミノストロビン感受性及びチトクロームb遺伝子コドン143の塩基配列, 日本農薬学会大会講演要旨集 :69. CD
- (7) Yasuo Araki・Minoru Sugihara・Haruko Sawada・Hiroyuki Fujimoto・Michio Masuko (2005), Monitoring of the Sensitivity of *Magnaporthe grisea* to Metominostrobin 2001-2003: No Emergence of Resistant Strains and No Mutations at Codon 143 or 129 of the Cytochrome b Gene, J. Pestic. Sci. 30 (3) :203-208. D

- (8) Avila-Adame C.・Köller W. (2003), Insertional mutagenesis of *Magnaporthe grisea* toward decreased responsiveness of alternative respiration to inhibition by azoxystrobin, J. Gen. Plant Pathol. 69 (2) :126-130. BIJ
- (9) 泥谷公子・今村幸久・田村逸美 (2003), 宮崎県の早期・普通期水稻に発生したイネもち病に対するカルプロバミド粒剤およびジクロシメット粒剤の防除効果の低下, 九病虫研会報(講要) 49 :127. A
- (10) 永塚隆由・佐藤勉・千田常明・山口勇 (2001), イネもち病菌のフサライドに対する簡易な感受性検定方法(英文), 日本農薬学会誌 26 (4) :385-389. DC
- (11) Takayoshi Eizuka・Tsutomu Sato・Tsuneaki Chida・Isamu Yamaguchi (2001), Simple method for monitoring the sensitivity of *Pyricularia oryzae* to fthalide, J. Pestic. Sci. 26 (4) :385-389. CD
- (12) 藤田智美・三宅律幸 (2006), 愛知県におけるMBI-D剤耐性イネもち病菌の発生状況, 関西病虫研報 48 :69-
- (13) 藤田智美・三宅律幸 (2006), イネもち病MBI-D系統薬剤耐性菌検定, 平成17年度関東東海北陸農業試験研究成績概要集 :256-257. C
- (14) 早坂剛 (2006), いもち病耐性菌のモニタリングと発生メカニズムの解明, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52E13102. AID
- (15) 早坂剛・菊地繁美 (2006), 山形県におけるMBI-D剤耐性イネもち病菌の発生, 北日本病虫研報(講要?) 57 :
- (16) 早坂剛 (2009), 山形県における水稻病害および殺菌剤耐性菌の発生状況, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-9. AD
- (17) 林敬介・榎吉寿夫 (2012), 還元酵素阻害型メラニン生合成阻害剤(MBI-R)の現状とイネもち病菌におけるピロキロン感受性検定結果について, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :21-28. D
- (18) 廣岡卓・内黒羽子徹・西口勉 (1999), 1993~96年における圃場分離イネもち病菌のイソプロチオラン, IBPおよびEDDPに対する感受性モニタリング, 日植病報 65 (1) :61-67. ADL
- (19) 本多範行 (1997), 薬剤耐性菌検定事業—イネもち病菌の有機リン剤、カスガマイシン剤耐性検定—, 平成8年度病害虫に関する試験成績 福井農試 :35-39. D
- (20) 本藏良三・菊池貞文 (2010), IBP薬剤耐性イネもち病菌の残存, 北日本病虫研報(講要) 61 :261. ADJ
- (21) 石黒潔 (2005), Scale-freeネットワークとしてのいもち病伝染経路と耐性菌対策, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :45-52. K
- (22) 石井英夫・田上純子・大島美知代・山口純一郎・根本文宏・宗和弘 (2004), イネもち病菌におけるMBI-D剤耐性変異のPCR-Luminex法を用いた診断の試み, 日植病報(講要) 70 (3) :252. C
- (23) H. Ishii・J. Tanoue・M. Oshima・J. Yamaguchi・F. Nemoto・So. K. (2005), Application of a PCR-Luminex system for molecular diagnosis of *Magnaporthe grisea* isolates resistant to dehydratase inhibitors in melanin biosynthesis, Modern Fungicides and Antifungal Compounds 4 :31-34. CJ
- (24) Hideo Ishii・Junko Tanoue・Michiyo Oshima・Wen-Hsin Chung・Kumiko Nishimura・Junichiro Yamaguchi・Fumihiko Nemoto・Kazuhiro So・Toshitaka Iwama・Hideaki Yoshimatsu・Motoshige Shimizu・Toru Kozawa (2008), First application of PCR-Luminex system for molecular diagnosis of fungicide resistance and species identification of fungal pathogens, J. Gen. Plant Pathol. 74 (6) :409-416. CJ
- (25) Hideo Ishii (2010), Fungicide resistance in rice, Abstr. 16th Intr. Reinhardtbrunn Symp. :72. AIJK
- (26) Hideo Ishii (2011), Fungicide resistance in rice, Modern Fungicides and Antifungal Compounds (DPG). VI :36-40. ADFIJK
- (27) 石川浩司 (2006), イネ採種圃における防除実態と今後の対応 ~新潟県における防除実態~, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :67-74. K
- (28) 岩本豊・長田靖之 (2006), 県内の薬剤耐性菌分布状況の把握, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBD102. D
- (29) 岩本豊・長田康之 (2007), MBI-D剤に替わるイネもち病育苗箱処理剤の選定, 関西病虫研報 49 :19-20. K
- (30) 岩本豊・長田康之・木村教男 (2007), 兵庫県におけるMBI-D剤耐性イネもち病菌の発生状況, 関西病虫研報 49 :17-18. D
- (31) 岩田忠康・向島博行・三室元気・中村亘宏 (2009), 富山県におけるMBI-D耐性イネもち病菌の発生, 北陸病虫研報(講要) 58 :39. AD
- (32) Koichiro Kaku・Tsutomu Shimizu・Kozo Nagayama (2003), Diagnosis of dehydratase inhibitors in melanin biosynthesis inhibitor (MBI-D) resistance by primer-introduced restriction enzyme analysis in scytalone dehydratase gene of *Magnaporthe grisea*, Pest Manag. Sci. 59 (8) :843-846. C
- (33) 加藤雅也・山本英樹 (2008), 2007年の秋田県水稻採種圃におけるMBI-D剤耐性イネもち病菌の発生状況, 北日本病虫研報(講要) 59 :222. AD
- (34) 加藤寛・Wei Chuan-Zhao・石井英夫 (2008), PCR-Luminex法によるイネもち病菌のストロビルリン系薬剤耐性菌とMBI-D剤耐性菌の同時検出に向けて, 日植病報(講要) 74 (3) :271. C
- (35) 木村教男 (2005), MBI-D剤耐性イネもち病菌と感受性菌の諸性質の比較, 日植病報(講要) 71 (3) :202-203.
- (36) 木村教男・小川正臣 (2005), ベノミル水和剤灌注による育苗期イネもち病の防除, 日植病報 71 (2) :111-118.
- (37) 木村教男 (2006), イネもち病菌のMBI-D剤耐性菌はless-fit(低環境適応)か? 1. MBI-D剤耐性イネもち病菌と感受性菌の諸性質の比較, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :41-50. DFG
- (38) 近畿中四国農業研究 (2004), 兵庫県および鳥取県におけるシタロン脱水酵素阻害型メラニン合成阻害剤(MBI-D)耐性イネもち病菌の発生状況, 近畿中国四国農業研究成果情報 :85-86. AD
- (39) 小林泰弘 (2006), 栃木県におけるMBI-D系薬剤耐性イネもち病菌の発生状況, 関東病虫研報 (53) :165. DE
- (40) 小林泰弘・石井英夫 (2007), PCR-Luminex法によるMBI-D剤耐性イネもち病菌の診断, 日植病報(講要) 73 (3)
- (41) 小林括平・佐々木直子・富田麗子・宗村郁子 (2007), イネもち病菌MBI-D剤耐性菌遺伝子検査を効率化する新規プライマー, 北日本病虫研報(報文) 58 :16-19. J
- (42) 小林泰弘・池澤和美 (2008), MBI-D剤耐性イネもち病菌の発生推移—栃木県の事例—, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :52-59. ADFG

- (43) 近藤誠・藤田佳克・安田伸子・大場淳司・畑谷みどり (2007), 宮城県におけるMBI-D耐性イネいもち病菌の発生, 北日本病虫研報(講要) 58 :183. AD
- (44) 倉橋良雄・利部伸三・山田直樹・三津木佑・清水麻依子・中迫雅由・山口勇 (2005), MBI-D耐性イネいもち病菌に有効な化合物の探索 変異によるSDH酵素の立体構造の変化と阻害化合物の誘導, 日本農薬学会大会講演要旨
- (45) Yoshio Kurahashi・Shinzo Kagabu・Naoki Yamada・Yu Mitsugi・Maiko Shimizu・Masayoshi Nakasako・Isamu Yamaguchi (2006), Resistance buster compounds for MBI-D insensitive rice blast fungus -Inquiry on effective compounds among derivatives of MBI-D fungicides, J. Pestic. Sci. 31 (2) :85-94. EI
- (46) 口木文孝・脇部秀彦・市丸喜久・古田明子・山口純一郎 (2002), 2001年の佐賀県西北部地域における葉いもちの異常多発事例について, 九病虫研会報(講要) 48 :93-94. AE
- (47) 口木文孝・中村宏子・脇部秀彦・山本勇・山口純一郎 (2003), MBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌発生地域における箱処理剤の防除効果, 九病虫研会報(講要) 49 :126. E
- (48) 九州沖縄農業研究センター (2005), 遺伝的起源に相違, いもち剤耐性菌確認, 今月の農業 49 (7) :90. DH
- (49) Lee, Y.-J.・Hamamoto H.・Nakaune R.・Nawata O.・Makizumi Y.・Akutsu K.・Hibi T. (2001), Distribution of the Consensus Sequences of ABC Transporter Gene among Several Taxonomically Distinct Phytopathogenic Fungi, J. Gen. Plant Pathol. 67 (2) :106-110. IJ
- (50) 三上綾子・笹原剛志・石川志保 (2002), イネいもち病, ムギ赤かび病に対する薬剤耐性菌検定, 東北農業成績概要集 平成13年度 :17. D
- (51) 毛雪琴・後藤知昭・川嶋勇樹 (2005), 栃木県におけるイネいもち病菌のMBI-D剤に対する感受性の遺伝子診断による検定, 関東東山病虫研報 (52) :9-12. C
- (52) 永島進・磯田淳 (2006), イネいもち病菌のMBI-D剤, QoI耐性調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBH104. AD
- (53) 中村宏宏・福田英夫・内田景子・宗和弘・武田敏幸 (2007), 各種薬剤のイネいもち病菌に対する薬剤感受性検定方法の検討とモニタリング結果, 日本農薬学会大会講演要旨集 :65. ACD
- (54) 中村宏宏・宮川典子・内田景子・富士真・武田敏幸 (2011), 全国各地から分離したイネいもち病菌の QoI 剤(オキサストロビン)に対する感受性, 日植病報(講要) 77 (3) :163. ACDFI
- (55) 中山喜一 (2007), 栃木県における耐性菌の発生と対策, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :
- (56) 根本文宏 (2005), イネにおけるMBI-D剤, QoI耐性菌対策, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :35-44. K
- (57) 尾川宣広・牟田辰朗 (1996), 鹿児島県におけるイネいもち病菌の薬剤感受性, 九病虫研会報 (42) :1-4. D
- (58) 尾川宣広 (1996), 鹿児島県におけるイネいもち病菌の薬剤感受性, 今月の農業 40 (6) :38-42. D
- (59) 岡田知子・野崎匠 (2006), MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生状況, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBK118. AD
- (60) 長田靖之・久野託靖・高木廣 (2004), 兵庫県におけるシタロン脱水酵素阻害型メラニン合成阻害剤(MBI-D系統薬剤)耐性イネいもち病菌の分布, 関西病虫研報(講要) 46 :111. AD
- (61) 長田靖之・久野拓靖・高木廣 (2004), 薬剤耐性いもち病菌の分布と検定法, 近畿中国四国農業成績概要集 :.
- (62) 佐々木直子・岩館康哉・富永朋之・勝部和則 (2005), 岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生, 北日本病虫研報(講要) 56 :205. AD
- (63) 佐々木直子・荒井治喜(2006), 岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生 イ. 岩手県分離株の生物検定によるMBI-D剤耐性菌検定, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52B14103. AC
- (64) 佐々木直子・千葉克彦・富永朋之・鈴木文彦・荒井治喜 (2006), 岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生 ウ. MBI-D剤耐性いもち病菌発生圃場における地区内での分布, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52B14104. A
- (65) 佐々木直子・鈴木文彦・荒井治喜 (2006), 岩手県分離MBI-D耐性いもち病菌のrep-PCR法およびSSRマーカーによる解析, 日植病報 72 (4) :246-247. C
- (66) 佐々木直子・荒井治喜・鈴木文彦 (2006), 岩手県におけるMBI-D耐性イネいもち病菌のrep-PCR法によるフィンガープリント解析とそれらのレース, 北日本病虫研報 57 :10-13. ADJ
- (67) 佐々木直子・富永朋之・鈴木文彦・荒井治喜 (2007), 2006年に岩手県で分離されたMBI-D耐性いもち病菌のpot2 rep-PCR法およびSSRマーカーによる解析, 日植病報(講要) 73 (3) :190. ADG
- (68) 佐々木直子・岩館康哉・猫塚修一 (2009), MBI-D耐性いもち病菌感染苗の移植による葉いもち早期発生, 日植病報(講要) 75 (1) :61. A
- (69) 佐々木直子・猫塚修一 (2009), MBI-D耐性イネいもち病菌の種子保菌割合が葉いもちの初発生時期に及ぼす影響, 日植病報(講要) 75 (3) :215. G
- (70) 佐藤由美子・佐々木直子 (2008), 2007年の岩手県におけるMBI-D剤耐性いもち病菌の発生状況, 北日本病虫研報(講要) 59 :223. AD
- (71) Haruko Sawada・Minoru Sugihara・Makiichi Takagaki・Kozo Nagayama (2004), Monitoring and characterization of *Magnaporthe grisea* isolates with decreased sensitivity to scytalone dehydratase inhibitors, Pest Manag. Sci. 60 (8) :777-785. CDEKL
- (72) Suzuki F.・Arai M.・Yamaguchi J. (2007), Genetic Analysis of *Pyricularia grisea* Population by rep-PCR During Development of Resistance to Scytalone Dehydratase Inhibitors of Melanin Biosynthesis, Plant Dis. 91 (2) :176-
- (73) 宗和弘・富士真・岩淵博己・金山正人・山口純一郎 (2002), 佐賀県西北部地区において発生したカルプロバミド低感受性イネいもち病菌に対する各種薬剤の防除効果, 日植病報(講要) 68 (2) :262. ADF
- (74) 宗和弘・金山正人・山口純一郎 (2004), MBI-D耐性イネいもち病に対する各種種子消毒剤の本田発病抑制効果と菌の薬剤感受性, 日植病報(講要) 70 (3) :252. DE
- (75) 宗和弘・金山正人・山口純一郎 (2004), MBI-D耐性いもち病菌に対する各種種子消毒剤の防除効果, 九病虫研会報 50 :1-5. EK
- (76) 宗和弘・金山正人・山口純一郎 (2004), MBI-D耐性いもち病発生圃場における各種薬剤の防除適期の検討, 九病虫研会報(講要) 50 :95. EK

- (77) 宗和弘・武田敏幸・富士真・福田英夫・山口純一郎 (2005), MBI-D耐性イネいもち病菌発生圃場におけるMBI-D剤のイネいもち病防除効果の推移, 日植病報(講要) 71 (3) :251. EK
- (78) 宗和弘 (2008), イネいもち病菌における殺菌剤耐性菌マネジメント, 植物防疫 62 (12) :15-19. I
- (79) 宗和弘・山口純一郎 (2008), イネいもち病菌における殺菌剤耐性菌マネジメント—MBI-D剤及びQoI剤に関して—, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :70-80. K
- (80) Gred Stammer・Manabu Itoh・Isao Hino・Akihide Watanabe・Kenichi Kojima・Masatoshi Motoyoshi・Andreas Koch・Egon Haden (2007), Efficacy of oryzastrobilin against blast and sheath blight in transplanted rice, J. Pestic. Sci. 32 (1) :10-15. CDE
- (81) Gerd Stammer (2007), Oryzastrobilin—A new fungicide in rice, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-29. CD
- (82) 相原穂・田中桂子・執行拓宇・久池井豊・新木康夫・草場基章・高垣真喜一・永山孝三・沢田治子 (2002), 佐賀県におけるカルプロパミド低感受性イネいもち病菌の分布とその対策, 日植病報(講要) 68 (2) :262. ACDK
- (83) 鈴木文彦・荒井治喜 (2003), MBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌の分布拡大要因の解明, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :289-290. D
- (84) 鈴木文彦・荒井治喜・山口純一郎・中島隆 (2004), 九州地域におけるイネいもち病菌のMBI-D耐性とPot2 rep-PCRによるフィンガープリント解析, 九病虫研会報(講要) 50 :96. ADK
- (85) 鈴木文彦・荒井治喜 (2006), MBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌の分布拡大要因の解明, 平成17年度九州沖縄農業試験研究成績概要集 :275-276. ADI
- (86) 鈴木文彦・荒井治喜 (2006), QP法(蛍光消光プローブ/プライマー法)による薬剤耐性イネいもち病菌の高感度検出技術の開発, 平成17年度九州沖縄農業試験研究成績概要集 :277-278. C
- (87) 鈴木文彦・荒井治喜 (2006), Quencing Probe-PCR(QP-PCR)法を用いたイネいもち病菌の検出定量およびMBI-D耐性菌の遺伝子診断, 日植病報(講要) 72 (4) :276. C
- (88) 鈴木文彦・富村健太・須賀晴久・中島隆・荒井治喜 (2006), SSRマーカーを利用したイネいもち病菌の個体識別, 九病虫研会報(講要) 52 :84. DJ
- (89) 鈴木文彦 (2006), イネいもち病菌のMBI-D剤耐性菌はless-fit(低環境適応)か?
2. 耐性菌の遺伝的多様性と個体群動態, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :51-60. DFG
- (90) 鈴木文彦 (2007), イネいもち病菌の個体群構造解析および検出・定量法の構築, 日本植物病理学会九州部会第32回シンポジウム講演要旨 :13-34. DFGC
- (91) 鈴木啓史・黒田克利(2007), 三重県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生状況, 関西病虫研報 49 :15-
- (92) Suzuki Hirofumi・Suzuki Fumihiko・Kusaba Motoaki・Tosa Yukio, Population structure of rice blast isolates resistant to scytalone dehydratase inhibitors in Mie Prefecture and implications for their origin, J. Gen. Plant Pathol. 78 (2) :106-114. DJ
- (93) 高垣真喜一・清水力・三浦一郎・新木康夫・沢田治子・宗和弘・永山孝三 (2002), イネいもち病菌のカルプロパミド低感受性メカニズムと感受性検定方法, 日植病報(講要) 68 (2) :262. ACI
- (94) 高垣真喜一・相原穂 (2003), イネいもち病菌のシタロン脱水酵素阻害型メラニン合成阻害剤(MBI-D)耐性 3. 耐性機構と遺伝子診断法, 第13回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :49-57. CI
- (95) Makiichi Takagaki・Koichiro Kaku・Satoshi Watanabe・Kiyoshi Kawai・Tsutomu Shimizu・Haruko Sawada・Kazuo Kumakura・Kozo Nagayama (2004), Mechanism of resistance to carpropamid in *Magnaporthe grisea*, Pest Manag. Sci. 60 (9) :921-926. I
- (96) 高垣真喜一・相原穂・木村教男 (2004), イネいもち病菌におけるMBI-D耐性の機構と遺伝子診断法, 植物防疫 58 (1) :24-28. CEHI
- (97) 高橋直子・富永朋之・藤澤由美子・岩館康哉 (2010), 岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生拡大要因の解析, 北日本病虫研報 61 :9-13. ADJ
- (98) 武田敏幸 (2006), イネ採種圃における防除実態と今後の対応
1. 水陸稲種子の生産流通と防除の概略, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :61-66. K
- (99) 千葉克彦・富永朋之・齋藤智子・佐々木直子 (2006), 岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生 ア. 県内における発生モニタリング, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52B14102. AD
- (100) 東條浩幸・菅田充(2007), 福島県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の確認について, 北日本病虫研報(講要) 58 :
- (101) 徳島県病害虫防除所 (1999), イネいもち病のカスガマイシン剤、IBP剤に対する感受性調査, 植物防疫事業実績所 :印刷中(要チェック). D
- (102) 富永朋之・千葉克彦・齋藤智子・佐々木直子 (2006), 2005年岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌のモニタリング, 北日本病虫研報(講要) 57 :215. AD
- (103) 富永朋之・千葉克彦・佐々木直子 (2007), 2006年の岩手県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生モニタリング, 北日本病虫研報(講要) 58 :183. AD
- (104) 上野清・早坂剛 (2008), 山形県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌のモニタリング, 北日本病虫研報(講要) 59 :
- (105) 上谷明美 (2000), 薬剤耐性菌検定事業—イネいもち病菌の有機リン剤、カスガマイシン剤耐性菌検定—, 平成11年度福井県農業年報 :20-23. D
- (106) 宇藤山浩・松浦明・野中耕次 (2003), 宮崎県の平成14年産早期水稻における葉いもち多発生要因の解析, 九病虫研会報(講要) 49 :126-127. A
- (107) Wei Chuan-Zhao・西村久美子・石井英夫 (2007), イネいもち病菌のストロビルリン系薬剤感受性検定とチトクロームb遺伝子の部位特異的突然変異, 日植病報(講要) 73 (1): 38. CDJ
- (108) Chuan-Zhao Wei・Hiroshi Katoh・Kumiko Nishimura・Hideo Ishii (2009), Site-directed mutagenesis of the cytochrome b gene and development of diagnostic methods for identifying QoI resistance of rice blast fungus, Pest Manag. Sci. 65 :1344-1351. IJ
- (109) 山口純一郎・御厨初子 (2001), カルプロパミド剤感受性低下イネいもち病菌の発生(1), 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :17-18. AD
- (110) 山口純一郎・古田明子(2002), イネいもち病に対する各種長期残効型薬剤の防除効果, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :45-46. E

- (111) 山口純一郎・口木文孝・平八重一之・宗和弘(2002), 佐賀県西北部地区におけるイネいもち病に対するカルプロパミド箱粒剤の防除効果の低下, 日植病報(講要) 68(2):261. AE
- (112) 山口純一郎・古田明子(2002), 佐賀県におけるMBI-D系統薬剤耐性いもち病菌の発生状況, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :43-44. D
- (113) 山口純一郎・古田明子(2002), 自家採取種籾におけるいもち病菌の保菌状況, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :41-42. D
- (114) 山口純一郎・古田明子・宗和弘・口木文孝(2003), MBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌発生地域における各種薬剤の防除効果, 九病虫研会報(講要) 49 :126. E
- (115) 山口純一郎・稲田稔・古田明子(2003), MBI-D耐性いもち病菌保菌種子における各種種子消毒剤の防除効果, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :23-24. E
- (116) 山口純一郎・稲田稔・古田明子・宗和弘(2004), MBI-D耐性いもち病保菌種子における各種種子消毒剤の防除効果, 九病虫研会報(講要) 50 :96. EK
- (117) 山口純一郎・稲田稔・古田明子・口木文孝(2004), 自家採取種籾と本田におけるMBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌の発生推移, 日植病報(講要) 70(3):252. D
- (118) 山口純一郎・稲田稔・古田明子・口木文孝・宗和弘・荒井治喜・鈴木文彦(2005), 佐賀県におけるMBI-D系統薬剤耐性イネいもち病菌の発生推移, 日植病報(講要) 71(3):250-251. DE
- (119) 山口純一郎(2005), 佐賀県におけるMBI-D耐性いもち病菌の発生経過と防除対策, 今月の農業 49(5):78.
- (120) 山口純一郎(2008), MBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生推移—佐賀県の事例, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :60-69. ADFG
- (121) 山口純一郎・稲田稔・古田明子・荒井治喜・武田敏幸(2009), MBI-D耐性イネいもち病菌低密度条件下における同系統散布薬剤の防除効果, 日植病報(講要) 75(3):215. E
- (122) 山口純一郎(2011), 佐賀県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生推移と同系統散布薬剤の防除効果, 佐賀県研究成果情報 DK
- (123) 山口県病害虫防除所(2011), 農薬耐性菌検定実施状況(イネいもち病), 平成22年度農作物有害動植物発生予察年報 :18. D
- (124) 安永忠道・楠元智子・小谷基文(2004), 愛媛県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生経過とその防除, 四国植防 39 :71-72. D
- (125) 安永忠道(2006), 愛媛県におけるMBI-D剤耐性イネいもち病菌の発生と防除対策, 今月の農業 50(4):84-87.
- (126) 安永忠道(2007), MBI-D剤耐性イネいもち病菌発生変動と薬剤再利用, 今月の農業 51(4):88-91. ADEK

イネ ばか苗病

- (1) 長谷川優・吉田浩之(2000), 鳥取県におけるベノミル耐性イネばか苗病菌の発生と防除対策, 鳥取農試研究報告(26):25-36. ADK
- (2) 長谷川優(2006), イネばか苗病多発飼料イネ苗から分離した病原菌のペフラゾエート感受性, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBG110. A
- (3) 平松基弘・斉藤泰彦・滝川千里(1997), ペフラゾエート(ヘルシード)水和剤連年使用によるベノミル耐性イネばか苗病菌の年次変動, 日植病報(講要) 63(3):223-224. E
- (4) 神奈川農業技術センター病害虫防除部(2009), 農薬耐性菌等検定事業 水稻のばか苗病(水稻ばか苗病におけるベノミル、トリフルミゾール、ペフラゾエート、イブコナゾール・銅に対する耐性菌出現状況), 平成20年度植物防疫事業
- (5) 倉内賢一・藤晋一・笹原剛志・畑中教子(2011), イネばか苗病の保菌割合低減を目的とした本花期茎葉散布剤の防除効果, 北日本病虫研報(講要) 62 :205. EK
- (6) 永山孝三(2003), 新微生物殺菌剤 : トリコデルマ アトロピリデ剤の使い方, 植物防疫 57(10):26-29. K
- (7) 野田聡(1996), 埼玉県におけるベノミルおよびトリフルミゾール耐性イネばか苗病菌の発生とその推移, 今月の農業 40(6):65-69. DK
- (8) 佐藤陽子(1998), 薬剤耐性菌検定事業—イネばか苗病菌のベノミル剤、プロクロラズ剤耐性検定—, 平成9年度病害虫に関する試験成績 福井農試 :35-36. D
- (9) 高橋千春・野田聡・植竹恒夫(1996), 埼玉県におけるベノミルおよびトリフルミゾール耐性イネばか苗病菌の発生消長, 関東病虫研報(43):49-51. D
- (10) 堅石秀明・千田常明(1997), 殺菌剤イブコナゾール(KNF-317)に関する研究(第4報) *Fusarium moniliforme* 圃場分離株の病原性とイブコナゾールに対する感受性, 日植病報(講要) 63(3):221. D
- (11) Tateishi H.・Chida T.(2000), Sensitivity of *Fusarium moniliforme* Isolates to Iaconazole, J. Gen. Plant Pathol. 66(4):353-359. AEF
- (12) 徳島県(1997), 薬剤耐性菌検定事業(イネばか苗病、イチゴうどんこ病), 農作物有害動植物発生予察事業年報
- (13) 徳島県病害虫防除所(1997), イネばか苗病菌のベノミル剤、トリフルミゾール剤に対する感受性調査, 植物防疫事業実績 :7-8. D
- (14) 徳島県病害虫防除所(1998), イネばか苗病菌のベノミル剤、トリフルミゾール剤に対する感受性調査, 植物防疫事業実績 :8-9. D

イネ 細菌病

- (1) 佐藤陽子(2009), イネ苗に発生する立枯性細菌病菌のオキシソリニック酸剤、KSM剤に対する薬剤耐性菌の発生状況, 植物防疫事業年報 :49-52. AD
- (2) 園田亮一(2003), 酸性電解水によるイネ種子伝染性細菌病防除の可能性, 植物防疫 57(5):15-18. KN
- (3) 梅沢順子・守川俊幸・岩田忠康(2002), 富山県におけるイネ苗細菌性病害の薬剤感受性の変化, 日植病報(講要) 68(1):94. ADEG
- (4) Atsushi Yoshii・Hiromitsu Moriyama・Toshiyuki Fukuhara(2012), The novel kasugamycin 2'-N-acetyltransferase gene aac(2')-IIa, carried by the IncP island, confers kasugamycin resistance to rice-pathogenic bacteria, Appl. Environ. Microbiol. 78(16):5555-5564. CIJL
- (5) 芳井篤・福原敏行(2012), 新規カスガマイシンアセチルトランスフェラーゼ及びその検出方法, 公開特許広報(A)特開2012-187008 CIJ

イネ 褐条病

- (1) 堀武志・小瀧慶司・原澤良栄 (1999), 新潟県におけるイネ褐条病, もみ枯細菌病の薬剤耐性菌の発生と薬剤防除効果, 日植病報(講要) 65 (3) :369. AE
- (2) 守川俊幸・松崎卓志・西山幸司・宮川久義・向島博行 (1997), イネ褐条病菌ともみ枯細菌病菌のオキシソニック酸およびカスガマイシンに対する感受性, 日植病報(講要) 63 (6) :516. D
- (3) 守川俊幸 (1999), イネもみ枯細菌病菌および褐条病菌の薬剤耐性, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :27-34. AC
- (4) 梅沢順子・守川俊幸 (2000), 富山県におけるイネ種子消毒剤使用の変遷と褐条病の発生及び細菌性病害の薬剤耐性について, 北陸病虫研報 (48) :65-66. ADE

イネ 苗立枯細菌病

- (1) 皆川博孝・山田真孝 (2008), 福島県内のイネから分離したもみ枯細菌病菌と苗立枯細菌病菌のオキシソニック酸感受性検定, 北日本病虫研報(講要) 59 :223. A

イネ もみ枯細菌病

- (1) 福士敬子・勝部和則・宍戸貢 (2000), 岩手県におけるオキシソニック酸耐性イネもみ枯細菌病菌の発生, 北日本病虫研報 51 :293. C
- (2) Yasufumi Hikichi・Hiroshi Egami・Yukio Oguri and Tetsuro Okuno (1998), Fitness for survival of *Burkholderia glumae* resistant to oxolinic acid in rice plants, Ann. Phytopathol. Soc. Jpn. 64 (3) :147-152. ACDF
- (3) Hikichi Y.・Tsujiyuchi K.・Maeda Y.・Okuno T. (2001), Development of Increased Oxolinic Acid-resistance in *Burkholderia glumae*, J. Gen. Plant Pathol. 67 (1) :58-62. AIJ
- (4) Yasufumi Hikichi・Kyoko Tsujimoto・Yukiko Maeda・Tetsuro Okuno (2004), Isolation of the oxolinic acid resistance related-gene from genomic DNA of *Burkholderia glumae*, Proceedings of the 10th International Conference on Plant Pathogenic Bacteria :220-223. ACDFIJ
- (5) 堀武志・小瀧慶司・原澤良栄 (1999), 新潟県におけるイネ褐条病, もみ枯細菌病の薬剤耐性菌の発生と薬剤防除効果, 日植病報(講要) 65 (3) :369. AE
- (6) 堀武志・小瀧慶司・原澤良栄 (2000), オキシソニック酸耐性もみ枯細菌病菌の存在下における本田オキシソニック酸剤散布の影響, 北陸病虫研報 (48) :66. AEFK
- (7) 勝部和則・岩館康哉・佐々木直子・福士敬子・尾形茂・高橋政夫 (2005), 水稻種子生産で実施したイネもみ枯細菌病オキシソニック酸耐性菌対策とその効果, 日植病報(講要) 71 (3) :250. EK
- (8) Yukiko Maeda・Akira Kiba・Kouhei Ohnishi・Yasufumi Hikichi (2004), Implication of amino acid substitutions at position 83 in GyrA on oxolinic acid-resistance in *Burkholderia glumae* field isolates, a causal agent of bacterial seedling rot and grain rot in rice, Appl. Environ. Microbiol. 70 (9) :5613-5620. ACDFIJ
- (9) Maeda Y.・Kiba A.・Ohnishi K.・Hikichi Y. (2004), New method to detect oxolinic acid-resistant *Burkholderia glumae* infesting rice seeds using a mismatch amplification mutation assay polymerase chain reaction, J. Gen. Plant Pathol. 70 (4) :215-217. ACDFIJ
- (10) Yukiko Maeda・Akinori Kiba・Kouhei Ohnishi・Yasufumi Hikichi (2004), New method to detect oxolinic acid-resistant *Burkholderia glumae* infesting rice seeds using a mismatch amplification mutation assay polymerase chain reaction, J. Gen. Plant Pathol. 70 (4) :215-217. CDJ
- (11) Yukiko Maeda・Mitsuo Horita・Hirosuke Shinohara・Akinori Kiba・Kouhei Ohnishi・Seiya Tsushima・Yasufumi Hikichi (2007), Analysis of sources of oxolinic acid-resistant field strains of *Burkholderia glumae* based on rep-PCR analysis and nucleotide sequences of *gyrB* and *rpoD*, J. Gen. Plant Pathol. 73 (1) :46-52. CDJ
- (12) 皆川博孝・山田真孝 (2008), 福島県内のイネから分離したもみ枯細菌病菌と苗立枯細菌病菌のオキシソニック酸感受性検定, 北日本病虫研報(講要) 59 :223. A
- (13) 守川俊幸・松崎卓志・西山幸司・宮川久義・向島博行 (1997), イネ褐条病菌ともみ枯細菌病菌のオキシソニック酸およびカスガマイシンに対する感受性, 日植病報(講要) 63 (6) :516. D
- (14) 守川俊幸 (1999), イネもみ枯細菌病菌および褐条病菌の薬剤耐性, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :27-34. AC
- (15) 野崎匠・角田佳則 (1999), イネもみ枯細菌病菌の薬剤感受性検定, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集 (18) :山-9. B
- (16) 山下亨・江口直樹・斉藤栄成 (1998), 長野県におけるオキシソニック酸耐性もみ枯細菌病の発生, 関東病虫研報 (45) :19-21. AE

イネ 紋枯病

- (1) 向島博行・三室元気・関原順子 (2011), 生育期の異なるイネ品種における紋枯病の薬剤散布適期, 富山農総七農研研報 2 :39-51. E
- (2) 大前達也・安藤佑以・島岡舞衣・稲垣公治・荒川征夫 (2012), イネ紋枯病菌トレハラゼ遺伝子の全長および同酵素立体構造モデルの解析, 日植病報(講要) 78 (1) :43-44. HIJ
- (3) 大前達也・島岡舞衣・稲垣公治・荒川征夫 (2012), アジア各地に分布するイネ紋枯病菌におけるパリダマイシン感受性とトレハラゼ遺伝子配列の多様性, 日本菌学会第56回大会講要集 :50. DJ

イネ 苗立枯病

- (1) 糟谷正之・野田沙緒里・八尾暢也・福井糧・東條元昭 (2009), イネに苗立枯れを起こすメタラキシル剤耐性 *Pythium arrhenomanes* の発生, 日植病報(講要) 75 (3) :248. B
- (2) 山下亨・戸田武・和田美佐・武田和男 (2012), 長野県における *Pythium arrhenomanes* によるイネ苗立枯病の発生とメタラキシルに対する薬剤感受性検定, 関東病虫研報 59 :127-130. ADE

麦

ムギ 総説

- (1) 荒井治喜 (2000), 麦の主要病害と対策, 今月の農業 44 (3) :28-31. N
- (2) 佐藤剛 (1999), 麦の病害虫と対策, 主要病害と対策, 今月の農業 43 (3) :46-49. N

- (3) 相馬潤 (2007), 北海道のコムギにおけるDMI剤の使用方法について, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :40-48. ADK

ムギ赤かび病

- (1) Wen-Hsin Chung・Hideo Ishii・Kumiko Nishimura・Michiyo Oshima・Toshitaka Iwama・Hideaki Yoshimatsu(2008), Genetic analysis and PCR-based identification of major *Fusarium* species causing head blight on wheat in Japan, J. Gen. Plant Pathol. 74 (5) :364-374. IJ
- (2) 有元倫子・北澤健 (2006), ムギ赤かび病菌の薬剤耐性菌の発生実態, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBA102. D
- (3) 石井英夫・大島美知代・西村久美子・岩間俊太・稲田稔・清水基滋・吉松英明・中島隆・青木孝之(2004), コムギより分離された*Fusarium*属菌の各種薬剤に対するin vitro感受性と β -チューブリン遺伝子のシークエンス解析, 日植病報(講要)70 (1) :34-35. C
- (4) 岩間俊太 (2003), コムギ赤かび病の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成14年度 :2A44003. D
- (5) 岩間俊太・坂本伸子(2004), コムギ赤かび病菌の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成15年度 :
- (6) 岩間俊太・勝部和則・成田治・石川邦彦・坂本伸子 (2004), 青森県におけるチオファネートメチル耐性コムギ赤かび病菌 *Fusarium culmorum* の発生, 北日本病虫研報(講要) 55 :269-269. AD
- (7) 岩間俊太 (2006), コムギ赤かび病の防除とベンゾイミダゾール系薬剤耐性 2. ー青森県におけるチオファネートメチル耐性コムギ赤かび病菌 *Fusarium culmorum* の発生ー, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :21-29. AD
- (8) 岩間俊太・勝部和則・石井英夫 (2007), チオファネートメチル耐性コムギ赤かび病菌 *Fusarium culmorum* の検出, 日植病報 73 (3) :162-165. ADE
- (9) 梶谷裕二・須賀晴久・中島隆 (2007), 福岡県におけるベンゾイミダゾール系薬剤耐性麦類赤かび病菌の発生と県内に分布する同菌の毒素産生型, 九病虫研会報 53 :125-125. AD
- (10) 金子功・石井英夫 (2005), ムギ類赤かび病菌のストロビルリン系薬剤処理によるalternative oxidase遺伝子の発現誘導, 日植病報(講要) 71 (3) :227. I
- (11) 黒田克利・鈴木啓史 (2009), 三重県におけるチオファネートメチル耐性赤かび病菌の初確認, 関西病虫研報 51 :37-38. AD
- (12) 三上綾子・笹原剛志・石川志保 (2002), イネいもち病, ムギ赤かび病に対する薬剤耐性菌検定, 東北農業成績概要集 平成13年度 :17-7. D
- (13) 向島博行・梅沢順子 (2003), 富山県で発生しているオオムギ赤かび病及び灰色かび病の病原菌に対するチオファネートメチル剤の感受性, 北陸病虫研報 (52) :48. AD
- (14) 向島博行・梅沢順子 (2004), オオムギの赤かび病菌および灰色かび病菌のチオファネートメチル剤に対する感受性検定, 関東東海北陸農業成績概要集 :117-118. CD
- (15) 向島博行 (2006), *B. cinerea*によるオオムギ灰色かび病の発生生態と薬剤感受性, 今月の農業 50 (10) :62. ADE
- (16) 小澤徹・安岡真二・山名利一 (2012), 本邦におけるクレソキシムメチル耐性コムギ赤かび病菌 *Microdochium nivale* の発生, 日植病報(講要) 78 (3) :241. AE
- (17) 須賀晴久・中島隆・景山幸二・百町満朗 (2007), 日本産 *Fusarium graminearum* 種複合体のチオファネートメチル剤耐性調査, 日植病報(講要) 73 (1) :62-63. DGH1
- (18) 須賀晴久・西沢美穂・中島隆・影山幸二・百町満朗 (2010), 単純繰り返し配列マーカーを利用した *Fusarium asiaticum* のチオファネートメチル耐性の伝播機構の解明, 日植病報(講要) 76 (1) :58. I
- (19) 須賀晴久・スコット暁子・景山幸二・百町満朗・中島隆 (2012), チオファネートメチル耐性ムギ類赤かび病菌に対するテブナコナゾール処理効果, 日植病報(講要) 78 (1) :51. E
- (20) 栃木県農業環境指導センター (2011), 麦類赤かび病の薬剤感受性検定結果, 平成22年度業務年報 :149. D
- (21) 吉松英明 (2006), コムギ赤かび病の防除とベンゾイミダゾール系薬剤耐性 1. 大分県におけるチオファネートメチル耐性 *Fusarium graminearum* の発生, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :11-20. AD
- (22) 吉松英明・加藤徳弘 (2002), 麦類赤かび病のチオファネートメチル剤に対する薬剤耐性菌発生実態, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :189-190. D
- (23) 吉松英明・大久保裕行 (2003), 農作物の防除技術(1)普通作物の主要病害虫防除技術 I 麦類病害虫の防除技術の確立(ア)赤かび病の薬剤耐性菌の発生実態調査と防除薬剤の検討, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :
- (24) 吉松英明・大久保裕行・Chung Wen-Hsin・石井英夫・挾間渉 (2005), 大分県におけるチオファネートメチル耐性麦類赤かび病菌の初確認, 九病虫研会報(講要) 51 :94. DEK
- (25) 吉松英明・富村健太・石井英夫・大久保裕行・中島隆・狭間渉 (2006), チオファネートメチル剤に対する *Fusarium graminearum* の耐性菌の初確認と *F. avenaceum* のベースライン感受性, 日植病報(講要) 72 (1) :32. AC

ムギうどんこ病

- (1) 濱村洋・大澤博文・日詰圭 (1998), リンゴ黒星病菌及びコムギうどんこ病菌のクレソキシムメチルに対する感受性検定法, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-8. CD
- (2) 原本雅昇 (2002), シフルフェナミド(NF-149, バンチョ®)感受性検定法とベースラインデータ, 第12回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-27. CDEL
- (3) 武田敏幸・中澤靖彦 (1998), コムギおよびウリ類うどんこ病菌のストロビルリン系薬剤に対する感受性のベースライン, 日植病報(講要) 64 (4) :394. CL

ムギ眼紋病

- (1) 小松勉・田中文夫・美濃健一・清水基滋・立川重彦・林敬介・杉山稔 (2010), コムギ眼紋病菌のシプロジニル水和剤に対する感受性低下について, 北日本病虫研報(講要) 61 :264. AD

ムギ紅色雪腐病

- (1) 岩間俊太・太田恵二 (2002), 病害虫の診断及び生態調査 1)コムギ紅色雪腐病菌の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成13年度 :12-1. D
- (2) 岩間俊太・市田忠夫 (2003), コムギ紅色雪腐病菌の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成14年度 : 2A44002. D

ムギ 条斑病

- (1) 野田聡・藤田耕朗 (2000), 埼玉県におけるコムギ条斑病の発生と防除対策, 埼玉農試研究報告 (52) :63-74. E

オオムギ 雲形病

- (1) D. W. Hollomon・K. Okano・H. Ishii (1998), Detection of Benzimidazole Resistance in *Rhynchosporium secalis* Using Single Strand Conformational Polymorphism (SSCP), Abstr. 9th Inter. Congr. Pestic. Chem. :4D-014. J
- (2) 野田聡 (1999), オオムギ斑葉病の多発要因と種子伝染軽減技術, 今月の農業 43 (8) :40-42. AE

オオムギ 斑葉病

- (1) 植竹恒夫・野田聡 (1998), 埼玉県におけるベノミル剤耐性オオムギ斑葉病菌の出現状況, 関東病虫研報 (45) :

雑穀

トウモロコシ ごま葉枯病

- (1) 泉津弘佑・吉見啓・森田篤・齋藤禎一・鈴木一実・田中千尋 (2012), トウモロコシごま葉枯病菌 (*Cochliobolus heterostrophus*) のフェニルピロール剤およびダイカルボキシイミド剤耐性遺伝子座Dic2およびDic3は、HOG経路と独立に機能する, 日植病報(講要) 78 (1) :43. HIJ
- (2) 田中千尋・宮川恒・桑原保正・津田盛也 (1996), トウモロコシごま葉枯病菌の遺伝的研究(12) 赤褐色ポリオキシン耐性株に特異的に蓄積される二次代謝物について, 日植病報(講要) 62 (3) :284. IN
- (3) Tanaka C.・Miyagawa H.・Kuwahara Y.・Tsuda M. (2002), Accumulation of anthraquinones in the reddish brown-colored polyoxin-resistant mutants of *Cochliobolus heterostrophus*, Mycoscience 43 :317-320. BN
- (4) Tanaka C.・Shimizu K.・Gafur A.・Tsuda M. (2002), Polyoxin Resistance of Reddish Brown Laboratory Mutants of *Cochliobolus heterostrophus*, J. Gen. Plant Pathol. 68 (2) :141-146. BHN
- (5) 田中千尋・津田盛也 (2003), トウモロコシごま葉枯病菌ダイカルボキシイミド耐性菌におけるヒスチデニキナーゼ遺伝子の変異について, 日本農業学会第28回大会講演要旨集 :72. IJ
- (6) Yoshimi A.・Imanishi J.・Gafur A.・Tanaka C.・Tsuda M. (2003), Characterization and genetic analysis of laboratory mutants of *Cochliobolus heterostrophus* resistant to dicarboximide and phenylpyrrole fungicides, J. Gen. Plant Pathol. 69 (2) :101-108. BH

トウモロコシ 南方さび病

- (1) Gafur A.・Tanaka C.・Ouchi S.・Tsuda M. (1996), Genetic studies on the southern corn leaf blight fungus, *Bipolaris maydis* 11. Isolation and genetic analysis of polyoxin-resistant mutants., Ann. Phytopath. Soc. Jpn 62 (3) :283-

いも

ジャガイモ 疫病

- (1) 秋野聖之・廣富大・加藤雅康・林敬介・近藤則夫 (2009), 2001年から2007年に分離された日本産ジャガイモ疫病菌のメタラキシル耐性, 北日本病虫研報(講要) 60 :285. AD
- (2) 忠英一 (1998), ジャガイモ疫病の薬剤防除, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :49-50. E
- (3) 忠英一・松田正利・及川健 (1999), 青森県南部地域におけるジャガイモ疫病菌のフェニルアマイド系薬剤耐性菌の出現とジャガイモ疫病的発生生態, 北日本病虫研報(講要)? (50) :231. D
- (4) 北海道農業 (1999), ジャガイモ疫病菌に新系統が出現, 平成10年度研究成果情報北海道農業 :226-227. A
- (5) 堀田治邦・谷井昭夫 (1998), 日本におけるフェニルアマイド系殺菌剤耐性のジャガイモ疫病菌 (*Phytophthora infestans*) の発生, 北海道立農業試験場集報 (74) :19-26. A
- (6) 加藤雅康・佐藤章夫・高橋賢司・島貫忠幸 (1996), わが国で分布拡大した交配型A2型ジャガイモ疫病菌の性質, 平成7年度新しい研究成果-北海道地域- :69-72. AD
- (7) 加藤雅康・内藤繁男 (1999), 1998年に分離したジャガイモ疫病菌のメタラキシル感受性の系統間比較, 日植病報(講要) 65 (3) :358-359. DG
- (8) 北野のぞみ・柳野利哉 (1999), ジャガイモ疫病の薬剤散布時期と防除効果, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :39-40. E
- (9) 久池井豊 (2008), ジャガイモ疫病菌のフルオピコリドに対する感受性検定法とモニタリング, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :11-18. CD
- (10) Yutaka Miyake・Junetsu Sakai・Masaru Shibata・Norihisa Yonekura・Ichiro Miura・Kazuo Kumakura・Kozo Nagayama (2005), Fungicidal Activity of Benthiavalicarb-isopropyl against *Phytophthora infestans* and Its Controlling Activity against Late Blight Diseases, J. Pestic. Sci. 30 (4) :390-396. CDEL
- (11) 及川健 (1996), ジャガイモ疫病菌の耐性菌発生調査, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :79-80. D
- (12) 及川健 (1997), フェニルアマイド系薬剤耐性菌の検定, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :69-70. D
- (13) 及川健 (1997), 防除薬剤に対する疫病菌の感受性比較, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :71-72. F
- (14) 及川健 (1998), ジャガイモ疫病菌の薬剤耐性菌調査, 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集 :51-52. D
- (15) 菅康弘・仲川晃生 (1999), 暖地ばれいしょ主要病害-線虫の発生生態解明と抵抗性検定法の開発- そうか病、青枯病及び線虫類等の発生生態の解明-ジャガイモ疫病菌のフェニルアマイド系薬剤耐性-, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :26. AI
- (16) 菅康弘・仲川晃生 (2000), フェニルアマイド系薬剤耐性ジャガイモ疫病菌の長崎県における発生, 九病虫研会報(講要) 46 :141. A
- (17) 善正二郎・田久保義和 (2000), 佐賀県上場地域に発生したジャガイモ疫病菌 (*Phytophthora infestans*) に対するメタラキシル耐性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :20-20. A

豆

豆類 灰色かび病

- (1) 杉本光二・三谷滋・荒木智史・小川宗和・林博之・西村昭廣・大橋かおり・松尾憲総(1999), 北海道における豆類灰色かび病フルアジナム感受性低下菌に対するローテーション防除効果, 日植病報(講要) 65(3):358. AEK
- (2) 杉本光二・三谷滋・蒲池健・林博之・山本かおり・坂下信行(2001), 北海道における1998年から2000年までの豆類灰色かび病菌各種薬剤感受性検定結果, 日植病報(講要) 67(2):216-217. ADEKM
- (3) 田村修・佐々木正人・田中文夫・三谷滋・安岡真二・小川宗和(1998), 北海道におけるフルアジナム剤耐性豆類灰色かび病菌の発生, 日植病報(講要) 64(6):580. ADE
- (4) 田村修(2000), マメ類灰色かび病菌フルアジナム耐性と対策, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集:7-16. ACEK

ダイズ 紫斑病

- (1) 青木一美(2007), 茨城県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生とその防除対策, 今月の農業 51(5):23. ADEK
- (2) 本多範行・佐藤陽子(1996), 福井県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生と有効薬剤, 北陸病虫研報(44):65-71. ADE
- (3) 茨城県病害虫防除所(2005), ダイズ紫斑病のチオファネートメチル剤に対する耐性, 茨城県病害虫防除所業務年報:115-116. D
- (4) 飯村茂之・岩館康哉(2008), 岩手県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生状況, 北日本病虫研報(報文) 59:30-33. AD
- (5) 岩田忠康・梅沢順子(2002), 大豆紫斑病チオファネートメチル剤耐性菌率の推移と今後の対策, 北陸病虫研報(講要) 51:38. ADEN
- (6) 今崎伊織・石川浩司・笹原剛志・安田伸子・宮坂篤・小泉信三(2005), ダイズ紫斑病菌の個体群構造に与えるベンゾイミダゾールおよびストロビリン系薬剤の影響, 日植病報(講要) 71(3):248. EK
- (7) Imazaki,I.,Iizumi,H.,Ishikawa,K.,Sasahara,M.,Yasuda,N.,Koizumi,S.(2006), Effect of thiophanate-methyl and azoxystrobin on the compositin of *Cercospora kikuchii* populations with thiophanate-methyl resistance strains, J. Gen. Plant Pathol. 72(5):292-300. K
- (8) Iori Imazaki・Yoshihisa Homma・Masayasu Kato・Shilvia Vallone・Jose Tadashi Yorinori・Ademir Assis Henning・Hiroimi Iizumi・Shinzo Koizumi(2006), Genetic relationships between *Cercospora kikuchii* populations from South America and Japan, Phytopathology 96(9):1000-1008. F
- (9) Iori Imazaki・Kouji Ishikawa・Nobuko Yasuda・Atsushi Miyasaka・Shinji Kawasaki・Shinzo Koizumi(2006), Incidence of thiophanate-methyl resistance in *Cercospora kikuchii* within a single lineage based on amplified fragment length polymorphisms in Japan, J. Gen. Plant Pathol. 72(2):77-84. DJ
- (10) 今崎伊織・小泉信三(2006), ダイズ紫斑病菌のチオファネートメチル剤耐性と個体群生態, 植物防疫 60(7):27-
- (11) 今崎伊織・小泉信三・安田伸子・川上顕(2006), 薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の個体群構造の解析, 平成17年度関東東海北陸農業試験研究成績概要集:302-303. IF
- (12) 井上伊織・石川浩司・安田伸子・宮坂篤・小泉信三(2004), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性 *Cercospora kikuchii* 個体群の遺伝的構造, 日植病報(講要) 70(3):253. H
- (13) 石川浩司・小淵慶司・黒田智久・堀武志・原沢良栄・佐々木行雄(2005), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の密度変化に関する要因, 日植病報(講要) 71(3):248. K
- (14) 石川浩司・本間守・小淵慶司・堀武志・原沢良栄(2002), 薬剤散布がチオファネートメチル剤耐性大豆紫斑病菌率に及ぼす影響, 北陸病虫研報(講要)?(51):39. AEEFG
- (15) Yasuya Iwadate(2011), An example of the result utilization of the chemical pest control test for the practical extension to the farmers: 'standards for pest and weed control' in Iwate prefecture as an example, EBC (Evidence-based Control) 研究会誌(7):7-17. E
- (16) 岩間俊太(2003), ダイズ紫斑病の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成14年度:2A44004. D
- (17) 北安代・安達直人・笠島哲(2002), 各種薬剤のダイズ紫斑病に対する防除効果とチオファネートメチル剤耐性菌に及ぼす影響, 北陸病虫研報(講要)?(51):38. ADE
- (18) 小西りつ子・小泉信三・今崎伊織・鈴木倫子・古屋廣光・内藤秀樹・藤晋一(2009), Fluorescent Primer-introduced Restriction Enzyme Analysis (F-PIRA) PCRによるダイズからのチオファネートメチル剤耐性紫斑病菌の検出, 日植病報(講要) 75(1):62. C
- (19) 松本みゆき・今井史歩・渡邊健(2004), 茨城県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の出現, 関東病虫研報(51):11-14. AD
- (20) 門間陽一・笹原剛志・石井英夫・小泉信三(2003), 宮城県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生, 北日本病虫研報(54):47-50. A
- (21) 門間陽一・石井英夫・小泉信三・古池伸代・笹原剛志・安田伸子・宮坂篤(2003), ダイズ紫斑病菌におけるベンゾイミダゾール系薬剤耐性の遺伝子解析と宿主幼苗を用いた感受性検定法の検討, 日植病報(講要) 69(3):299. CIJ
- (22) 門間陽一(2004), 宮城県におけるチオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生実態, 今月の農業 48(4):
- (23) 本橋みゆき・渡邊健・上田康郎(2005), 薬剤耐性ダイズ紫斑病に対する有効薬剤の選定, 茨城農総七農研試験成績概要書:224. E
- (24) 本橋みゆき・渡邊健・上田康郎(2005), 薬剤耐性ダイズ紫斑病の発生状況調査, 茨城農総七農研試験成績概要書:223. D
- (25) 向島博行・斉藤毅・松崎卓志(1997), チオファネートメチル剤耐性ダイズ紫斑病菌(*Cercospora kikuchii*)の出現とその代替薬剤, 日植病報(講要) 63(3):224. DK
- (26) 向島博行(2003), 富山県におけるダイズ紫斑病菌のチオファネートメチル剤耐性の発生経過とその推移並びに今後の防除対策, 今月の農業 47(3):38-42. DEK
- (27) 向島博行(2004), ダイズ紫斑病菌のチオファネートメチル剤耐性とその防除対策, 植物防疫 58(3):1-5. ADEFK
- (28) 野崎匠・吉原茂昭・小橋口慎哉(1996), ダイズ紫斑病菌の薬剤感受性, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集(15):54-55. D
- (29) 小淵慶司・堀武志・原沢良栄(2001), 新潟県におけるダイズ紫斑病チオファネートメチル剤耐性菌の実態, 北陸病虫研報(講要)49:41. ADE

- (30) 岡本博・本多範行 (2004), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性ダイズ紫斑病菌密度と薬剤防除効果, 日植病報(講要) 70 (3) :254. DE
- (31) Yasufumi SAKAI (1999), Optimum Timing of Thiophanate-methyl Application in the Control of Purple Stain on Soybean Seed with Consideration of Development of Resistance, 日植病報 65 (5) :510-514. EK
- (32) 坂本伸子・岩間俊太 (2004), ダイズ紫斑病の薬剤耐性菌分布調査, 東北農業成績概要集 平成15年度 :
- (33) 笹原剛志 (2003), チオファネートメチル耐性ダイズ紫斑病菌に対する代替剤の探索, 東北農業成績概要集 平成14年度 :2C23008. EK
- (34) 笹原剛志・門間陽一 (2003), 宮城県に発生したチオファネートメチル耐性ダイズ紫斑病菌と各種代替剤の効果, 北日本病虫研報(講要) 54 :203. AE
- (35) 笹原剛志 (2006), 各種薬剤のチオファネートメチル耐性菌に対する効果, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52C23001. EK
- (36) 笹原剛志 (2009), チオファネートメチル耐性ダイズ紫斑病菌に対する各種薬剤の効果的な使用方法について, 北日本病虫研報 60 :41-44. AEK
- (37) 柴田夏実・本橋みゆき・渡邊健 (2006), チオファネートメチル耐性ダイズ紫斑病に対する有効な薬剤防除, 関東病虫研報 (53) :5-8. EK
- (38) 柴田夏実・渡邊健・上田康郎 (2006), 薬剤耐性ダイズ紫斑病に対する有効薬剤の選定, 茨城農総セ農研試験成績概要書 :221. EK
- (39) 柴田夏実・渡邊健・上田康郎 (2006), 薬剤耐性ダイズ紫斑病の発生状況調査, 茨城農総セ農研試験成績概要書
- (40) 栃木県農業環境指導センター (2010), ダイズ紫斑病の薬剤耐性検定結果, 平成21年度業務年報 :142. D
- (41) 吉松英明・甲斐伸一郎・塩崎尚美・挾間渉 (2000), 水田転作大豆・麦による農地高度利用と高生産技術 (ア)大豆病害虫の発生実態調査 ②紫斑病の発生実態調査, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :45. D
- (42) 吉松英明・挾間渉 (2001), ダイズ紫斑病に対する防除薬剤の検討, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :83-84.
- (43) 吉松英明・挾間渉 (2001), 薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生実態調査-①, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :
- (44) 吉松英明・挾間渉 (2001), 薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の発生実態調査-②, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :81-82. D
- (45) 吉松英明・小野元治・佐藤義人・挾間渉(2002), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の大分県による初確認, 九州農業研究(講要) 64 :78. AD
- (46) 吉松英明・小野元治・佐藤善人・挾間渉(2002), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性ダイズ紫斑病菌の大分県における初確認, 日植病報(講要) 68 (1) :47. AE
- (47) 青木一美・渡邊健 (2007), 薬剤耐性ダイズ紫斑病に対する有効薬剤の選定、ダイズ紫斑病の新防除技術の開発, 茨城農総セ農研試験成績概要書 :241. K

特用

クワ 縮葉細菌病

- (1) Sato M.・Wei W.・Watanabe K. (2003), Multidrug-resistance plasmid of *Enterobacter cloacae*: transfer to *Erwinia herbicola* on the phylloplane of mulberry and weeds, J. Gen. Plant Pathol. 69 (6) :391-396. IJ

タバコ 野火病

- (1) 河北雄一郎・田口登美子・稲垣善茂・白石友紀・豊田和弘・一瀬勇規(2011), *Pseudomonas syringae* pv. *tabaci*における多剤耐性遺伝子の発現制御と機能解析, 日植病報(講要) 77 (3) :249. IJ

チャ 総説

- (1) 秋田滋・伊藤陽子 (1996), 茶病害における耐性菌問題, 第6回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-

チャ 炭疽病

- (1) 西島卓也 (2005), 静岡県における薬剤耐性菌の発生と防除対策 -茶(チャ)病害の場合-, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-8. AD
- (2) 西島卓也 (2006), チャ炭疽病に対するDMI剤の治療効果と病原菌の薬剤感受性, 植物防疫 60 (12) :29-34. EK
- (3) 徳永太蔵・西八束 (1996), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :59-61. AD
- (4) 徳永太蔵・西八束 (1997), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :61-62. AD
- (5) 徳永太蔵・富濱毅 (1998), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :67-71. AD
- (6) 徳永太蔵・富濱毅 (1999), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :56-58. AD
- (7) 富濱毅 (2003), トップジンM水和剤耐性炭疽病・輪斑病菌に対する各種殺菌剤の抗菌活性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :215-216. EK

チャ 輪斑病

- (1) 尾松直志・田中敏弘・富濱毅・野中壽之 (2010), ストロビルリン系殺菌剤の散布は茶園におけるQoI耐性輪斑病菌を速やかに蔓延させる, 日植病報(講要) 76 (3) :186. EFG
- (2) 尾松直志 (2011), 多様な薬剤耐性表現型のチャ輪斑病菌に対する薬剤の防除効果, 日植病報(講要) 77 (3) :163. E
- (3) 尾松直志・富濱毅・野中壽之 (2012), 鹿児島県内の茶園におけるストロビルリン系薬剤とベンゾイミダゾール系薬剤に耐性を示すチャ輪斑病菌の発生実態と薬剤の防除効果, 日植病報 78 (1) :3-9. ADE
- (4) 尾松直志 (2012), 鹿児島県内の茶園におけるストロビルリン系薬剤耐性チャ輪斑病菌の発生実態と薬剤の防除効果, 植物防疫 66 (1) :39-42. CD

- (5) 尾松直志・土岐星児郎 (2012), QoI剤耐性チャ輪斑病菌発生ほ場におけるピリベンカルブ水和剤の防除効果, 茶業技術研究 第114号(別冊):80-81. DE
- (6) 園田亮一・山田憲吾 (2012), 2009-2011年の静岡県牧ノ原台地におけるQoI剤耐性チャ輪斑病菌の分布, 日植病報(講要) 78 (3) :200. D
- (7) 外側正之・西島卓也・片山晴喜 (2010), 静岡県におけるストロビルリン系剤耐性チャ輪斑病菌の発生, 日植病報(講要) 76 (3) :154. AD
- (8) 外側正之・小杉由紀夫・芳賀一 (2011), 2010年静岡県におけるストロビルリン系剤耐性チャ輪斑病菌の発生状況, 日植病報(講要) 77 (3) :163. D
- (9) 外側正之・小杉由紀夫・芳賀一 (2011), 静岡県におけるストロビルリン系剤耐性チャ輪斑病菌の発生状況, 茶業技術研究 第112号(別冊):128-129. DE
- (10) 外側正之 (2011), アミスター耐性輪斑病菌の発生実態, 静岡県農林技術研究所茶業研究センター平成22年度研究成果発表会講演要旨(講要) :39-41. DE
- (11) 外側正之 (2012), 静岡県におけるストロビルリン系剤耐性チャ輪斑病菌の発生状況, 日植病報(講要) 78 (3) :243. DE
- (12) 外側正之 (2012), 抵抗性病害虫の最新情報～輪斑病とチャノココクモンハマキ～, 静岡県農林技術研究所茶業研究センター平成23年度研究成果発表会講演要旨(講要):33-35. DE
- (13) 徳永太蔵・富濱毅 (1998), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :67-71. AD
- (14) 徳永太蔵・富濱毅 (1999), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :56-58. AD
- (15) 徳永太蔵・西八束 (1997), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :61-62. AD
- (16) 富濱毅 (2003), トップジンM水和剤耐性炭疽病・輪斑病菌に対する各種殺菌剤の抗菌活性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :215-216. EK
- (17) 山田憲吾・園田亮一 (2010), 静岡県牧ノ原台地におけるQoI剤耐性チャ輪斑病菌の分布, 日植病報(講要) 76 (3) :186. D
- (18) 山田憲吾・園田亮一 (2011), チャ輪斑病菌のQoI剤中度耐性菌の検出, 日植病報(講要) 77 (3) :163. ACJ
- (19) 山田憲吾・園田亮一 (2012), チャ輪斑病菌のチトクロームb遺伝子の構造, 日植病報(講要) 78 (3) :238. HIJ

チャ 赤焼病

- (1) 富濱毅 (2003), チャ赤焼病細菌のバイオフィルム形成と薬剤耐性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :209-
- (2) Tsuyoshi Tomihama・Yatsuka Nishi・Kei Arai (2007), Biofilm formation and resistance to bactericides of *Pseudomonas syringae* pv. *theae*, J. Gen. Plant Pathol. 73 (3) :193-196. N

テンサイ 褐斑病

- (1) 秦谷敏之・岡村充康・土屋貞夫・宍戸弘美・久津間誠一・平松基弘 (2004), テトラコナゾール連用散布圃場より分離したテンサイ褐斑病菌の薬剤感受性, 日植病報(講要) 70 (1) :79. D
- (2) 彦田岳士・平田哲也・平田明靖・内野浩克・渡辺英樹 (1999), *Cercospora beticola* のDMI剤感受性とジフェノコナゾールのテンサイ褐斑病に対する防除効果, 日植病報(講要) 65 (3) :403. DEL
- (3) 清水基滋 (2006), DMI剤の連用がテンサイ褐斑病菌の薬剤感受性に及ぼす影響, 北日本病虫研報(報文) 57 :
- (4) 清水基滋 (2006), 北海道における耐性菌の発生事例ーテンサイ褐斑病の場合ー, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-10. A
- (5) 清水基滋 (2007), テンサイ褐斑病菌のDMI剤耐性, 植物防疫 61 (8) :15-19. DEK
- (6) 清水基滋 (2008), DMI剤の連用にとまうテンサイ褐斑病の薬剤感受性の検討, 今月の農業 52 (5) :58. DEK
- (7) 内野浩克・彦田岳士・渡辺英樹・神沢克一 (1999), ジフェノコナゾールおよびチオファネートメチル連続散布圃場より分離されたテンサイ褐斑病菌の両剤に対する感受性, 日植病報(講要) 65 (3) :403. EG

コンニャク 根腐病

- (1) 柴田聡 (2004), メタラキシル剤効果低下圃場における同剤耐性コンニャク根腐病菌の経年検出, 関東東海北陸農業成績概要集 :110-111. D
- (2) 漆原寿彦・柴田聡 (2007), コンニャク根腐病とミョウガ根茎腐敗病のメタラキシル剤耐性菌の出現と防除対策, 植物防疫 61 (7) :11-15. AEK
- (3) 漆原寿彦・柴田聡 (2007), コンニャク根腐病とミョウガ根茎腐敗病のメタラキシル剤耐性菌問題, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :11-18. AD

キノコ *Penicillium*属菌

- (1) 富樫巖 (1999), 北海道のキノコ栽培施設で分離されたペンズイミダゾール系薬剤耐性 *Penicillium crustosum*, 日菌報 40 (1) :11-13. AM

野菜

野菜類 総説

- (1) 石井英夫 (2000), 植物病原菌のストロビルリン系薬剤耐性菌と耐性機構に関する考察, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :43-52. AIJ
- (2) 粕山新二 (2000), 岡山県における野菜病害と耐性菌, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-
- (3) 岡田清嗣・古川真 (2008), 野菜類の耐性菌の実態とその対策 ー大阪府の事例ー, 日本農業学会誌 33 (3) :326-329. CDK
- (4) 白石慎 (2000), シモキサニルの作用機構と耐性菌対策, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :17-26. AC
- (5) 嘉儀隆・草刈真一 (1998), 最近10年間における野菜・花き病害の防除技術の変遷, 関西病虫研報 (40) :19-24.

野菜類 灰色かび病

- (1) 茨城県病害虫防除所(1998), 施設野菜から分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 業務年報(H10):127-130. D
- (2) 茨城県病害虫防除所(1999), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性 ア. 3系統薬剤の検定, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成11年度):114-
- (3) 茨城県病害虫防除所(1999), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性 イ. フルジオキソニル剤及びメパニピリム剤の検定, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成11年度):116-117. AD
- (4) 茨城県病害虫防除所(1999), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性 ウ. 薬剤耐性菌の出現と薬剤散布状況, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成11年度):118-119. DN
- (5) 茨城県病害虫防除所(2000), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性 ア. 3系統薬剤の検定, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成12年度):116-
- (6) 茨城県病害虫防除所(2000), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性 新系統薬剤セイビアーフロアブル20,フルピカフロアブルの検定, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成12年度):118-119. DN
- (7) 茨城県病害虫防除所(2001), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成13年度):109-111. ADN
- (8) 茨城県病害虫防除所(2002), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成14年度):118-119. ADN
- (9) 茨城県病害虫防除所(2003), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成15年度):110-111. AD
- (10) 茨城県病害虫防除所(2005), 施設野菜より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 茨城県病害虫防除所業務年報:114-115. D
- (11) 金炳燮・朴恩雨・趙匡衍(2000), 韓国におけるベンズイミダゾール, ジカルボキシイミド及びN-フェニルカーバメート系の殺菌剤に対する感受性と抵抗性の灰色かび病菌の動態解析(英文), 日本農薬学会誌 25(4):385-386. DL
- (12) 長浜恵・三澤知央・池田幸子・前田和子・楠田陽子・黒澤健治・松浦準(2001), 北海道内における薬剤耐性灰色かび病菌の分布およびその発生推移, 北日本病虫研報(52):101-104. A
- (13) 野島秀伸・山口卓弘(2002), 施設野菜病害虫の環境保全型総合管理技術の開発 3)灰色かび病薬剤耐性菌簡易検定法の検討, 九州沖縄農業試験研究成績概要集:229-230. C
- (14) 清水恵美・小谷綱男・橋本尚・塚本昇市(2000), 石川県におけるカボチャ黒星病菌、メロンつる枯病菌およびトマト灰色かび病菌の薬剤耐性菌の分布, 北陸病虫研報(講要)?(48):64. AD
- (15) 鈴木啓史・黒田克利・尾崎剛一・高垣真喜一(2007), 灰色かび病菌のメパニピリム耐性菌の発生, 日植病報(講要)73(1):66. ADE
- (16) 高垣真喜一・三浦一郎・増田朋世・村松憲通(1997), メパニピリム(KUF-6201)に関する研究(6)メパニピリムに対する灰色かび病菌の感受性検定方法, 日植病報(講要)63(3):224. C
- (17) 矢野和孝・川池直人・川田洋一(2001), 高知県に分布する薬剤耐性灰色かび病菌の種類とジエトフェンカルブ弱耐性菌による防除効果の低下, 高知農技セ研報10:1-9. DEM

野菜類 軟腐病

- (1) Ampaabeng Gyedu KYEREMEH・Toshio KIKUMOTO・Duen-Yau CHUANG・Yuichi GUNJI・Yoshio EHARA(1998), Evaluation of Copper-and Bactericide-resistance among Strains of *Erwinia carotovora* subsp. *carovora*, 日植病報(講要)64(3):198-201. I
- (2) 山口県病害虫防除所(2011), 農薬耐性菌検定実施状況(野菜類軟腐病), 平成22年度農作物有害動植物発生予察年報:19. D

野菜類 その他

- (1) H. Ishii・K. Yano・H. Date・A. Furuta・Y. Sagehashi・T. Yamaguchi・T. Sugiyama・K. Nishimura・W. Hasama(2007), Molecular characterization and diagnosis of QoI resistance in cucumber and eggplant fungal pathogens, Phytopathology 97(11):1458-1466. EIJ

果菜類 総説

- (1) 稲田稔(2004), 九州における耐性菌問題の現状 -施設果菜類を中心として-, 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集:19-26. A
- (2) 石井英夫(2002), 薬剤耐性菌の最近の話題と病害抵抗性誘導に関する研究, 茨城病虫研報(41):1-7. L

果菜類 灰色かび病

- (1) 平嶋隆祥(1996), 果菜類の灰色かび病薬剤耐性菌検定, 平成8年度病害虫発生予察年報:256-259. AE
- (2) 平嶋隆祥(1998), 果菜類の灰色かび病薬剤耐性菌検定, 平成10年度病害虫発生予察年報:100-104. AE
- (3) 稲田稔・脇部秀彦・山口純一郎・松崎正文(1996), 佐賀県における果菜類灰色かび病菌の薬剤感受性分布と中等度および弱耐性菌に対する各薬剤の効果, 日植病報(講要)62(6):642. AD
- (4) 稲田稔・脇部秀彦・山口純一郎・松崎正文(1997), 佐賀県における果菜類灰色かび病菌の薬剤感受性分布と3種殺菌剤の中等度および弱耐性菌に対する薬剤の効果, 九州農業研究(講要)?(59):70. D
- (5) 岡田清嗣(1997), 果菜類灰色かび病菌の簡易検出と薬剤耐性菌モニタリング, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集:28-36. CDK
- (6) 大司さえき(1999), 薬剤耐性に関する試験(1)灰色かび病薬剤耐性菌の発生状況調査, 九州沖縄農業試験研究成績概要集:61. D
- (7) 大司さえき・尾松直志・和泉勝一(1996), 鹿児島県における果菜類の灰色かび病薬剤耐性菌の発生動向, 九州病虫研報(42):17-21. DE

- (8) 大司さえき(1996), 鹿児島県における果菜類の灰色かび病薬剤耐性菌の発生動向, 今月の農業 40 (11) :100-
- (9) 矢吹駿一・福原いずみ・山田正和・中澤靖彦(1997), 神奈川県における施設果菜の薬剤耐性灰色かび病菌の簡易検定法による発生調査, 関東病虫研報 (44) :121-125. CDM
- (10) 吉松英明・挾間渉(1999), 病害虫発生予察事業 (2)病害虫発生予察技術支援対策事業 ア薬剤耐性菌の検定 2)果菜類灰色かび病菌, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :41. D

ウリ類うどんこ病

- (1) 藤田典一・浜田圭一郎・稲垣美穂子・榎吉寿夫・宮原隆・小路口聡・小笠原孝一・門田源一・Dale, S. M.・高松進(1999), ウリ類うどんこ病菌のストロビリリン系薬剤感受性のベースライン検定と感受性モニタリングについて, 日植病報(講要) 65 (6) :692. ACD
- (2) 浜田圭一郎・高松進・中澤靖彦・久能均(1998), MBC耐性ウリ類うどんこ病菌の β -チューブリン遺伝子の塩基配列, 日植病報(講要) 64 (4) :394. HI
- (3) Masahiro Haramoto・Hiroshi Hamamura・Shinsuke Sano・Friedrich G. Felsenstein・Hiroshi Otani (2006), Sensitivity monitoring of powdery mildew pathogens to cyflufenamid and the evaluation of resistance risk, J. Pestic. Sci. 31 (4) :397-404. DC
- (4) 久保深雪・野村研・植草秀敏・北宜裕・武田敏幸(2007), ウリ類うどんこ病菌におけるDMI剤耐性菌の遺伝子診断, 植物防疫 61 (8) :7-10. CHI
- (5) 中澤靖彦・宗和弘(1996), DMI剤耐性ウリ類うどんこ病菌の感受性菌に対する競合力, 日植病報(講要) 62 (3) :
- (6) 小笠原孝一・榎吉寿夫・宮原隆・小路口聡・門田源一・高松進・Dale, S. M. (1999), ストロビリリン系薬剤耐性のウリ類うどんこ病について, 日植病報(講要) 65 (6) :655. ADL
- (7) 高橋尚之(1999), ストロビリリン系薬剤に対するメロン・キュウリうどんこ病菌の感受性, 四国植防 (34) :104. A
- (8) 高橋尚之(2003), ストロビリリン系薬剤耐性ウリ類うどんこ病菌の出現, 四国植防 38 :37-44. AE

ウリ類炭疽病

- (1) 富士真・巻谷剛・政田政士・武田敏幸・宗和弘(2005), 山形県より採取されたウリ類炭疽病菌のベンゾイミダゾール系薬剤に対する感受性と有効薬剤の探索, 関東病虫研報 (52) :122-123. AE

ウリ類 つる枯病

- (1) 折原紀子・岡本昌広・植草秀敏(2012), 三浦半島地区から採集したウリ科つる枯病菌のQoI剤耐性菌検定, 平成23年度試験研究成績書(農業環境) :3-4. AD

トマトうどんこ病

- (1) 内田景子・武田敏幸・富士真・天野徹夫(2001), トマトうどんこ病菌の各種薬剤に対する感受性検定方法, 日植病報(講要) 67 (2) :217. CN

トマト 褐色輪紋病

- (1) 伊達寛敬・片岡英子・谷名光治・井上幸次・那須英夫・粕山新二(2002), トマト褐色輪紋病菌のチオファネートメチルに対する感受性について, 日植病報(講要) 68 (1) :82-83. ADE
- (2) 伊達寛敬・片岡英子・谷名光治・佐々木静江・井上幸次・那須英夫・粕山新二(2004), チオファネートメチル及びジエトフェンカルブに対するトマト褐色輪紋病菌(*Corynespora cassiicola*)の感受性, 日植病報(講要) 70 (1) :7-9.
- (3) 片岡英子・伊達寛敬・谷名光治・佐々木静江・井上幸次・粕山新二(2002), トマト褐色輪紋病菌、キュウリ褐斑病菌のチオファネートメチル、ジエトフェンカルブに対する感受性について, 日植病報(講要) 68 (2) :263-263. ADE
- (4) 佐々木静江・片岡英子・井上幸次・谷名光治・伊達寛敬・那須英夫(2005), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性トマト褐色輪紋病菌の発生圃場における薬剤防除, 日植病報(講要) 71 (3) :247. EK

トマト 灰色かび病

- (1) 福田秀樹(1998), ピーマン果実への接種によるトマト灰色かび病罹病葉からの病原菌の分離同定, 今月の農業 42 (1) :35-37. CD
- (2) 入江和己(1997), 薬剤耐性菌の基本的対策としての複合管理技術 一施設栽培トマトの灰色かび病防除を例に一, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :37-47. KN
- (3) 岩井幹・中澤靖彦・山田正和・萩谷俊一(1997), 千葉県富津地域における薬剤耐性トマト灰色かび病菌の簡易検定結果および防除実態, 関東病虫研報 (44) :113-115. DM
- (4) 神奈川県農業技術センター病害虫防除部(2009), 農薬耐性菌等検定事業 野菜の灰色かび病(トマト灰色かび病を主にベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ、フルジオキシニルに対する耐性菌出現状況), 平成20年度植物防疫事業年報 :140-142. D
- (5) 神奈川県農業技術センター病害虫防除部(2010), 農薬耐性菌等検定事業 野菜の灰色かび病(トマト灰色かび病を主にベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ、フルジオキシニルに対する耐性菌出現状況), 平成21年度植物防疫事業年報 :143-145. D
- (6) 神奈川県農業技術センター病害虫防除部(2011), 農薬耐性菌等検定事業 野菜の灰色かび病(トマト灰色かび病を主にベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ、フルジオキシニルに対する耐性菌出現状況), 平成22年度植物防疫事業年報 :140-142. D
- (7) 神奈川県農業技術センター病害虫防除部(2012), 農薬耐性菌等検定事業 野菜の灰色かび病(トマト灰色かび病におけるプロシミドン、ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル、フルジオキシニルに対する耐性菌出現状況), 平成22年度植物防疫事業年報 :133-134. D
- (8) 久保田まや・竹内純・山田正和・中澤靖彦・堀江博道(1997), 東京都におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性トマト灰色かび病菌の発生状況, 関東病虫研報 (44) :117-119. DM
- (9) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一(1999), ジエトフェンカルブ混合剤耐性トマト灰色かび病菌の発生状況(1998年), 平成10年度 東京農試研究速報 :158-159. AD
- (10) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一(2000), ジエトフェンカルブ混合剤耐性トマト灰色かび病菌の発生状況(1999年), 平成11年度 東京農試研究速報 :. AD

- (11) 黒田克利 (1996), 診断対策 薬剤耐性菌検定実施状況(トマト灰色かび病ーベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ), 平成8年度三重県植物防疫年報 :131. AE
- (12) 黒田克利 (1997), 診断対策 薬剤耐性菌検定実施状況(トマト灰色かび病ーベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ), 平成9年度三重県植物防疫年報 :121. AE
- (13) 黒田克利 (1998), 診断対策 薬剤耐性菌検定実施状況(トマト灰色かび病ーベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ), 平成10年度三重県植物防疫年報 :143. AE
- (14) 黒田克利・富川章(1999), トマト灰色かび病菌の薬剤耐性の推移および孢子形成に及ぼすポリエステル系硬質フィルムの影響, 関西病虫研報 (41) :45-46. D
- (15) 黒田克利 (1999), 診断対策 薬剤耐性菌検定実施状況(トマト灰色かび病ーベノミル、プロシミドン、ジエトフェンカルブ), 平成11年度三重県植物防疫年報 :159. AE
- (16) 松崎幸弘 (2001), トマト灰色かび病の耐性菌検定, 愛媛農試試験成績概要 平成13年度 :248-251. D
- (17) 深山陽子・福原いずみ・永山功 (1996), 多剤耐性トマト灰色かび病菌の発生にともなう現地での発病状況, 関東病虫研報 (43) :103-105. DEM
- (18) 佐藤充通・太田光輝・池田二三高・山田正和・中澤靖彦 (1997), 静岡県におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性トマト灰色かび病菌の発生状況, 関東病虫研報 (44) :131-135. CDM
- (19) 鈴木啓史・黒田克利(2005), 三重県におけるトマト灰色かび病菌のイミノクタジナルベシル酢酸塩及びポリオキシンに対する感受性, 関西病虫研報 47 :65-69. AD
- (20) 栃木県 (1996), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (9) :9-11. AE
- (21) 栃木県 (1997), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (10) :9-11. AE
- (22) 栃木県 (1998), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (11) :6. AE
- (23) 栃木県 (2000), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (13) :9-10. AE
- (24) 栃木県農業環境指導センター (2010), トマト灰色かび病の薬剤感受性検定, 平成21年度業務年報 :143. D
- (25) 山口県病害虫防除所 (2010), 農業耐性菌検定実施状況(トマト灰色かび病), 平成21年度農作物有害動植物発生予察年報 :24. D

トマト 葉かび病

- (1) 出穂美和・野崎匠・濱畑義明 (1999), トマト葉かび病菌の薬剤感受性検定, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集 (18) :山-10. BC
- (2) 萩原寛之・小原敏明・稲見俊一 (2012), 新規殺菌剤ペンチオピラドのトマト葉かび病菌に対する感受性検定法, 日植病報(講要) 78 (3) :241. C
- (3) 窪田昌春・津田新哉 (2012), トマト葉かび病菌の培地上における殺菌剤感受性, 日植病報(講要) 78 (3) :199. C
- (4) 渡辺秀樹 (2009), 岐阜県におけるトマト葉かび病菌のアゾキシストロピン感受性の低下, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :42-49. ACD
- (5) 渡辺秀樹・桑原圭司・杖田浩二・堀之内勇人・石井英夫 (2009), トマト葉かび病におけるアゾキシストロピン耐性菌の発生, 日植病報(講要) 75 (3) :247. ADE
- (6) 渡辺秀樹・桑原圭司・杖田浩二・堀之内勇人・影山幸二・石井英夫 (2010), アゾキシストロピンに耐性を示すトマト葉かび病菌のチトクロームb遺伝子のシークエンス解析, 日植病報(講要) 76 (1) :58. J
- (7) 渡辺秀樹・桑原圭司・杖田浩二・堀之内勇人・石井英夫 (2010), トリフルミゾール耐性トマト葉かび病菌の発生, 日植病報(講要) 76 (3) :155. AD
- (8) 渡辺秀樹 (2011), 岐阜県におけるアゾキシストロピン耐性トマト葉かび病菌の発生動向, 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :2-12. ADEF
- (9) 渡辺秀樹・堀之内勇人・清水薫・桑原圭司 (2012), 岐阜県におけるトマト葉かび病菌のチオファネートメチルおよびジエトフェンカルブに対する感受性, 日植病報(講要) 78 (3) :200-201. A

トマト フザリウム株腐病

- (1) 中山喜一・和氣貴光・森島正二・福田充 (2010), トマトフザリウム株腐病菌 (*Fusarium solani*, Sp. *Eumartii*) の薬剤感受性検定, 関東病虫研報 57 :105-106. D

ナス すすかび病

- (1) 間下なぎさ (1998), 愛知県におけるナスすすかび病に対するDMI剤の防除効果, 関西病虫研報 (40) :113-114. D
- (2) 間下なぎさ (1999), ナスすすかび病に対するDMI剤の防除効果, 今月の農業 43 (10) :80-83. CDE
- (3) 永野敏光・関根崇行・佐藤祐子 (2006), ナスすすかび病の薬剤感受性検定, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52C14001. CD
- (4) 岡田清嗣・瓦谷光男・中曽根渡 (2004), ナスすすかび病菌およびうどんこ病菌のクレソキシムメチル剤薬剤感受性検定, 近畿中国四国農業成績概要集 :03SBC114-03SBC114. D
- (5) 岡田清嗣・古川真・瓦谷光男・中曽根渡 (2006), ナスすすかび病菌のストロビルリン系薬剤感受性調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC121. D
- (6) 岡田知之・下元祥史・矢野和孝・森田泰彰 (2012), ボスカリド耐性ナスすすかび病菌の発生, 日植病報(講要) 78 (1) :56. A
- (7) 岡田知之・下元祥史・矢野和孝・森田泰彰 (2012), PCR-REL法によるボスカリド耐性ナスすすかび病菌の検出とペンチオピラドとの交叉耐性の検定, 日植病報(講要) 78 (3) :199. CJL
- (8) 武田敏幸・富士真・下村正哉・西村久人・石井英夫・天野徹夫 (2001), ストロビルリン系薬剤耐性ナスすすかび病菌の特性, 日本農業学会第26回大会講演要旨集 :82. CIJ
- (9) 徳島県 (1996), 薬剤耐性菌検定事業(ナスすすかび病、イチゴうどんこ病), 農作物有害動植物発生予察事業年報
- (10) 徳島県病害虫防除所 (1996), ナスすすかび病菌のトリフルミゾールに対する感受性調査, 植物防疫事業実績書 :

- (11) 山口純一郎・御厨初子 (1999), DMI耐性ナスすすかび病菌の推移, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :13. F
- (12) 山口純一郎・御厨初子・松崎正文 (1999), DMI系薬剤耐性ナスすすかび病菌の発生と対策, 日植病報(講要) 65 (6) :644. EL
- (13) 山口純一郎・稲田稔・御厨初子・松崎正文 (1999), トリフルミゾール耐性ナスすすかび病菌の発生, 日植病報(講要) 65 (3) :358. ADE
- (14) 山口純一郎・稲田稔・御厨初子・松崎正文 (2001), DMI耐性ナスすすかび病菌の発生推移と防除対策, 佐賀農業センター研報 (31) :61-68. EF
- (15) 山口純一郎 (2001), DMI耐性ナスすすかび病菌の発生とその対策, 今月の農業 45 (7) :81-85. ADK
- (16) 山口純一郎・御厨初子 (2001), アゾキシストロビン剤耐性ナスすすかび病菌の発生, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :29-30. AD
- (17) 山口純一郎 (2005), ナスすすかび病の発生生態と防除, 植物防疫 59 (9) :1-4. AEK
- (18) 矢野和孝・川田洋一 (2004), ストロビルリン系薬剤耐性ナスすすかび病菌に対する数種薬剤の防除効果, 高知農技七研報 13 :21-25. EK
- (19) 矢野和孝・川田洋一・石井英夫 (2005), 高知県におけるPCR-RFLP法を用いたストロビルリン系薬剤耐性ナスすすかび病菌の検出, 四国植防 40 :53-54. CD
- (20) 矢野和孝・川田洋一・石井英夫 (2006), 高知県におけるPCR-RFLP法を用いたストロビルリン系薬剤耐性ナスすすかび病菌の検出, 四国植防 41 :9-13. CD
- (21) 矢野和孝 (2008), ストロビルリン系薬剤耐性ナスすすかび病菌の発生と高知県におけるPCR-RFLP法を用いたその検出, 今月の農業 52 (5) :64. ACDJ
- (22) 吉村あみ・西崎仁博・平山喜彦 (2006), 県内施設栽培ナスにおけるすすかび病薬剤耐性菌の発生調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBE112. D
- (23) 吉村あみ・西崎仁博・平山喜彦・岡山健夫 (2007), 奈良県の施設栽培ナスにおけるすすかび病薬剤耐性菌の発生と各種薬剤の防除効果, 関西病虫研報 49 :51-53. DE

ナス 灰色かび病

- (1) 岡田清嗣・古川真・瓦谷光男・中曾根渡 (2006), ナス灰色かび病菌のストロビルリン系薬剤感受性調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC122. D
- (2) 岡田清嗣・瓦谷光男・中曾根渡 (2006), ナス灰色かび病菌の薬剤耐性菌調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC120. D

ナス 黒枯病

- (1) 下元祥史・隅田茂・西岡久人 (2009), ナス黒枯病菌 (*Corynespora cassiicola*) のチオファネートメチル, ジェトフェンカルブおよびQoI剤に対する感受性, 四国植物防疫研究 (44) :1-5. AE

ピーマン 黒枯病

- (1) 下元祥史・隅田茂・西岡久人 (2009), ピーマン黒枯病菌のチオファネートメチルおよびQoI剤に対する感受性, 四国植物防疫研究 (44) :7-12. AE

トウガラシ 炭疽病

- (1) 金興泰・金俊泰・朴成祐・金在貞・朴殷淑 (2003), 炭疽病防除に使う殺菌剤に対するトウガラシ炭疽病菌の感受性差異, 日本農薬学会第28回大会講演要旨集 :68. DL

キュウリ 総説

- (1) 石井英夫・杉山知子・西村久美子 (2002), キュウリ病害におけるストロビルリン系薬剤耐性菌の分布状況の推移, 日植病報(講要) 68 (1) :74. DEFH

キュウリ うどんこ病

- (1) 天野徹夫 (2000), ストロビルリン系薬剤耐性キュウリうどんこ病菌およびべと病菌の生物学的特性, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :35-42. ACEG
- (2) 芳賀紀之・堀越紀夫・平子喜一 (2006), キュウリうどんこ病菌の薬剤感受性検定, 平成17年度東北農業試験研究成績・設計概要集 :52F15102. CD
- (3) 細川浩靖・山中誉・原本雅昇・佐藤慎亮・横田因・濱村洋 (2006), シフルフェナミド(パンチョ)耐性キュウリうどんこ病菌の発生とその諸性質, 日植病報(講要) 72 (4) :260. AF
- (4) 石井英夫・野口一美・富田恭範・梅本清作・西村久美子 (1999), キュウリうどんこ病菌, べと病菌のストロビルリン系薬剤耐性菌の出現と, 耐性機構に関する1つの考察, 日植病報(講要) 65 (6) :655. AI
- (5) 石井英夫・杉山知子・西村久美子・石川由美 (2001), PCR-RFLPによるストロビルリン系薬剤耐性菌の遺伝子診断, 日植病報(講要) 67 (2) :218. ACH
- (6) H. Ishii, B. A. Fraaije, T. Sugiyama, K. Noguchi, K. Nishimura, T. Takeda, T. Amamo, and D. W. Hollomon (2001), Occurrence and molecular characterization of strobilurin resistance in cucumber powdery mildew and downy mildew, *Phytopathology* 91:1166-1171. AEIJ
- (7) H. Ishii, T. Sugiyama, K. Nishimura and Y. Ishikawa (2002), Strobilurin resistance in cucumber pathogens: persistence and molecular diagnosis of resistance, *Modern Fungicides and Antifungal Compounds* 3: 149-159. ADE
- (8) 石井英夫・Chung, Wen-Hsin・Fountain James Michael・棚橋惠・間佐古将則・三宅律幸 (2006), キュウリうどんこ病菌や灰色かび病菌にみられるチクロームb遺伝子のヘテロプラスミーとストロビルリン系薬剤耐性診断法の問題点, 日植病報(講要) 72 (4) :274.
- (9) 石井英夫・宮本拓也・西村久美子・稲田稔 (2009), キュウリ褐斑病菌及びうどんこ病菌のミトコンドリア電子伝達系阻害剤耐性菌の検定方法, 日本農薬学会大会講演要旨集 :124. CE
- (10) Hideo Ishii・Takuya Miyamoto・Shingo Ushio・Makoto Kakishima (2009), Sensitivity of boscalid-resistant and -sensitive isolates of *Corynespora cassiicola* and *Podosphaera xanthii* to a novel succinate dehydrogenase inhibitor, fluopyram, *Abstr. 1st Japan-Korea Joint Symp.* :135. EL

- (11) 石井英夫・宮本拓也・牛尾進吾・柿島眞 (2010), キュウリ褐斑病菌及びうどんこ病菌のボスカリド高度耐性菌は新規SDHI剤フルオピラムに交差耐性を示さない, 日本農薬学会第35回講要集 :110. EL
- (12) Hideo Ishii・Takuya Miyamoto・Shingo Ushio・Makoto Kakishima (2011), Lack of cross-resistance to a novel succinate dehydrogenase inhibitor, fluopyram, in highly boscalid-resistant isolates of *Corynespora cassiicola* and *Podosphaera xanthii*, Pest Manag. Sci. 67 :474-482. EIL
- (13) 久保美雪・野村研・植草秀敏・武田敏幸・内田景子・北宜裕 (2006), キュウリうどんこ病菌におけるステロール脱メチル化酵素阻害剤(DMI剤)耐性には酵素の活性中心のアミノ酸変異が関係する, 日植病報(講要) 72 (4) :273. J
- (14) 久保深雪 (2007), キュウリうどんこ病菌のDMI剤耐性と分子機構, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :61-68. CDI
- (15) 久保深雪・野村研・植草秀敏・武田敏幸・北宜裕 (2008), 神奈川県におけるキュウリうどんこ病菌のステロール脱メチル化酵素阻害剤(DMI剤)耐性菌の発生実態, 日植病報(講要) 74 (3) :269-270. ACD
- (16) 宮本拓也・石井英夫・富田恭範・小河原孝司 (2009), 茨城県におけるボスカリド剤耐性キュウリうどんこ病菌の発生, 日植病報(講要) 75 (3) :216-217. AD
- (17) Takuya Miyamoto・Hideo Ishii・Yasunori Tomita (2010), Occurrence of boscalid resistance in cucumber powdery mildew in Japan and molecular characterization of the iron-sulfur protein of succinate dehydrogenase of the causal fungus, J. Gen. Plan Pathol. 76 :261-267. ADEIJ
- (18) 野村研・久保美雪・植草秀敏・武田敏幸・内田景子・北宜裕 (2006), ステロール脱メチル化酵素阻害剤(DMI剤)耐性を示すキュウリうどんこ病菌CYP51遺伝子のPCRによる特異的検出, 日植病報(講要) 72 (4) :273-274. IJ
- (19) 野崎匠 (1999), キュウリうどんこ病菌のストロビルリン系薬剤に対する感受性, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集 (18) :山-11. B
- (20) 岡田清嗣・古川真・瓦谷光男・中曾根渡 (2006), キュウリうどんこ病菌のストロビルリン系薬剤感受性調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC114. D
- (21) 武田敏幸・川越洋二・内田景子・富士真・天野徹夫 (1999), ストロビルリン系薬剤に対する耐性菌の発生, 日植病報(講要) 65 (6) :655. AD
- (22) 植草秀敏・折原紀子・野村研・久保田深雪・北宜裕・武田敏幸 (2008), DMI剤耐性度の異なるキュウリうどんこ病菌に対する防除効果の評価と耐性度別検出, 日植病報(講要) 74 (3) :270. CE
- (23) 山口吉博・中野潔・石川和美 (2005), 新潟県におけるキュウリうどんこ病に対するストロビルリン系薬剤の防除効果低下事例について, 北陸病虫研報(講要) 54 :83-83. A

キュウリ 褐斑病

- (1) 伊達寛敬・片岡英子・佐々木静江・谷名光治・井上幸次・粕山新二 (2002), 岡山県におけるキュウリ褐斑病菌のアゾキシストロピンに対する感受性について, 日植病報(講要) 68 (2) :263. AE
- (2) 伊達寛敬・片岡英子・谷名光治・佐々木静江・井上幸次・那須英夫・粕山新二 (2004), 岡山県におけるチオファネートメチル、ジエトフェンカルブ及びアゾキシストロピンに対するキュウリ褐斑病菌の感受性, 日植病報(講要) 70 (1) :古田明子・稲田稔・山口純一郎 (2003), キュウリ褐斑病菌のストロビルリン系薬剤耐性菌の遺伝子診断, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :39-40. BC
- (4) 古田明子・山口純一郎・宗和弘 (2003), 佐賀県のキュウリ病害における薬剤耐性, 九州農業研究 (65) :87. AE
- (5) 古田明子・山口純一郎・稲田稔 (2004), ストロビルリン系薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の他系統薬剤に対する感受性, 九病虫研会報 50 :101-101. EK
- (6) 古田明子 (2011), ボスカリド耐性キュウリ褐斑病菌の発生, 佐賀県研究成果情報 _____ A
- (7) 芳賀紀之・堀越紀夫・平子喜一 (2006), 福島県におけるキュウリ褐斑病菌のジエトフェンカルブ、プロシミドン、アゾキシストロピンに対する感受性, 北日本病虫研報(講要) 57 :220. AK
- (8) 挟間渉 (1996), キュウリ褐斑病菌のベンズイミダゾール系薬剤耐性, 第6回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :25-33. ACDM
- (9) 挟間渉・佐藤通浩 (1996), 九州・沖縄地域における薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生実態, 九州病虫研会報 (42) :26-30. D
- (10) 挟間渉 (1996), 九州・沖縄地域における薬剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生実態, 今月の農業 40 (7) :74-79. DE
- (11) 石井英夫・Fountain James・宮本拓也・西村久美子・富田恭範 (2008), ボスカリド耐性キュウリ褐斑病菌の一部にみられるコハク酸脱水素酵素遺伝子の変異, 日植病報(講要) 74 (1) :38-39. IJ
- (12) 石井英夫・宮本拓也・西村久美子・稲田稔 (2009), キュウリ褐斑病菌及びうどんこ病菌のミトコンドリア電子伝達系阻害剤耐性菌の検定方法, 日本農薬学会大会講演要旨集 :124. CE
- (13) Hideo Ishii・Takuya Miyamoto・Shingo Ushio・Makoto Kakishima (2009), Sensitivity of boscalid-resistant and -sensitive isolates of *Corynespora cassiicola* and *Podosphaera xanthii* to a novel succinate dehydrogenase inhibitor, fluopyram, Abstr. 1st Japan-Korea Joint Symp. :135. EL
- (14) 石井英夫・宮本拓也・牛尾進吾・柿島眞 (2010), キュウリ褐斑病菌及びうどんこ病菌のボスカリド高度耐性菌は新規SDHI剤フルオピラムに交差耐性を示さない, 日本農薬学会第35回講要集 :110. EL
- (15) Hideo Ishii・Takuya Miyamoto・Shingo Ushio・Makoto Kakishima (2011), Lack of cross-resistance to a novel succinate dehydrogenase inhibitor, fluopyram, in highly boscalid-resistant isolates of *Corynespora cassiicola* and *Podosphaera xanthii*, Pest Manag. Sci. 67 :474-482. EIL
- (16) 片岡英子・伊達寛敬・谷名光治・佐々木静江・井上幸次・粕山新二 (2002), トマト褐色輪紋病菌、キュウリ褐斑病菌のチオファネートメチル、ジエトフェンカルブに対する感受性について, 日植病報(講要) 68 (2) :263. ADE
- (17) 北條広・沼田京太・内藤覚・倉田宗良・木村章範・曳地康史 (2005), β -tubulinのディジェネレートプライマーを用いたPCRによるキュウリ褐斑病罹病葉からのベンズイミダゾール系薬剤耐性菌の新たな検出方法, 日植病報(講要) 71 (1) :11-12. K
- (18) 小堀智史・小河原孝司・富田恭範 (2008), キュウリ褐斑病におけるボスカリド耐性菌発生回避の検討, 茨城農総七園研試験成績概要書 :313-314. K

- (19) 小堀智史・小河原孝司・富田恭範・宮本拓也 (2008), ポスカリドに対する高度耐性菌の発生, 茨城農総七園研試験成績概要書 :309-310. AE
- (20) 小堀智史・小河原孝司・富田恭範・宮本拓也 (2008), ポスカリドに対する耐性菌の県内における発生分布, 茨城農総七園研試験成績概要書 :311-312. D
- (21) 近藤誠・永野敏光・高橋智恵子・中村茂雄 (2009), 宮城県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 北日本病虫研報 60 :88-91. AD
- (22) 近藤誠 (2010), 数種薬剤に耐性を持つキュウリ褐斑病菌に対する各種薬剤の防除効果, 北日本病虫研報 61 :76-79. AFE
- (23) 松崎幸弘・篠崎毅 (2000), キュウリ褐斑病の防除対策 キュウリ褐斑病のジエトフェンカルブ剤に対する薬剤感受性, 愛媛農試試験成績概要 平成12年度 :386-387. D
- (24) 松崎幸弘 (2001), キュウリ褐斑病の耐性菌率と薬剤散布履歴の実態, 愛媛農試試験成績概要 平成13年度 :
- (25) 宮本拓也・富田恭範・長塚久 (2006), 薬剤耐性菌の発生実態と各種薬剤の防除効果, 茨城農総七園研試験成績概要書 :433-434. ADE
- (26) 宮本拓也・富田恭範・長塚久 (2007), ストロビルリン系薬剤に対する耐性菌の発生状況, 茨城農総七園研試験成績概要書 :353-354. AD
- (27) 宮本拓也・富田恭範・長塚久 (2007), 耐性菌の頻度の違いによる防除効果の検討, 茨城農総七園研試験成績概要書 :355-356. E
- (28) 宮本拓也・富田恭範・長塚久 (2007), ポスカリドに対する感受性検定法の開発と耐性菌の発生状況, 茨城農総七園研試験成績概要書 :351-352. AD
- (29) 宮本拓也・瀬古隆司・富田恭範 (2007), ポスカリドに対するキュウリ褐斑病菌 (*Corynespora cassiicola*) の感受性検定法, 日植病報(講要) 73 (3) :255. C
- (30) 宮本拓也・小堀智史・小河原孝司・石井英夫・富田恭範・瀬古隆司 (2008), 茨城県内キュウリ産地におけるポスカリド耐性キュウリ褐斑病菌の分布, 日植病報(講要) 74 (3) :270-271. ACD
- (31) 宮本拓也 (2008), 茨城県におけるポスカリド剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :44-51. ACD
- (32) T. Miyamoto・H. Ishii・T. Seko・S. Kobori・Y. Tomita (2009), Occurrence of *Corynespora cassiicola* isolates resistant to boscalid on cucumber in Ibaraki Prefecture, Japan, Plant Pathol. 58 :1144-1151. ACDE
- (33) T. Miyamoto・H. Ishii・G. Stammer・A. Koch・T. Ogawara・Y. Tomita・J. M. Fountaine・S. Ushio・T. Seko・S. Kobori (2010), Distribution and molecular characterization of *Corynespora cassiicola* isolates resistant to boscalid, Plant Pathol. 59 :873-881. ADIJ
- (34) 宮本拓也・富田恭範・小河原孝司 (2010), 茨城県におけるQoI剤耐性キュウリ褐斑病菌の発生状況, 茨城県病虫研報 (49) :74-77. ADE
- (35) 宮本拓也 (2011), ポスカリド剤耐性キュウリ褐斑病菌の茨城県における発生状況とその特徴, 植物防疫 65 (1) :23-27. ACDH
- (36) 長浜恵 (2010), 北海道におけるキュウリ褐斑病菌のアゾキシストロビン耐性, 日植病報(講要) 76 (1) :77. AD
- (37) 長浜恵 (2010), 北海道におけるキュウリ褐斑病菌のポスカリド耐性, 北日本病虫研報(講要) 61 :266. AD
- (38) 長浜恵 (2011), キュウリ褐斑病防除におけるポスカリド水和剤の散布回数と耐性菌出現との関係, 日植病報(講要) 77 (3) :161. ACD
- (39) 中野理子・矢野景子・広田恵介・稲田稔・石井英夫 (2006), 徳島県で最近問題になっているイチゴ炭疽病、キュウリ褐斑病における薬剤耐性菌の出現状況, 四国植防 41 :49-50. D
- (40) 岡田清嗣・古川真・瓦谷光男・中曾根渡 (2006), キュウリ褐斑病菌のベノミルおよびストロビルリン系薬剤耐性菌調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC116. D
- (41) 重松康之・村上要三・篠崎毅 (2002), キュウリ褐斑病に対する有効薬剤の探索 1) キュウリ褐斑病菌の薬剤感受性検定, 愛媛農試試験成績概要 平成14年度 :183-184. D
- (42) 竹内妙子・久保周子・石井英夫 (2006), 千葉県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 関東病虫研報 (53) :55-60. ADE
- (43) 田村収・米本謙悟・広田恵介・青木一彦 (2010), 徳島県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 四国植物防疫研究 (45) :7-12. AE
- (44) 田村収・米本謙悟・広田恵介 (2010), 徳島県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 四国植物防疫研究(講要) (45) :38. AE
- (45) 田村収 (2011), キュウリ褐斑病菌のポスカリド剤に対する感受性, 徳島県立農林水産総合技術支援センター農業研究所ニュース (117) :5. A
- (46) 山岸菜穂・江口直樹 (2009), 下伊那地域のキュウリから分離したキュウリ褐斑病菌の薬剤感受性検定, 関東病虫研報(講要) 56 :140. AD
- (47) 山岸菜穂・川上暢善 (2010), 長野県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 日植病報(講要) 76 (3) :219. D
- (48) 山岸菜穂・川上暢善 (2010), 長野県におけるキュウリ褐斑病菌の数種薬剤に対する感受性, 関東病虫研報 57 :107-109. ADE
- (49) 山口純一郎・古田明子 (2002), キュウリ褐斑病菌のアゾキシストロビン剤に対する耐性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :59-60. A

キュウリ 菌核病

- (1) 壺谷剛・富士真・宗和弘 (2002), キュウリ菌核病菌のチオファネートメチルに対する感受性の低下, 日植病報(講要) 68 (2) :209-209. AEF

キュウリ 炭疽病

- (1) 金磯泰雄 (1998), 薬剤によるキュウリ炭疽病の実用的防除, 四国植防 (34) :19-28. DEK
- (2) 金磯泰雄 (2000), キュウリ炭疽病の効率的な薬剤防除技術, 今月の農業 44 (1) :133-137. DK

キュウリ 灰色かび病

- (1) 岩田直記・山田正和・中澤靖彦・青木篤・澁谷喜久・大野啓 (1997), 群馬県におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性キュウリ灰色かび病菌の発生状況, 関東病害研報 (44) :107-111. DM
- (2) 小野光明・山田正和・中澤靖彦 (1997), 山梨県におけるキュウリおよびブドウの薬剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 関東病害研報 (44) :127-129. DM
- (3) 大司さえき・尾松直志・和泉勝一 (1998), キュウリ圃場における灰色かび病防除薬剤の散布と耐性菌の発生動向, 九州病虫研会報 (44) :26-30. D

キュウリ ベと病

- (1) 石井英夫・野口一美・富田恭範・梅本清作・西村久美子 (1999), キュウリうどんこ病菌, ベと病菌のストロビルリン系薬剤耐性菌の出現と, 耐性機構に関する1つの考察, 日植病報(講要) 65 (6) :655. AI
- (2) 石井英夫・杉山知子・西村久美子・石川由美 (2001), PCR-RFLPによるストロビルリン系薬剤耐性菌の遺伝子診断, 日植病報(講要) 67 (2) :218. ACH
- (3) H. Ishii, B. A. Fraaije, T. Sugiyama, K. Noguchi, K. Nishimura, T. Takeda, T. Amamo, and D. W. Hollomon (2001), Occurrence and molecular characterization of strobilurin resistance in cucumber powdery mildew and downy mildew, Phytopathology 91:1166-1171. AEIJ
- (4) H. Ishii, T. Sugiyama, K. Nishimura and Y. Ishikawa (2002), Strobilurin resistance in cucumber pathogens: persistence and molecular diagnosis of resistance, Modern Fungicides and Antifungal Compounds 3:149-159. ADE
- (5) 勝部和則 (2001), ストロビルリン系殺菌剤耐性キュウリベと病菌の発生と対策, 今月の農業 45 (11) :74-77. AK
- (6) 勝部和則・佐藤衛・堀内誠三 (2001), ストロビルリン系殺菌剤耐性キュウリベと病菌の発生とその防除対策, 北日本病虫研報(講要) (52) :251. AE
- (7) 勝部和則・猫塚修一 (2005), ストロビルリン系殺菌剤耐性キュウリベと病発生圃場における薬剤輪番散布による防除効果, 日植病報(講要) 71 (1) :51. K
- (8) 岡田清嗣・古川真・瓦谷光男・中曾根渡 (2006), キュウリベと病菌のストロビルリン系薬剤感受性調査, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBC115. D
- (9) 佐藤衛 (2002), 野菜ベと病の最近の話題, 植物防疫 56 (12) :1-4. AKN
- (10) 武田敏幸・川越洋二・内田景子・富士真・天野徹夫 (1999), ストロビルリン系薬剤に対する耐性菌の発生, 日植病報(講要) 65 (6) :655. AD

キュウリ 黒星病

- (1) 岩館康哉・吉田雅紀 (2011), キュウリ黒星病に対する各種薬剤の防除効果と本病原菌のチオファネートメチルに対する感受性について, 北日本病虫研報 62 :59-64. ADE

スイカ 炭疽病

- (1) 渡辺貴弘 (2011), スイカ炭疽病菌の薬剤感受性検定, 植物防疫事業年報 :55-58. AD

カボチャ 疫病

- (1) 粕山新二・井上幸次 (1996), フェニルアミド系剤に対するカボチャ疫病菌の感受性低下と有効薬剤の検索, 日植病報(講要) 62 (3) :283. AE

ハクサイ ベと病

- (1) 出穂美和・野崎匠 (1999), ハクサイベと病菌の薬剤感受性検定, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集 (18) :山-12. BC

ハクサイ 軟腐病

- (1) Ampaabeng Gyedu KYEREMEH・Toshio KIKUMOTO・Duen-yau CHUANG・Yuichi GUNJI・Yoshiyuki TAKAHARA (1999), Isolation and Evaluation of Copper-and Bactericide-resistant Mutants of Putative Biocontrol Agents of Soft Rot of Chinese Cabbage, 日植病報 65 (2) :171-176. GN
- (2) フレマンパ・ピンヅェウ・莊敦堯・郡司祐一・高原吉幸・菊本敏雄 (1998), ハクサイ軟腐病に対する銅剤耐性生物防除剤の作出, 日植病報(講要) 64 (4) :385. BG

タマネギ 黒かび病

- (1) 田代暢哉・田中欽二 (1997), カンキツおよびタマネギの黒かび病菌 (*Aspergillus niger*) の薬剤感受性, 日植病報(講要) 63 (3) :224. E

タマネギ 灰色腐敗病

- (1) 西口真嗣・神頭武嗣・入江和己・長田靖之・久野託靖 (2001), 淡路島におけるbenzimidazole系薬剤耐性を示すタマネギ灰色腐敗病菌の分布, 日植病報(講要) 67 (2) :217. ADG
- (2) 西口真嗣・神頭武嗣・入江和己・長田靖之・久野託靖 (2001), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性タマネギ灰色腐敗病菌に対する各種薬剤の防除効果, 関西病虫研報 44 :69. E
- (3) 西口真嗣 (2002), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性タマネギ灰色腐敗病の発生実態と防除, 今月の農業 46 (8) :71-
- (4) 西口真嗣・神頭武嗣・長田靖之・久野託靖・合田薫・入江和己 (2002), 輸入タマネギから分離したタマネギ灰色腐敗病菌のbenzimidazole系薬剤耐性菌の検出, 日植病報(講要) 68 (1) :82. AD
- (5) 山口純一郎・御厨初子 (2001), チオファネートメチル耐性タマネギ灰色腐敗病菌の発生, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :31-32. A
- (6) 山口純一郎・御厨初子・松崎正文 (2002), チオファネートメチル耐性タマネギ灰色腐敗病菌の発生と防除薬剤, 九病虫研会報(講要) 48 :97-97. AE

タマネギ その他

- (1) 入江和己 (1998), タマネギ病害の効率的防除法の開発, 兵庫県立淡路農業技術センター業務年報 :23. AM
- (2) 入江和己 (1999), タマネギ病害の効率的防除法の確立, 兵庫県立淡路農業技術センター業務年報 :14. AE

ネギ さび病

- (1) 佐古勇 (2011), ネギさび病菌に対するDMI剤等の薬剤感受性の年次推移, 日植病報(講要) 77 (1) :60. CD

- (2) 佐古勇 (2012), ネギにおけるDMI剤耐性菌の発生動向と対策, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨 :11-19. ADEK

ネギ 萎凋病

- (1) 佐古勇 (2012), ネギにおけるDMI剤耐性菌の発生動向と対策, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨 :11-19. ADEK

ラッキョウ 乾腐病

- (1) 本多範行・川久保幸雄 (1997), ウイルスフリーのラッキョウ苗から分離した *Fusarium* 菌の病原性、体細胞和合性、ベノミル剤耐性, 日植病報(講要) 63 (6) :520-521. E
(2) 本多範行・川久保幸雄 (1998), ラッキョウのウイルスフリー菌から分離した *Fusarium* 菌の病原性、体細胞和合性およびベノミル剤耐性, 北陸病虫研報 (46) :65-70. D

ニンニク 白斑葉枯病

- (1) 山下一夫 (2011), ニンニク白斑葉枯病に対する数種薬剤の防除効果, 北日本病虫研報(講要) 62 :209. ADE

レタス 灰色かび病

- (1) 楠幹生 (1996), 香川県におけるレタス灰色かび病の各種薬剤に対する耐性菌の発生状況, 今月の農業 40 (11) :
(2) 小木曾秀紀・藤永真史 (2005), レタス灰色かび病菌、菌核病菌の薬剤耐性, 関東病虫研報 (52) :123. AD

レタス ベと病

- (1) 西口真嗣・廣瀬敏晴 (2007), レタスベと病菌のフェニルアמיד系殺菌剤に対する低感受性菌の発生, 日植病報(講要) 73 (3) :254. ADE

レタス 腐敗病

- (1) 小木曾秀紀・清水時哉 (1999), 長野県におけるレタス腐敗病菌の銅耐性およびストレプトマイシン耐性, 日植病報(講要) 65 (3) :369-370. ADE

レタス その他

- (1) 相野公孝・小林尚司・岩本豊・神頭武嗣・松浦克成・橋本好弘・西山芳邦・石川浩一 (2007), チオファネートメチル耐性内生細菌を用いたレタスピッグベイン病に対する薬剤処理との併用効果, 日植病報(講要) 73 (1) :69. EN

ニンジン 白かび病

- (1) D.N.Supurapta・山口公美・荒井啓・岩井久 (1997), *Geotrichum candidum* 分離株間のイミノクタジンおよびクロラミン-Tに対する感受性の比較, 九州病虫研会報 (43) :133-134. N

セルリー 斑点病

- (1) 角野晶大・白井佳代 (2009), セルリー斑点病における薬剤の効果とチオファネートメチル水和剤に対する感受性, 日植病報(講要) 75 (1) :88. ADE
(2) 角野晶大・白井佳代 (2009), セルリー斑点病に対する薬剤の効果と斑点病菌のチオファネートメチル水和剤に対する感受性, 北日本病虫研報 60 :77-81. ADE

ハス 褐斑病

- (1) 金磯泰雄・貞野光弘 (1996), ハス褐斑病菌におけるチオファネートメチル耐性菌の発生とその他薬剤の防除効果, 四国植防 (31) :7-14. AE

ミョウガ 根茎腐敗病

- (1) 漆原寿彦・酒井宏・柳澤幸雄・白石俊昌 (2005), メタラキシル粒剤に対するミョウガ根茎腐敗病菌の感受性低下, 日植病報(講要) 71 (3) :246-247. BDE
(2) 漆原寿彦・柴田聡 (2007), コンニャク根腐病とミョウガ根茎腐敗病のメタラキシル剤耐性菌の出現と防除対策, 植物防疫 61 (7) :11-15. AEK
(3) 漆原寿彦・柴田聡 (2007), コンニャク根腐病とミョウガ根茎腐敗病のメタラキシル耐性菌問題, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :11-18. AD
(4) 矢野和孝 (2010), ミョウガ根茎腐敗病に対するメタラキシルの防除効果低下と室内耐性菌について, 日植病報(講要) 76 (1) :58. B

イチゴ うどんこ病

- (1) Fountaine, J.・Ishii, H.・Uchida, K.・Inada, M.・Tanahashi, M.・Takeda, T.・Ozeki, F.・Nakayama, K. (2006), Development of QoI resistant alleles in populations of strawberry powdery mildew, 日植病報(講要) 72 (4) :259-260.
(2) JM.Fountaine, H.Ishii, K.Uchida, M.Inada, M.Tanahashi, T.Takeda, F.Ozeki, K.Nakayama (2006), Development of QoI resistant alleles in populations of strawberry powdery mildew, Abstr. 11th Intr. Congr. Pestic. Chem. (2) :131.
(3) 後藤知昭 (2003), イチゴうどんこ病DMI剤標的遺伝子の塩基配列の解明, 平成14年度栃木農試環境技術部試験成績書 :38-42. IJ
(4) 後藤知昭・山城都 (2004), DMI剤耐性菌の遺伝子診断法の開発, 平成15年度栃木農試環境技術部試験成績書 :51-53. I, J
(5) 後藤知昭・山城都・内田景子・宗和弘・中山喜一・石井英夫 (2004), GYP51遺伝子上流領域のPCR増幅によるDMI剤耐性イチゴうどんこ病菌 *Sphaerotheca aphansis* var. *aphansis* の検出, 日植病報(講要) 70 (3) :253. CI
(6) 後藤知昭・山城都 (2004), イチゴうどんこ病DMI剤標的遺伝子の塩基配列の解明, 平成15年度栃木農試環境技術部試験成績書 :48-50. I, J
(7) 亀代美香・金磯泰雄 (1996), イチゴうどんこ病の効率的な薬剤防除の確立, 四国農業試験研究成績概要集(病害) :徳島-4-11. DEK
(8) 金磯泰雄・米本謙悟 (1998), イチゴうどんこ病の効率的な薬剤防除の確立, 四国農業試験研究成績概要集(病害) :徳島-4-5. DEN
(9) 金磯泰雄・米本謙悟・久米洋平 (1999), イチゴうどんこ病に対する薬剤の防除効果, 四国植防 (34) :94. E
(10) 金磯泰雄・米本謙悟 (1999), イチゴうどんこ病の効率的な薬剤防除の確立(各種薬剤の散布効果), 四国農業試験研究成績概要集(病害) :徳島-12. E

- (11) 神頭武嗣 (1999), イチゴうどんこ病防除薬剤の付着と薬剤感受性検定, 兵庫農技研報 (47) :32-37. AE
- (12) 中山喜一 (2007), イチゴうどんこ病菌におけるDMI剤耐性菌の遺伝子診断, 植物防疫 61 (8) :11-14. CH
- (13) 岡山健夫・杉村輝彦・松谷幸子・西崎仁博 (1996), イチゴうどんこ病菌のDMI剤に対する感受性の年次変動と防除効果, 日植病報 (講要) 62 (6) :635. DE
- (14) 岡山健夫・松谷幸子・杉村輝彦・杉村輝彦 (1996), リーフディスクおよびランナー先端小葉におけるイチゴうどんこ病菌のDMI剤に対する感受性の評価, 日植病報 (講要) 62 (3) :282. AC
- (15) 太田光輝 (1996), 県内イチゴ産地におけるうどんこ病薬剤耐性菌, 農業技術研究 50 (8) :54-55. A
- (16) 大関文恵・中山喜一・後藤知昭・内田景子・武田敏幸・稲田稔・石井英夫 (2006), 薬剤淘汰試験によるストロビルリン系薬剤耐性イチゴうどんこ病菌の選抜, 日植病報 (講要) 72 (4) :260. BL
- (17) 大関文恵・後藤知昭・中山喜一・生井潔・福田充・内田景子・武田敏幸 (2007), DMI剤耐性イチゴうどんこ病菌の遺伝子診断法, 日植病報 (講要) 73 (3) :212. HI
- (18) 武田敏幸・中澤靖彦 (1996), 植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル (22) イチゴうどんこ病菌, 植物防疫 50 (12) :41-43. C
- (19) 武田敏幸・内田景子・中澤靖彦・山田正和 (1996), イチゴうどんこ病菌のDMI剤に対する感受性分布, 日植病報 (講要) 62 (3) :282. D
- (20) 徳島県 (1996), 薬剤耐性菌検定事業 (ナスすすかび病、イチゴうどんこ病), 農作物有害動植物発生予察事業年報
- (21) 徳島県 (1997), 薬剤耐性菌検定事業 (イネばか苗病、イチゴうどんこ病), 農作物有害動植物発生予察事業年報
- (22) 渡辺貴弘 (2010), イチゴうどんこ病菌の薬剤感受性検定, 植物防疫事業年報 :54-56. D

イチゴ炭疽病

- (1) 平山喜彦・西崎仁博・吉村あみ・岡山健夫 (2007), 保護殺菌剤によるイチゴ炭疽病の体系防除, 関西病虫研報 49
- (2) 平山喜彦 (2009), アゾキシストロビン系薬剤耐性イチゴ炭疽病菌の発生状況と防除対策, 植物防疫 63 (8) :26-30. ACD
- (3) 稲田稔・古田明子・山口純一郎 (2003), アゾキシストロビン剤耐性イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) の発生, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :27-28. A
- (4) 稲田稔・古田明子・山口純一郎 (2004), アゾキシストロビン剤耐性イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) の発生, 日植病報 (講要) 70 (3) :253. AD
- (5) 稲田稔・山口純一郎・古田明子・善正二郎 (2005), ストロビルリン系薬剤耐性イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) に対する各種薬剤の防除効果とビニル雨よけによる体系防除, 日植病報 (講要) 71 (3) :249. EK
- (6) 稲田稔・山田智子・石井英夫・Chung, Wen-Hsin・中野理子・山口純一郎 (2006), イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) のアゾキシストロビン剤耐性検定, 日植病報 (講要) 72 (4) :260. ACD
- (7) 稲田稔 (2006), イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) の伝染と防除対策, 日本植物病理学会九州部会第31回シンポジウム講演集 :13-34. ADEK
- (8) 稲田稔・山口純一郎・古田明子 (2008), 佐賀県におけるストロビルリン系耐性イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) の発生推移, 日植病報 (講要) 74 (3) :270. DE
- (9) 稲田稔・山口純一郎・古田明子 (2008), 佐賀県におけるベンズイミダゾール系剤及びジエトフェンカルブ剤耐性イチゴ炭疽病 (*Glomerella cingulata*) の発生, 九病虫研会報 54 :152-153. ADELM
- (10) 稲田稔・石井英夫・Chung, Wen-Hsin・山田智子・山口純一郎・古田明子 (2008), ストロビルリン系薬剤耐性イチゴ炭疽病菌 [*Colletotrichum gloeosporioides* (*Glomerella cingulata*)] の発生, 日植病報 74 (2) :114-117. ACE
- (11) 稲田稔 (2010), イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定法と耐性菌の発生状況, 植物防疫 64 (12) :12-15. ACD
- (12) 稲田稔 (2010), 寒天平板培地を用いたイチゴ炭疽病菌のアゾキシストロビン剤耐性検定法, 九州沖縄農業研究成績情報 (25) : C
- (13) 稲田稔・山口純一郎・古田明子 (2010), 寒天平板希釈法によるイチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) のアゾキシストロビン剤に対する感受性検定, 日植病報 76 (1) :1-6. CD
- (14) 稲田稔・山口純一郎・古田明子 (2010), ストロビルリン系薬剤耐性イチゴ炭疽病に対する薬剤防除体系, 佐賀県農業試験研究センター研究報告 (36) :19-25. K
- (15) 菊池麻里・小河原孝司・宮本拓也・金田真人・富田恭範 (2009), 茨城県で発生するイチゴ炭疽病菌の菌種とアゾキシストロビン剤耐性菌の発生状況, 日植病報 (講要) 75 (3) :187. AD
- (16) 菊池麻里・小河原孝司・宮本拓也・金田真人・富田恭範・橋本由美 (2010), 茨城県で発生するイチゴ炭疽病菌に対する各種薬剤の防除効果とベノミル剤およびジエトフェンカルブ剤に対する薬剤感受性, 日植病報 (講要) 76 (3) :
- (17) 菊池麻里・小河原孝司・橋本由美・宮本拓也・金田真人・富田恭範 (2010), 茨城県におけるイチゴ炭疽病菌の菌種および数種薬剤に対する耐性菌の発生状況, 茨城県農業総合センター園芸研究所研究報告 (17) :35-42. AE
- (18) 埋橋志穂美・石井英夫・西村久美子・鈴木健・田中千華・平山喜彦・岡山健夫・稲田稔・広田恵介・中山喜一 (2007), イチゴ炭疽病菌における薬剤作用点たんぱく質遺伝子の耐性変異とその普遍性, 日植病報 (講要) 73 (3) :255. HI
- (19) 中野理子 (2006), イチゴ炭疽病菌 (*Glomerella cingulata*) のベノミルに対する薬剤感受性, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :. CD
- (20) 中野理子・矢野景子・広田恵介・稲田稔・石井英夫 (2006), 徳島県で最近問題になっているイチゴ炭疽病、キュウリ褐斑病における薬剤耐性菌の出現状況, 四国植防 41 :49-50. D
- (21) 奈尾雅浩・村上要三・篠崎毅 (2003), イチゴ炭疽病に対する有効薬剤の探索 1) イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定, 愛媛農試試験成績概要 平成15年度 :253-254. D
- (22) 奈尾雅浩 (2005), 愛媛県におけるイチゴ炭疽病 (*Glomerella cingulata*) に対する各種薬剤の防除効果, 日植病報 (講要) 71 (3) :246. DE
- (23) 奈尾雅浩 (2005), 愛媛県におけるイチゴ炭疽病 (*Glomerella cingulata*) に対する薬剤の防除効果, 愛媛農試研報 (39) :50-59. DE

- (24) 奈尾雅浩・楠元智子 (2010), イチゴ炭疽病の防除技術の確立 6)有効薬剤の感受性検定, 平成21年度愛媛県農林水産研究所試験成績概要書 :175-176. AD
- (25) 岡田知子・村本和之 (2006), イチゴ炭疽病の薬剤耐性菌検定, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBK120. D
- (26) 岡山健夫・平山喜彦・西崎仁博 (2007), 選択培地によるベノミル剤耐性イチゴ炭疽病菌 *Glomerella cingulata* の潜在感染株及び育苗培養土からの検出, 日植病報 73 (3) :155-161. N
- (27) 尾松直志・中西善裕 (2007), 鹿児島県におけるアゾキシストロビン剤耐性イチゴ炭疽病の発生, 九病虫研会報 53 :128. ADE
- (28) 尾松直志・末川久 (2010), 親株更新によるイチゴ炭疽病菌のアゾキシストロビン耐性菌率の低下, 日植病報(講要) 76 (1) :29. K
- (29) 折原紀子・植草秀敏 (2009), イチゴ炭疽病の薬剤感受性検定(追補), 平成20年度試験研究成績書(農業環境) :33-34. AD
- (30) 重松康之・村上要三・篠崎毅 (2002), イチゴ炭疽病に対する有効薬剤の探索 1)イチゴ炭疽病菌の薬剤感受性検定, 愛媛農試試験成績概要 平成14年度 :233-234. D
- (31) 栃木県農業環境指導センター (2011), イチゴ炭疽病の薬剤感受性検定結果, 平成22年度業務年報 :150-151. D

イチゴ 灰色かび病

- (1) Fountaine,J.M・Takahashi,K・Nishimura,K・Inada,M・Ishii,H (2007), Heteroplasmy and its Role in QoI Resistant Field Isolates of *Botrytis cinerea*, 日植病報(講要) 73 (3) :254-255. HI
- (2) Hideo Ishii・James Fountaine・Wen-Hsin Chung・Masanori Kansako・Kumiko Nishimura・Kazuhiro Takahashi・Michiyo Ohshima (2009), Characterisation of QoI-resistant field isolates of *Botrytis cinerea* from citrus and strawberry, Pest Manag. Sci. 65 :916-922. ACEIJ
- (3) 岡田知子 (2006), イチゴ灰色かび病の薬剤耐性菌検定, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBK119. D
- (4) 栃木県 (1996), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (9) :9-11. AE
- (5) 栃木県 (1997), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (10) :9-11. AE
- (6) 栃木県 (1998), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (11) :6. AE
- (7) 栃木県 (2000), トマト及びいちごの灰色かび病の薬剤耐性菌の検定, 植物防疫年報(栃木県) (13) :9-10. AE

イチゴ 萎黄病

- (1) 後藤知昭 (2004), イチゴ萎黄病菌のベノミル剤に対する感受性検定, 平成15年度栃木農試環境技術部試験成績書 :3-4. D

果樹

果樹 総説

- (1) 家村浩海 (1998), 最近10年間ににおける果樹病害の防除技術の変遷と課題, 関西病虫研報 (40) :27-28. D
- (2) H. Ishii (1997), Resistance Management in Diseases of Top Fruit, Abstr. Intr. Conf. Resistance '97 :. K
- (3) H. Ishii (1997), Resistance Management in Diseases of Top Fruit in Japan, Pestic. Sci. (51) :383-386. K
- (4) 石井英夫 (2009), 果樹病害研究における課題と展望(薬剤耐性菌を中心に), 寒冷地果樹研究会資料:45-48. K

果樹 炭疽病

- (1) Wen-Hsin Chung・石井英夫・西村久美子・深谷雅子・矢野和孝・梶谷裕二(2005), 各種果樹から分離された炭疽病菌の薬剤感受性検定とrDNA-ITSの解析, 日植病報(講要) 71 (1) :34. ADJ
- (2) Wen-Hsin Chung・Hideo Ishii・Kumiko Nishimura・Masako Fukaya・Kazutaka Yano・Yuji Kajitani(2006), Fungicide sensitivity and phylogenetic relationship of anthracnose fungi isolated from various fruit crops in Japan, Plant Dis. 90 (4) :506-512. J
- (3) 石井英夫・深谷雅子・岩本晋・西村久美子(1998), 各種植物から分離された炭疽病菌の薬剤感受性その他諸性質の比較, 日植病報(講要) 64 (4) :395. AJMN
- (4) H.Ishii・S.Iwamoto・K.Nishimura・M.Fukaya(1998), Comparative studies on fungicide sensitivity and other characteristics in *Colletotrichum* isolated from various plant species, Proc. 1998 Brighton Conf. Pests & Dis. :
- (5) 矢野和孝・川田洋一・佐藤豊三 (2005), 薬剤感受性の差を利用したベンズイミダゾール系薬剤中等度耐性 *Colletotrichum gloeosporioides* の判別法, 四国植防 40 :1-4. C

カンキツ 青かび病・緑かび病

- (1) 安達喜一・中畝良二・阿久津克己・日比忠明(1996), DMI剤耐性カンキツ緑かび病菌株の多剤耐性, 日植病報(講要) 62 (3) :284. IL
- (2) 濱本宏・長谷川浩司・縄田治・中畝良二・阿久津克己・日比忠明 (1999), ABCトランスポーター遺伝子を再導入したカンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* におけるDMI剤耐性, 日植病報(講要) 65 (3) :344. HI
- (3) 濱本宏・長谷川浩司・中畝良二・李榮珍・牧住芳之・阿久津克己・日比忠明 (1999), カンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* におけるDMI剤耐性の分子機構, 日植病報(講要) 65 (6) :654-655. HJ
- (4) 長谷川浩司・濱本宏・中畝良二・李榮珍・牧住芳之・阿久津克己・日比忠明 (1999), カンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* におけるDMI剤標的酵素P45014DM遺伝子(CYP51)のクローニングとその構造解析, 日植病報(講要) 65
- (5) 加藤光弘・石井香奈子 (2011), 貯蔵病害(青かび病・緑かび病)の薬剤感受性検定, 静岡県農林技術研究所成績概要集(果樹編) (222) :197-198. C
- (6) 松崎雄一・中畝良二・濱本宏・阿久津克己・日比忠明 (2004), カンキツ緑かび病菌における2種の新たなABCトランスポーター遺伝子の機能:病原性に関わるPMR3と薬剤耐性に関わるPMR4, 日植病報 70(講要) (3) :203. I
- (7) 中田孝江・三好孝典・清水伸一 (2003), カンキツ貯蔵病害の発生と防除に関する研究(3)カンキツ緑かび病菌のベンズイミダゾールとイミノクタジン酢酸塩耐性菌検定, 常緑果樹試験研究成績概要集 :49-50. A
- (8) 中畝良二・縄田治・安達喜一・阿久津克己・日比忠明 (1997), カンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* のDMI剤耐性におけるP-glycoprotein遺伝子の関与, 日植病報(講要) 63 (3) :225. J

- (9) 中畝良二・安達喜一・富山雅光・長谷部亮・阿久津克己・日比忠明(1997), 灰色かび病菌 *Botrytis cinerea* およびカンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* のP-glycoprotein遺伝子のクローニング, 日植病報(講要) 63(3):225. J
- (10) 中畝良二・濱本宏・長谷川浩司・阿久津克己・日比忠明(1999), カンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* のファイトアレキシン耐性に関与するABCトランスポーター遺伝子, 日植病報(講要) 65(3):344-345. H
- (11) Ryoji NAKAUNE (2001), ABC Transporter Genes Involved in Multidrug Resistance in *Penicillium digitatum*, J. Gen. Plant Pathol. 67(3):251. BHI
- (12) 中畝良二(2001), カンキツ緑かび病菌のABCトランスポーター遺伝子に関する研究, 日植病報(講要) 67(2):70-
- (13) 中畝良二(2003), カンキツ緑かび病菌のABCトランスポーターによる薬剤耐性機構, 日本農薬学会第28回大会講演要旨集 :23. IJ
- (14) 縄田治・中畝良二・阿久津克己・日比忠明(1998), カンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* のDMI剤耐性とP-glycoprotein 遺伝子の発現, 日植病報(講要) 64(4):367. HJ
- (15) 田代暢哉・井下美加乃・衛藤有紀(1996), ベンズイミダゾール系薬剤高度耐性カンキツ緑かび病菌の出現園における同系薬剤の防除効果の減退, 日植病報(講要) 62(3):283. AE
- (16) 田代暢哉・井手洋一・井下美加乃(2008), 収穫期のベンゾイミダゾール系薬剤散布前のハウスミカン園および極早生温州ミカン園における同系薬剤耐性緑かび病菌の検出状況と同系薬剤による防除効果の低下, 日植病報 74(2):89-96. ADP
- (17) 田代暢哉・正司和之・山口正洋(2011), 2010年に果実腐敗防止剤散布前のカンキツ園から分離された緑かび病菌のベンゾイミダゾール系薬剤に対する感受性, 日植病報(講要) 77(3):162. ACE
- (18) 山口県病害虫防除所(2011), 農薬耐性菌検定実施状況(カンキツ緑かび病、青かび病), 平成22年度農作物有害動植物発生予察年報 :18-19. D

カンキツ 黒かび病

- (1) 田代暢哉・田中欽二(1997), カンキツおよびタマネギの黒かび病菌 (*Aspergillus niger*) の薬剤感受性, 日植病報(講要) 63(3):224. E

カンキツ こうじかび病

- (1) 田代暢哉・井出洋一・納富麻子(2004), ハウスミカンの果実腐敗を引き起こすこうじかび病菌 *Aspergillus niger* と *A. flavus* のイミノクタジン酢酸塩およびベノミルに対する感受性と両剤の混用散布による防腐効果の向上, 日植病報
- (2) 田代暢哉・井手洋一(2007), ハウスミカンの果実腐敗を引き起こすこうじかび病菌 *Aspergillus niger* のイミノクタジン酢酸塩およびベノミルに対する感受性と両剤の混用による抗菌活性の増大, 日植病報(講要) 73(3):191. E

カンキツ そうか病

- (1) 阿万暢彦(1996), カンキツそうか病菌の薬剤感受性検定法および各種防除剤による効果の検討, 九州農業研究(58):90. DE
- (2) 河野真寿代・橋泰宣・三好孝典(1996), カンキツそうか病菌のベンズイミダゾール耐性菌ほ場における主要薬剤の防除効果の確認—薬剤の種類と防除時期の関係, 常緑果樹試験研究成績概要集 :5-6. AE
- (3) 河野真寿代・橋泰宣・三好孝典(1996), カンキツそうか病菌のベンズイミダゾール耐性菌検定, 常緑果樹試験研究成績概要集 :3-4. A
- (4) 中田孝江・三好孝典・清水伸一(1999), カンキツそうか病菌のベンズイミダゾールとフルアジナム耐性菌検定, 常緑果樹試験研究成績概要集 :17-18. A

カンキツ 炭疽病

- 田代暢哉・稲田稔・井手洋一・中島貞彦・正司和之(2010), ベンゾイミダゾール系薬剤耐性カンキツ炭疽病の発生, 日植病報(講要) 76(3):186. AE

カンキツ 貯蔵病害

- (1) 古賀敬一・大石孝儀・難波信行(1998), カンキツ果実腐敗の異常発生原因と防除薬剤の特性, 日植病報(講要) 64(6):591-592. AE
- (2) 塩崎弘子(1996), 貯蔵病害における薬剤耐性菌, 柑橘 48(11):40-46. AD
- (3) 田代暢哉(1998), カンキツ果実腐敗の多発要因とその対策, 今月の農業 42(11):144-147. AE

カンキツ 灰色かび病

- (1) Hideo Ishii・James Fountaine・Wen-Hsin Chung・Masanori Kansako・Kumiko Nishimura・Kazuhiro Takahashi・Michiyo Ohshima(2009), Characterisation of QoI-resistant field isolates of *Botrytis cinerea* from citrus and strawberry, Pest Manag. Sci. 65:916-922. ACEIJ
- (2) 間佐古将則・米田義弘・島津康・石井英夫(2005), カンキツ灰色かび病菌のストロビルリン系薬剤耐性菌の出現, 日植病報(講要) 71(3):249. AD
- (3) 中畝良二・安達喜一・富山雅光・長谷部亮・阿久津克己・日比忠明(1997), 灰色かび病菌 *Botrytis cinerea* およびカンキツ緑かび病菌 *Penicillium digitatum* のP-glycoprotein遺伝子のクローニング, 日植病報(講要) 63(3):225. J
- (4) 島津康・間佐古将則・家村浩海(1998), カンキツ灰色かび病菌のイプロジオン耐性菌率と防除効果の関係, 関西害虫研報(40):99-100. DE

カンキツ かいよう病

- (1) 加藤光弘・太田光輝・後藤正夫(1999), 静岡県におけるカンキツかいよう病菌のマンニトール分解能およびストレプトマイシン耐性, 日植病報(講要) 65(3):369. AD
- (2) 三好孝典・越智正勝(1997), カンキツかいよう病の生態と防除に関する研究(6)カンキツかいよう病菌の銅およびストマイ耐性菌検定, 常緑果樹試験研究成績概要集 :45-46. A

カンキツ その他

- (1) 田代暢哉(2000), カンキツ病害防除における新しい薬剤防除法の試み, 今月の農業 44(5):43-52. E

リンゴ 総説

- (1) 藤田孝二(1998), リンゴ病害における耐性菌問題と新規薬剤の使用法, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :36-44. ADK
- (2) 石井英夫(1997), 植物病原菌の薬剤耐性の現状と今後—リンゴ病害を中心に—, 平成8年度果樹課題別研究会資料(寒冷地果樹) :53-58. N

- (3) 小池英彦 (1997), リンゴ病害防除剤に対する耐性菌発現の現状—長野県での事例を主に, 今月の農業 41 (8) :

リンゴ 褐斑病

- (1) 足立嘉彦・土師岳・伊藤伝・高梨祐明 (2009), 岩手県におけるリンゴ褐斑病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する感受性について, 北日本病虫研報(講要) 60 :289. CD
- (2) 足立嘉彦・土師岳・伊藤伝・高梨祐明 (2010), リンゴ褐斑病菌のストロビルリン系殺菌剤クレソキシムメチルに対する感受性, 東北農研報告 111 :85-88. CD
- (3) 足立嘉彦 (2010), QoI剤に対する薬剤耐性発達リスクの評価, 岩手県における農薬50%削減リンゴ栽培マニュアル(農研機構技術紹介パンフレット) :10-11. AD
- (4) 茨城県病害虫防除所 (2011), リンゴ褐斑病, 茨城県病害虫防除所業務年報 :102. AD
- (5) 亀川展枝・田中秀平・伊藤真一・亀谷満朗 (1999), チオファネートメチル耐性リンゴ褐斑病菌(*Diplocarpon mali*)の検出, 日植病報(講要) 65 (6) :692. AD
- (6) 佐藤裕 (1999), リンゴ褐斑病に関する試験(2)ベンズイミダゾール系薬剤およびジエトフェンカルブに対する感受性検定, 秋田果試業務報告 (43) :52-53. B
- (7) 佐藤裕・水野昇 (1999), リンゴ褐斑病菌のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌の出現, 日植病報(講要) 65 (6) :
- (8) 佐藤裕・水野昇 (2001), ベンズイミダゾール系薬剤耐性リンゴ褐斑病菌の出現, 秋田果試研報 27 :14-23. AE
- (9) 佐藤裕・本郷公子 (2006), リンゴ褐斑病の薬剤耐性菌に関する試験
1. 褐斑病に対するポリオキシシAL水和剤の防除効果について, 平成17年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :
- (10) 佐藤裕・本郷公子 (2006), リンゴ褐斑病に対するポリオキシシAL水和剤の防除効果, 北日本病虫研報(講要) 57 :
- (11) Tanaka S.・Kamegawa N.・Ito S.・Kameya-Iwaki M. (2000), Detection of Thiophanate-methyl-resistant Strains in *Diplocarpon mali*, Causal Fungus of Apple Blotch, J. Gen. Plant Pathol. 66 (1) :82-85. AE

リンゴ 黒星病

- (1) 濱村洋・大澤博文・日詰圭 (1998), リンゴ黒星病菌及びコムギうどんこ病菌のクレソキシムメチルに対する感受性検定法, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-8. CD
- (2) 片山雅雄・向島博行・斎藤毅 (1997), 富山県小杉地域におけるリンゴ黒星病の多発要因について, 北陸病虫研報 (45) :23-26. D
- (3) Shirane N.・Takenaka S.・Ueda K.・Hashimono Y.・Kato K.・Ishii H. (1996), Sterol analysis of DMI-resistant and sensitive strains of *Venturia inaequalis*., Phytochemistry 41 (5) :1301-1308. I

リンゴ 炭疽病

- (1) 川合康充・近藤賢一・岡沢克彦・宮沢孝幸(2000), *Colletotrichum acutatum*によるリンゴ炭疽病の長野県における分布, 関東病虫研報 (47) :79-81. N
- (2) 酒井宏・吉岡正明・堀込充・漆原寿彦・白石俊昌 (2002), リンゴ炭疽病菌 *Colletotrichum acutatum*の群馬県における分布, 関東病虫研報 (49) :55-57. N

リンゴ 斑点落葉病

- (1) 足立嘉彦・土師岳・伊藤伝・高梨祐明 (2009), 岩手県南部におけるリンゴ斑点落葉病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する感受性について, 日植病報(講要) 75 (3) :245. AD
- (2) 足立嘉彦・土師岳・伊藤伝・高梨祐明 (2010), 2005~2008年にQoI剤を年4~5回散布した実験園におけるリンゴ斑点落葉病菌および褐斑病菌のQoI剤感受性の推移, 日植病報(講要) 76 (1) :46. EFG
- (3) 足立嘉彦 (2010), QoI剤に対する薬剤耐性発達リスクの評価, 岩手県における農薬50%削減リンゴ栽培マニュアル(農研機構技術紹介パンフレット) :10-11. AD
- (4) 浅利正義 (1996), リンゴ斑点落葉病の薬剤耐性について, 今月の農業 40 (4) :30-34. ADEK
- (5) 小池英彦・川合康充・近藤賢一 (1998), リンゴ斑点落葉病菌のキャプタンに対する感受性, 日植病報(講要) 64 (4) :393. ADE
- (6) 對馬由記子・石井英夫・福士好文・赤平知也 (2005), リンゴ斑点落葉病菌のクレソキシムメチル剤に対する感受性とチトクロームb遺伝子のシークエンス解析, 日植病報(講要) 71 (3) :249-250. AFJ
- (7) 對馬由記子・福士好文・赤平知也 (2005), リンゴ斑点落葉病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する耐性菌検定
1. 菌糸生育試験及び孢子発芽試験, 平成16年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :29-30. C
- (8) 對馬由記子・福士好文・赤平知也 (2005), リンゴ斑点落葉病のストロビルリン系殺菌剤に対する耐性菌検定
2. 遺伝子診断試験, 平成16年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :31-32. C
- (9) 對馬由記子・福士好文・赤平知也 (2005), リンゴ斑点落葉病のストロビルリン系殺菌剤に対する耐性菌検定
3. 耐性菌の発生実態, 平成16年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :33-34. D
- (10) 對馬由記子・福士好文・赤平知也 (2006), リンゴ斑点落葉病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する感受性検定
1. 病原性の確認, 平成17年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :29-30. F
- (11) 對馬由記子・福士好文・赤平知也 (2006), リンゴ斑点落葉病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する感受性検定
2. リンゴ斑点落葉病菌のストロビルリン系殺菌剤に対する感受性検定, 平成17年度寒冷地果樹試験研究成績概要集 :31-32. C
- (12) 對馬由記子・雪田金助・福士好文・赤平知也 (2007), ストロビルリン系薬剤耐性のリンゴ斑点落葉病菌と簡易検定法, 日植病報(講要) 73 (1) :51-52. CE

リンゴ 腐らん病

- (1) 雪田金助 (1998), 青森県におけるリンゴ腐らん病菌のチオファネートメチルに対する感受性, 北日本病虫研報 (49)

リンゴ その他

- (1) 福士好文 (2005), 青森県におけるリンゴの散布回数削減防除体系と耐性菌, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :9-17. EK

ナシ 黒星病

- (1) 藤田剛輝・三瓶尚子・足立嘉彦 (2011), 福島県内で採取したナシ黒星病菌のDMI剤に対する感受性と秋季防除における代替剤の検討, 日植病報(講要) 77 (1) :51. CE

- (2) 福島県病害虫防除所 (2010), ナシ黒星病に対する各種EBI剤の効果確認調査, 植物防疫年報 :121-122. E
- (3) 福島県病害虫防除所 (2011), ナシ黒星病に対するEBI剤等の効果確認調査, 植物防疫年報 :112-113. E
- (4) 福島県病害虫防除所 (2012), ナシ黒星病に対するEBI剤等の効果確認調査, 植物防疫年報 :108-109. E
- (5) 後藤知昭・九石寛之・石井英夫 (2000), 栃木県におけるナシ黒星病菌のDMI剤に対する感受性分布, 関東病虫研報 (47) :83-84. D
- (6) 平野泰志・酒井和彦・野田聡 (2012), ナシ黒星病に対するDMI剤耐性遺伝子(*CYP57*)配列の解析, 日植病報(講要) 78 (1) :28. HIJ
- (7) 茨城県病害虫防除所 (1996), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性について, 業務年報 (H8) :121-122. D
- (8) 茨城県病害虫防除所 (1997), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性について, 業務年報 (H9) :126-127. D
- (9) 茨城県病害虫防除所 (1998), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 業務年報 (H10) :125-126. D
- (10) 茨城県病害虫防除所 (1999), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成11年度) :112-113. AD
- (11) 茨城県病害虫防除所 (2000), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成12年度) :114-115. AD
- (12) 茨城県病害虫防除所 (2001), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成13年度) :109-109.
- (13) 茨城県病害虫防除所 (2002), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成14年度) :118. AD
- (14) 茨城県病害虫防除所 (2003), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 ナシ黒星病菌のDMI剤耐性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成15年度) :109. AD
- (15) 茨城県病害虫防除所 (2003), 発生予察効率化推進事業 新規発生病害虫の発生予察手法の確立 病害虫の診断薬剤耐性菌の検定 フェナリモル耐性ナシ黒星病菌のジフェノコナゾールに対する耐性, 茨城県病害虫防除所 業務年報(平成15年度) :109-110. AD
- (16) 茨城県病害虫防除所 (2005), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所業務年報 :114. D
- (17) 茨城県病害虫防除所 (2006), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所業務年報 :117. D
- (18) 茨城県病害虫防除所 (2007), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所業務年報 :107. D
- (19) 茨城県病害虫防除所 (2008), ナシ黒星病菌のDMI剤感受性, 茨城県病害虫防除所業務年報 :107. D
- (20) 茨城県病害虫防除所 (2009), ナシ黒星病菌のDMI剤に対する感受性, 茨城県病害虫防除所業務年報 :102. E
- (21) 石井英夫・釜堀政男・鳴坂義弘 (1997), ナシ黒星病菌のベンゾイミダゾール耐性の遺伝子診断法の開発をめざして, 日本農薬学会第22回大会講演要旨集 :144. J
- (22) 石井英夫・菊原賢次 (2007), ナシ黒星病菌におけるDMI剤耐性菌の出現, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :49-60. AD
- (23) H. Ishii・M. Kamahori・D. W. Hollomon・Y. Narusaka (1997), DNA-Based Approaches for Diagnosis of Benzimidazole Resistance in *Venturia nashicola*, the Scab Fungus of Japanese Pear, Abstr. Intr. Conf. Resistance '97 :. J
- (24) 石井英夫 (2007), ナシ黒星病防除に関する最近の話題, 平成18年度落葉果樹研究会(病害)資料 :28-37. ACDE
- (25) 石井英夫・菊原賢次 (2007), ナシ黒星病菌のDMI剤耐性, 植物防疫 61 (8) :20-23. ADELK
- (26) 石井英夫・菊原賢次・西村久美子 (2007), ナシ黒星病菌におけるDMI剤耐性菌の出現と薬剤効力の低下, 日植病報(講要) 73 (3) :254. ADE
- (27) 石井英夫・西村久美子 (2007), ナシ黒星病菌のDMI剤耐性, 平成18年度落葉果樹試験研究成績概要集 :32-33.
- (28) 石井英夫・西村久美子・埋橋志穂美・加藤寛(2008), ナシ黒星病菌のDMI剤耐性, 平成19年度落葉果樹試験研究成績概要集 :10-11. ACDEM
- (29) 石井英夫・西村久美子・井手洋一・菊原賢次・加藤寛・埋橋志穂美 (2008), DMI剤耐性ナシ黒星病菌の佐賀県および福岡県からの検出と耐性菌の性状, 日植病報(講要) 74 (3) :271. ACD
- (30) Hideo Ishii (2012), Resistance in *Venturia nashicola* to benzimidazoles and sterol demethylation inhibitors, Fungicide Resistance in Crop Protection :21-31. ACHIJM
- (31) 岩本豊・長田靖之 (2006), ナシ黒星病に対するDMI剤他の感受性, 平成17年度近畿中国四国農業試験研究成績概要集 :05SBD125. D
- (32) 金子洋平 (2012), 千葉県におけるナシ開花期および幼果期のナシ黒星病・心腐れ症の防除体系, 植物防疫 66 (5) :5-8. EK
- (33) 菊原賢次・石井英夫 (2007), 福岡県で発生したナシ黒星病に対するDMI剤の効力低下, 九病虫研会報 53 :127.
- (34) 菊原賢次 (2008), 福岡県で発生したDMI剤低感受性ナシ黒星病菌に対する各種薬剤の効果, 九病虫研会報 54 :155. ELK
- (35) 永井裕史 (2010), ナシ黒星病菌のDMI剤耐性検定, 関西病虫研報(講要) 52 :170. AD
- (36) 永井裕史・三宅律行 (2011), ナシ黒星病菌におけるDMI剤耐性菌検定は秋期も可能である, 日植病報(講要) 77 (3) :162. C
- (37) 永井裕史・三宅律行 (2012), 秋期の生物検定でDMI剤耐性ナシ黒星病菌を検出できる, 日植病報(講要) 78 (3) :199. C
- (38) 武長いづみ・鹿島哲郎・富田恭範 (2004), 茨城県におけるナシ黒星病DMI剤耐性菌の発生状況, 関東病害研報(講要) (51) :177. D
- (39) 栃木県農業環境指導センター (2012), ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果, 平成23年度業務年報 :144-145. D
- (40) 富田恭範・石井英夫(1996), ナシ黒星病に対するDMI剤の使用状況と菌のDMI剤感受性のベースライン, 日植病報(講要) 62 (3) :282-283. CD
- (41) Y. Tomita・H. Ishii (1998), Reduced Sensitivity to Fenarimol in Japanese Field Strains of *Venturia nashicola*, Pestic. Sci. (54) :150-156. A

- (42) 富田恭範・小河原孝司・長塚久 (2003), ナシ黒星病に対するDMI剤の防除効果, 関東病虫研報 (50) :75-77. E
- (43) 富田恭範・小河原孝司・宮本拓也 (2011), 茨城県におけるナシ黒星病に対する薬剤防除, 植物防疫 65 (2) :61-62. EK
- (44) 辻雅人 (2002), 徳島県におけるナシ黒星病菌のベンズイミダゾール剤およびDMI剤に対する感受性(講要), 四国植防 37 :67. AD
- (45) 安田文俊・渡辺博幸・伊澤宏毅 (2003), 鳥取県におけるナシ黒星病菌のフェナリモル感受性モニタリングとDMI剤の散布時期の違いによる防除効果, 関西病虫研報 45 :5-9. DE
- (46) 吉田麻里子・杉浦直幸・榊英雄 (2011), 熊本県におけるナシ黒星病菌に対するDMI剤の防除効果, 九州病虫研報(講要) 57 :97. D
- (47) 吉田麻里子・杉浦直幸・榊英雄 (2012), 熊本県におけるナシ黒星病菌のDMI剤に対する感受性, 熊本県農業センター研究報告 (19) :34-39. D

ナシ 黒斑病

- (1) 濱畑義明・野崎匠・出穂美和 (1999), ナシ黒斑病菌の薬剤感受性検定, 中国四国病害虫防除所植物防疫関係調査成績概要集 (18) :山-14. C
- (2) 神頭武嗣 (1997), 兵庫県北部におけるナシ黒斑病多発要因, 今月の農業 41 (11) :85-90. D
- (3) 田代暢哉・貞松光男・井手洋一 (2005), ナシ黒斑病に対するポリオキシシン剤の生育初期限定使用による同剤耐性菌密度の低下:メタ・アナリシスによる評価, 日植病報(講要) 71 (3) :251. K
- (4) 山口県病害虫防除所 (2010), 農業耐性菌検定実施状況(ナシ黒斑病), 平成21年度農作物有害動植物発生予察年報 :24-25. D
- (5) 安田文俊・渡辺博幸(1997), 鳥取県におけるイプロジオン耐性ナシ黒斑病菌の発生推移と防除対策, 近畿中国農研 (93) :85-89. DE
- (6) 安田文俊・渡辺博幸・三浦一郎・村松憲通 (1997), 鳥取県におけるポリオキシシン耐性ナシ黒斑病菌の発生状況と薬剤の連合作用による防除効果, 日植病報(講要) 63 (6) :516. DE

ナシ 炭疽病

- (1) 深谷雅子 (2003), *Colletotrichum acutatum*によるナシ炭疽病の発生と防除薬剤の検索, 日植病報 70:184-189. F
- (2) 金子洋平・鈴木健・竹内妙子 (2010), ナシ炭疽病の発生と防除対策, 千葉県農林総合研究センター研究報告 (2) :71-76. GF
- (3) 田代暢哉・井手洋一・衛藤友紀 (2001), ナシ炭疽病の発生とその有効薬剤およびベンズイミダゾール系薬剤耐性, 九州農業研究 (63) :81. A
- (4) Tashiro Nobuya・Manabe Kayo・Ide Youichi (2012), Emergence and frequency of highly benzimidazole-resistant *Colletotrichum gloeosporioides*, pathogen of Japanese pear anthracnose, after discontinued use of benzimidazole, J. Gen. Plant Pathol. 78 (3) :221-226. ADE
- (5) 矢野和孝・石井英夫・深谷雅子・川田洋一・佐藤豊三 (2004), ベンゾイミダゾール系薬剤中等度耐性ナシ炭疽病菌 [*Colletotrichum gloeosporioides* (*Glomerella cingulata*)]の発生, 日植病報 70 (4) :314-319. ACEH
- (6) 渡邊久能 (2012), 大分県の落葉果樹における殺菌剤耐性菌の現状について, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-10. ADE

ナシ 輪紋病

- (1) 梶原武利・田代暢哉・井手洋一・衛藤友紀(1999), ナシ輪紋病菌(*Botryosphaeria berengeriana* f.sp. *piricola*)の薬剤感受性と果実を用いた薬剤の効果判定, 九州病虫研報 (45) :136. C

ナシ 萎縮病

- (1) 金子洋平・塩田あづさ・鈴木健・幸由利香・牛尾進吾 (2012), ナシ萎縮病菌 *Fomitiporia* sp. の数種薬剤に対する感受性, 関東病虫研報(講要) 59 :156. E

ナシ 紅粒がんしゅ病

- (1) 佐藤裕・佐藤玄・上村大策 (2009), 秋田県内で分離されたニホンナシ紅粒がんしゅ病菌のベノミル耐性, 北日本病虫研報 60 :148-150. AD

ナシ その他

- (1) 菊原賢次 (2005), ナシ減農薬栽培の現地事例, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-28.
- (2) 梅本清作・小谷徹・矢内 浩二 (2002), ナシ病害防除における殺菌剤散布回数削減と問題点, 植物防疫 56 (8) :6-

セイヨウナシ 黒斑病

- (1) 棚橋恵・中野太佳司・石井英夫・児玉基一郎・尾谷浩 (2006), セイヨウナシ黒斑病菌におけるストロビルリン系薬剤耐性菌出現の可能性, 日植病報(講要) 72 (4) :275. DL

モモ せん孔細菌病

- (1) 岩波靖彦・近藤賢一・広間勝巳 (2001), モモせん孔細菌病の生態と防除 1 検定により低感受性と判断された菌株に対するストレプトマイシン剤の防除効果, 平成12年度落葉果樹試験研究成績概要集-病害- :130. E
- (2) 岩波靖彦・近藤賢一・広間勝巳 (2001), モモせん孔細菌病の生態と防除 2 ストレプトマイシン剤感受性検定方法の検討, 平成12年度落葉果樹試験研究成績概要集-病害- :132. C
- (3) 川合康充・近藤賢一・広間勝巳 (1999), モモせん孔細菌病の生態と防除 (5) ストレプトマイシン耐性菌に対する抗生物質の防除効果, 長野県果樹試験場 果樹試験成績(病害虫) :12. E
- (4) 山口修平・吉田拓矢・伊山公二・根岸寛光・奥田誠一・篠原弘亮 (2011), 国内におけるモモせん孔細菌病の主病原とそれらの薬剤感受性, 日植病報(講要) 77 (3) :253-254. CD

ウメ かいよう病

- (1) 島津康 (2003), ウメかいよう病の発生と防除対策, 植物防疫 57 (3) :9-12. ADE
- (2) 島津康 (2006), ウメかいよう病菌のストレプトマイシンに対する感受性と防除効果の関係, 関西病虫研報 48 :

- (3) 山口修平・江畑早耶佳・伊山公二・根岸寛光・奥田誠一・篠原弘亮 (2012), ウメかきよう病菌の薬剤感受性, 日植病報(講要) 78 (3) :286. A

オウトウ 灰星病

- (1) 栢森美如・美濃健一・稲川裕 (2012), オウトウ灰星病菌 *Monilinia fructicola* のプロシモンならびにイプロジオンに対する感受性の低下, 日植病報(講要) 78 (1) :62. A
- (2) 西脇由恵 (2004), 北海道におけるオウトウ灰星病菌および灰色かび病菌の薬剤感受性, 日植病報(講要) 70 (1) :
- (3) 佐藤裕・浅利正義・水野昇 (1996), オウトウ灰星病菌の薬剤感受性に関する調査, 秋田果試業務報告 40 :73-
- (4) 佐藤裕・水野昇 (1997), オウトウ灰星病の薬剤感受性検定, 秋田果試業務報告 (41) :92-93. B

ブドウ 晩腐病

- (1) 深谷雅子 (1996), ブドウ晩腐病菌のベンズイミダゾール系薬剤に対する感受性, 秋田果試業務報告 (40) :201. B
- (2) 深谷雅子・石井英夫・高橋功 (1998), ペノミル剤によるブドウ晩腐病の休眠期防除と耐性菌の検出, 日植病報(講要) 64 (4) :394-395. AEKM
- (3) 深谷雅子・高橋功 (1999), ブドウ晩腐病に対するストロビルリン系薬剤の防除効果と使用時期, 北日本病虫研報 (50) :100-103. C
- (4) 深谷雅子 (2001), ブドウ休眠期におけるペノミル剤の連年使用と晩腐病菌の種の変遷, 日植病報(講要) 67 (2) :217. ADEN
- (5) 深谷雅子 (2002), ブドウ晩腐病菌2種におけるイミノクタジン酢酸塩剤に対する感受性の差異, 日植病報(講要) 68 (2) :263-264. AGN
- (6) 深谷雅子 (2003), ブドウ晩腐病の発生生態と防除法, 植物防疫 57 (1) :14-17. ADEM
- (7) 井手洋一・田代暢哉 (1999), ブドウ晩腐病の防除対策 (1) 佐賀県内で分離される晩腐病菌とベンズイミダゾール系薬剤に対する感受性, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :137. A
- (8) 井手洋一・田代暢哉 (1999), ブドウ晩腐病の防除対策 (2) ベンズイミダゾール系薬剤低感受性菌の存在が防除効果に及ぼす影響, 九州沖縄農業試験研究成績概要集 :138. AE
- (9) 井手洋一・田代暢哉・衛藤友紀 (1999), 佐賀県で分離されるブドウ晩腐病菌とベンズイミダゾール系薬剤に対する感受性, 九州病虫研会報 (45) :135-136. DE
- (10) 近藤賢一・岩波靖彦・広間勝巳 (2001), ブドウ晩腐病菌のペノミルに対する感受性検定, 平成12年度落葉果樹試験研究成績概要集-病害- :198. D
- (11) 近藤賢一 (2011), 長野県におけるブドウ晩腐病菌のQoI剤感受性の実態, 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :29-44. ADK
- (12) 中畝良二・中野正明 (2006), ブドウ晩腐病菌 *Colletotrichum acutatum* のペノミル耐性遺伝子CaBEN1, 日植病報(講要) 72 (4) :244. IJ

ブドウ 褐斑病

- (1) 井上幸次 (2009), QoI剤耐性ブドウ褐斑病菌の発生(岡山県の事例), 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :50-55. ACD
- (2) 井上幸次・金谷寛子 (2012), QoI剤耐性ブドウ褐斑病菌の発生圃場における各種薬剤および体系防除の褐斑病に対する防除効果, 日植病報(講要) 78 (3) :201. EK
- (3) 川合康充・小池英彦・飯島章彦 (1997), ベンズイミダゾール系薬剤耐性ブドウ褐斑病菌の発生と耐性菌蔓延ほ場における同系剤の防除効果減退, 関東病虫研報 (44) :145-147. AE
- (4) 川合康充・小池英彦・近藤賢一・徳永聡 (1998), ブドウ褐斑病菌のベンズイミダゾール系薬剤およびジエトフェンカルブに対する感受性, 関東病虫研報 (45) :95-96. DM
- (5) 川合康充・小池英彦・近藤賢一 (1998), ベンズイミダゾール系薬剤耐性ブドウ褐斑病に対する数種薬剤の効果, 関東病虫研報 (45) :97-98. E
- (6) 菊原賢次 (2009), ブドウ褐斑病菌のQoI剤耐性(福岡県), 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :56-61. ACD
- (7) 宮本拓也・富田恭範・小河原孝司 (2010), 茨城県におけるQoI剤耐性ブドウ褐斑病菌の発生状況, 関東病虫研報(講要) 57 :133. ADE

ブドウ 白腐病

- (1) 田代暢哉・井下美加乃・衛藤友紀 (1996), ブドウ白腐病の発生と病原菌の薬剤感受性, 九州農業研究 58 :88. A
- (2) 小野光明・山田正和・中澤靖彦 (1997), 山梨県におけるキュウリおよびブドウの薬剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 関東病虫研報 (44) :127-129. DM

ブドウ 灰色かび病

- (1) S.Saito・S.Suzuki・T.Takayanagi (2009), Nested PCR-RFLP is a high-speed method to detect fungicide-resistant *Botrytis cinerea* at an early growth stage of grapes, Pest Manag. Sci. 65 (2) :197-204. C

ブドウ べと病

- (1) Y.Aoki・S.Furuya・S.Suzuki (2011), Method for rapid detection of *PvCesA3* gene allele conferring resistance to mandipropamid, a carboxylic acid amide fungicide, in *Plasmopara viticola* populations, Pest Manag. Sci. 67 (12) :1557-1561. C
- (2) 青木是直・羽田洋祐・望月真衣・鈴木俊二 (2012), Multiplex ASP-PCR法によるQoIおよびCAA殺菌剤耐性ブドウべと病菌簡易判定法の確立, 日植病報(講要) 78 (3) :196. CJ
- (3) Y.Aoki・Y.Hada・S.Suzuki (・・・), Development of multiplex allele-specific primer PCR assay for simultaneous detection of QoI and CAA fungicide resistance alleles in *Plasmopara viticola* populations, Pest Manag. Sci.
- (4) S.Furuya・S.Suzuki・H.Kobayashi・S.Saito・T.Takayanagi (2009), Rapid method for detecting resistance to a QoI fungicide in *Plasmopara viticola* populations, Pest Manag. Sci. 65 (8) :840-843. AC

- (5) S.Furuya・M.Mochizuki・S.Saito・H.Kobayashi・T.Takayanagi・S.Suzuki (2010), Monitoring of QoI fungicide resistance in *Plasmopara viticola* populations in Japan, *Pest Manag. Sci.* 66 (11) :1268-1272. AD
- (6) 茨城県病害虫防除所 (2011), ブドウべと病, 茨城県病害虫防除所業務年報 :102. AD
- (7) 近藤賢一 (2011), 長野県におけるブドウ晩腐病菌のQoI剤感受性の実態, 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :29-44. ADK
- (8) 鈴木俊二・青木是直 (2011), 我が国におけるQoI剤耐性ブドウべと病菌の発生実態, *植物防疫* 65 (11) :20-24. ACDH
- (9) 鈴木俊二 (2011), わが国におけるブドウべと病菌のQoI剤感受性の実態, 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :13-20. CD
- (10) 綿打享子・功刀幸博・村上芳照・内田一秀 (2011), 山梨県のブドウべと病におけるQoI剤耐性菌の分布とメタラキシル耐性菌の出現, *日植病報(講要)* 77 (3) :162. ACDE
- (11) 綿打享子 (2011), 山梨県におけるQoI剤耐性ブドウべと病菌の発生, 第21回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :21-28. ADE

ブドウ ペスタロチアつる枯病

- (1) 大村宏和・堀井修・宇山正己・小山正一・堀武志・横山泰裕 (1997), 新潟県におけるブドウペスタロチアつる枯病の発生生態と防除, *北陸病虫研報* (45) :27-31. DE
- (2) 大村宏和 (1997), 新潟県におけるブドウペスタロチアつる枯病の防除について, *今月の農業* 41 (10) :75-79. D

ブドウ 芽枯病

- (1) 深谷雅子・高橋功 (1998), ブドウ芽枯病のペノミルに対する感受性, *秋田果試業務報告* (42) :148-149. B
- (2) 深谷雅子・高橋功・佐藤裕 (2006), ベンズイミダゾール系薬剤耐性ブドウ芽枯病菌 (*Diaporthe medusaea*) 出現圃場におけるオキスポコナゾールフルマル酸塩剤の防除効果, *北日本病虫研報(講要)* 57 :225. AK

ビワ 灰斑病

- (1) 濱島朗子・牟田辰郎 (2001), ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌の発生実態調査, *九州沖縄農業試験研究成績概要集* :337-338. D
- (2) 古賀敬一 (1999), 長崎県の露地ビワに発生した果実腐敗の原因と分離されたビワ灰斑病菌の薬剤感受性, *九病虫研会報* 45 :38-43. AD
- (3) 小嶺正敬・太田孝彦 (1999), 果実腐敗の発生原因の解明と効率的防除法 2) 露地ビワの果実での灰斑病の薬剤耐性菌の検定, *九州沖縄農業試験研究成績概要集* :141. DE
- (4) 小嶺正敬・大久保宣雄 (2000), 果実腐敗の発生原因の解明と効率的防除法 2) ベンズイミダゾール系薬剤耐性ビワ灰斑病菌の防除対策, *九州沖縄農業試験研究成績概要集* :151. E
- (5) 小嶺正敬・中畝良二・大久保宣雄 (2000), 果実腐敗の発生原因の解明と効率的防除法 3) ベンズイミダゾール系薬剤耐性ビワ灰斑病菌の耐性機構の解明, *九州沖縄農業試験研究成績概要集* :152. J
- (6) 小嶺正敬・早田栄一郎 (2001), ビワ果実腐敗の発生原因の解明と効率的防除法 2) ベンズイミダゾール系薬剤耐性ビワ灰斑病菌の防除対策, *九州沖縄農業試験研究成績概要集* :309-310. E
- (7) 小嶺正敬・早田栄一郎・中村吉秀 (2002), ビワ灰斑病のベンズイミダゾール系薬剤耐性菌の発生状況と防除対策, *長崎果樹試研報* 9 :19-26. EI
- (8) 小嶺正敬・中畝良二 (2002), ベンズイミダゾール系薬剤耐性ビワ灰斑病の防除対策, *九病虫研会報(講要)* 48 :

ビワ 果実腐敗

- (1) 古賀敬一 (1999), 長崎県の露地ビワに発生した果実腐敗の原因と分離されたビワ灰斑病菌の薬剤感受性, *九州病害虫研報* (45) :38-44. A

イチジク そうか病

- (1) 山本淳 (1999), ベンズイミダゾール系薬剤耐性イチジクそうか病菌 (*Sphaceloma caricae*) の出現, *日植病報(講要)* 65 (3) :359. ADE
- (2) 山本淳 (2001), ベンズイミダゾール系薬剤耐性イチジクそうか病菌の出現と防除対策, *植物防疫* 55 (4) :14-17.

キウイフルーツ かいよう病

- (1) 中島雅己・後藤正夫・奥尚・山下修一・日比忠明 (1996), キウイフルーツかいよう病菌の銅耐性遺伝子上に存在するORF AおよびB, *日植病報(講要)* 62 (3) :312. J
- (2) Nakajima M.・Goto M.・Hibi T. (2002), Similarity between Copper Resistance Genes from *Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* and *P. syringae* pv. *tomato*, *J. Gen. Plant Pathol.* 68 (1) :68-74. AIJ
- (3) 中島雅己・後藤正夫・阿久津克己・日比忠明 (2002), キウイフルーツかいよう病菌の銅耐性機構, *日植病報(講要)* 68 (1) :74. HI
- (4) 中島雅己 (2002), キウイフルーツかいよう病菌の薬剤耐性機構, *植物防疫* 56 (10) :12-15. HIJ

花き

花き 総説

- (1) 嘉儀隆・草刈真一 (1998), 最近10年間における野菜・花き病害の防除技術の変遷, *関西病虫研報* (40) :19-24.
- (2) 野村良邦 (1996), 花き病害における耐性菌問題, 第6回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :10-18.

花き 灰色かび病

- (1) 栄森弘己・竹内純 (2004), 大島におけるトルコギキョウ灰色かび病の薬剤耐性菌発生状況 (2003年), *関東東海北陸農業成績概要集* :188-189. AD
- (2) 栄森弘己・竹内純 (2004), パンジー、シクラメンにおける灰色かび病の薬剤耐性菌発生状況 (2003年), *関東東海北陸農業成績概要集* :190-191. AD
- (3) 星秀男・堀江博道・宇津木栄司・田中邦雄 (2001), 伊豆大島における薬剤耐性トルコギキョウ灰色かび病菌の発生状況, *関東病虫研報* 48 :79-83. A
- (4) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一 (1999), 大島における薬剤耐性トルコギキョウ灰色かび病菌の発生状況, *平成10年度 東京農試研究速報* :160-161. AD

- (5) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一 (2000), 大島における薬剤耐性トルコギキョウ灰色かび病菌の発生状況 (1999年), 平成11年度 東京農試研究速報 :. AD
- (6) 前田和也 (1999), スターチス灰色かび病耐性菌調査を用いた防除の取り組み, 関西病虫研報 41 :132. DM

キク 白さび病

- (1) 杉村輝彦・吉田雅彦・岡山健夫・西崎仁博 (1998), キク白さび病の薬剤耐性菌発生の現状と対策, 関西病虫研報 40 :158. DEK
- (2) 杉村輝彦・印田清秀 (1999), キク白さび病菌のDMI剤耐性菌の発生と対策, 関西病虫研報 41 :91. DEK
- (3) 杉村輝彦 (1999), 高温処理によるキク白さび病の防除, 今月の農業 43 (2) :94-97. N

シクラメン 萎凋病

- (1) 折原紀子・小林正伸・植草秀敏 (1998), シクラメン萎ちよう病菌(*Fusarium oxysporum* f. sp. *cyclaminis*)のベノミル耐性菌の出現, 日植病報(講要) 64 (4) :394. AD

チューリップ 褐色斑点病

- (1) 細野朋子・野々内誓子・中島雅己・阿久津克己 (2002), チューリップ褐色斑点病菌のベノミル耐性について, 日植病報(講要) 68 (1) :74. AH

チューリップ 黒かび病

- (1) 守川俊幸・森井環・多賀由美子 (2004), チューリップ黒かび病菌の薬剤感受性, 関東東海北陸農業成績概要集 : 185-186. D

ユリ 葉枯病

- (1) 塚本俊秀・磯田淳・齋藤泉・萩原廣 (1997), ユリ類葉枯病菌(*Botrytis elliptica*)のベンズイミダゾール系薬剤、ジカルボキシミド系薬剤およびジエトフェンカルブに対する感受性, 日植病報(講要) 63 (3) :225. D
- (2) 上谷明美・本多範行 (1999), 薬剤耐性菌検定事業—ユリ葉枯病菌の薬剤耐性検定—, 平成10年度病害虫に関する試験成績 福井農試 :22-25. D
- (3) 上谷明美・本多範行 (1999), 薬剤耐性菌検定事業—ユリ葉枯病菌の薬剤耐性検定—, 平成10年度福井農試業務年報 :34. D

その他 総説

- (1) Josef Appel (2000), Resistance to strobilurins and management strategies, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :61-71. ADK
- (2) Ulrich Gisi (2004), Resistance Status and Management for QoI fungicides, 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :11-17. EK
- (3) Ulrich Gisi (2008), Resistance Risk Assessment for Mandipropamid and other CAA Fungicides, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-29. CD
- (4) 橋本章 (1998), FRACの活動について, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :16-24. KN
- (5) 原澤良栄 (1999), 新潟県における病害と耐性菌, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-26.
- (6) Steve Heaney・Steve Dale (2000), Strobilurin resistance, recent observations in cereal and cucurbit pathogens, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :53-60. AD
- (7) 石井英夫 (1996), 「薬剤耐性:食料生産の阻害要因に関する国際ワークショップ」の概要について, 農業研究 42 (4) :51-55. N
- (8) 石井英夫 (1996), 殺菌剤耐性菌の最近の話題と今後の展望, 研究ジャーナル 19 (11) :9-15. N
- (9) 石井英夫 (1996), 殺菌剤耐性菌問題の現状と今後の課題, 第13回農業環境動態研究会資料 :9-16. N
- (10) 石井英夫 (1997), 殺菌剤耐性菌の最近の話題と今後の展望, 日本農薬学会第22回大会講演要旨集 :34. N
- (11) 石井英夫 (1997), 薬剤耐性・抵抗性の推移と展望, 植物保護の探究(日本植物防疫協会) :65-78. N
- (12) 石井英夫 (1998), 耐性菌検定マニュアル・文献集の発刊と研究会活動の近況, 農業研究 44 (3) :32-36. N
- (13) 石井英夫 (2001), 殺菌剤, 農薬学事典(朝倉書店):166-174. IJKM
- (14) 石井英夫 (2002), うどんこ病菌の薬剤耐性機構と遺伝子診断, 植物防疫 56 (6) :41-45. CFHIJN
- (15) 石井英夫 (2003), 薬剤耐性菌の新たな展開と防除のあり方, 北日本病虫研報 54 :1-6. N
- (16) H. Ishii (2003), Status of strobilurin resistance and related research in Japan, Abstr. 8th Intr. Congr. Plant Pathol. 11:201
- (17) Hideo Ishii (2004), Studies on fungicide resistance in phytopathogenic fungi, J. Gen. Plant Pathol. 70 (6) :379-381. ACDHIK
- (18) 石井英夫 (2004), 植物病原糸状菌の薬剤耐性に関する研究, 日植病報 70 (3) :149-151. ACDHIK
- (19) Hideo Ishii (2005), Resistance management strategies for fungicides, ACS Symp. Series (899) :280-288. ADFK
- (20) 石井英夫 (2005), 植物病原糸状菌の薬剤耐性:遺伝子診断と分子疫学への利用, 化学と生物 43 (6) :358-365. I
- (21) Hideo Ishii (2006), Impact of fungicide resistance in plant pathogens on crop disease control and agricultural environment, JARQ 40 (3) :205-211. JN
- (22) 石井英夫 (2006), 薬剤耐性菌とどう向き合うか?—現場と研究をむすぶもの—, 九防協年報2005 :22-26. K
- (23) H. Ishii (2008), Fungicide research in Japan, Modern Fungicides and Antifungal Compounds 5 :11-17. N
- (24) H. Ishii (2008), QoI fungicide resistance: current status and the problems associated with DNA-based monitoring, Abstr. 9th Intr. Congr. Plant Pathol. :S2.69-S2.69. CJ
- (25) 石井英夫 (2009), QoI剤耐性の現状と課題, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :62-69. AF
- (26) 石井英夫 (2009), 交差耐性, 農薬用語辞典(日本植物防疫協会):51. L
- (27) 石井英夫 (2009), 多剤耐性, 農薬用語辞典(日本植物防疫協会):107. L
- (28) 石井英夫 (2009), 薬剤耐性菌, 農薬用語辞典(日本植物防疫協会):176-77. L

- (29) Hideo Ishii (2009), Fungicide resistance: the main resistance problems in Japan, *Outlooks Pest Manag.* 20 (10) : 232-235. AIJK
- (30) Hideo Ishii (2010), QoI fungicide resistance: current status and the problems associated with DNA-based monitoring, *Recent Developments in Management of Plant Diseases* (Springer) :37-45. AIJ
- (31) 石井英夫 (2010), 殺菌剤耐性菌とその対策に関する国際動向, シンポジウム 薬剤抵抗性を考える 講演要旨 :19-33. AK
- (32) Hideo Ishii (2011), Current situation of fungicide resistance in Japan, *Abstr. Resistance 2011* :24. AC
- (33) Hideo Ishii (2012), Resistance to QoI and SDHI fungicides in Japan, *Fungicide Resistance in Crop Protection* : 223-234. AEIJKL
- (34) 石井英夫 (2012), QoI剤及びSDHI剤(コハク酸脱水素酵素阻害剤)耐性菌の現状と薬剤使用ガイドライン, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :49-60. CJKL
- (35) 倉橋良雄・山口勇(1999), メラニン生合成阻害剤はなぜ耐性菌を生じないか?, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :35-45. IN
- (36) 草刈眞一 (1998), 養液栽培の病害除菌・殺菌技術[1], *農業および園芸* 73 (9) :47-54. AE
- (37) Pierre LEROUX・Florence CHAPELAND・Annick ARNOLD・Michel GREDT (2000), New Cases of Negative Cross-resistance between Fungicides, Including Sterol Biosynthesis Inhibitors, *J. Gen. Plant Pathol.* 66 (1) :75-81. M
- (38) 三宅裕・境潤悦・三浦一郎・柴田卓・永山孝三 (2004), ベンチアバリカルブイソプロピル(KUF-1001)に関する研究(4) 各種べと・疫病菌のベンチアバリカルブイソプロピルに対する感受性の検定法, *日植病報(講要)* 70 (3) :254. C
- (39) 中畝良二・阿久津克巳・日比忠明 (1998), 植物病原菌類の多剤耐性機構, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :45-53. IJ
- (40) 中畝良二・阿久津克巳・日比忠明 (1999), 植物病原菌類の多剤耐性機構, *植物防疫* 53 (5) :19-22. I
- (41) 大塚範夫 (1996), 九州地域における耐性菌の発生状況と問題点, 第6回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :34-42. AN
- (42) P. E. Russell (1999), The assessment of resistance risk and registration of fungicides in the EU, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :9-18. N
- (43) 櫻井誠也 (2007), ペンチオピラドの作用機作と耐性菌対策, 第17回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :30-39. CD
- (44) 佐藤豊三 (1997), 多犯性炭疽病菌 *Colletotrichum acutatum* の諸特性と同定法, *四国植防* (32) :1-19. N
- (45) 宗和弘 (2002), うどんこ病の薬剤耐性菌とその発生状況, *植物防疫* 56 (6) :37-40. AEI
- (46) 鈴木清樹 (2009), 理論疫学からみた殺菌剤耐性菌の動態と防除対策, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :10-20. G
- (47) 鈴木敏男 (2009), 岩手県におけるりんごハダニ類に対する殺ダニ剤の合理的使用体系, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :21-32. D
- (48) 武田敏幸・内田景子 (2007), うどんこ病菌における耐性菌の推移と分布状況, *植物防疫* 61 (8) :4-6. CE
- (49) 竹内徹 (1998), 北海道における薬剤耐性菌の発生実態と問題点, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :25-35. ADF
- (50) 外側正之 (1997), 静岡県における薬剤耐性菌の発生実態と問題点, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :48-56. AD
- (51) 徳永太蔵・富濱毅 (1999), 炭疽病、輪斑病の耐性菌に関する調査, 鹿児島県茶業試験場病害虫発生予察事業調査成績書 :56-58. AD
- (52) 塚本俊秀 (2008), 島根県における耐性菌の発生事例, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-
- (53) Isamu Yamaguchi・Makoto Fujimura (2005), Recent Topics on Action Mechanisms of Fungicides, *J. Pestic. Sci.* 30 (2) :67-74. IJ
- (54) Mingguo Zhou (2004), Disease control and current status of fungicide resistance in China, 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :37-53. K

その他 灰色かび病

- (1) Rita M De Miccolis Angelini・Caterina Rotolo・Mario Maesiello・Stefania Pollastro・Hideo Ishii・Francesco Faretra (2012), Genetic analysis and molecular characterisation of laboratory and field mutants of *Botryotinia fuckeliana* (*Botrytis cinerea*) resistant to QoI fungicides, *Pest Manag. Sci.* 68 :1231-1240. IJ
- (2) 坂野真平・森沙織・斉藤秀成・岡田清嗣・植草秀敏・藤村真 (2006), 蛍光ハイブリッド法を用いた灰色かび病菌のジカルボキシイミドおよびベンズイミダゾール耐性変異の分布解析, *日植病報(講要)* 72 (4) :245. CJ
- (3) 坂野真平・鈴木智一・植草秀敏・岡田清嗣・藤村真 (2007), 灰色かび防除剤に対する各種耐性株の遺伝的多様性解析, *日植病報(講要)* 73 (3) :190. HI
- (4) S. Banno・F. Fukumori・A. Ichiishi・K. Okada・H. Uekusa・M. Kimura・M. Fujimura (2008), Genotyping of benzimidazole-resistant and dicarboximide-resistant mutations in *Botrytis cinerea* using real-time PCR assays, *Phytopathology* 98 (4) :397-404. IJDM
- (5) S. Banno・K. Yamashita・F. Fukumori・K. Okada・H. Uekusa・M. Takagaki・M. Kimura・M. Fujimura (2009), Characterization of QoI resistance in *Botrytis cinerea* and identification of two types of mitochondrial cytochrome b gene, *Plant Pathol.* 58 (1) :120-129. JIDF
- (6) 藤村真 (2003), 糸状菌のヒスチジンキナーゼシグナル伝達と薬剤耐性, *日本農薬学会誌* 28 (4) :484-488. IJ
- (7) 藤村真 (2003), 糸状菌のヒスチジンキナーゼと薬剤耐性, *日本農薬学会第28回大会講演要旨集* :26. IJ
- (8) 藤村真・山下和宏・坂野真平・高垣真喜一・岡田清嗣・植草秀敏 (2006), 大阪府および神奈川県から分離したQoI殺菌剤に耐性を示す灰色かび病菌の単離とその解析, *日植病報(講要)* 72 (4) :246. D

- (9) 東貴彦・東久美子・鈴木淳子・永井葉子・中島雅己・日比忠明・阿久津克己 (1998), cAMPIによる*Botrytis cinerea*の薬剤耐性誘発, 日植病報(講要) 64 (4) :393-394. I
- (10) 平嶋隆祥 (1997), 果菜類の灰色かび病薬剤耐性菌検定, 平成9年度病害虫発生予察年報 :233-237. AE
- (11) 平田明靖 (2000), 灰色かび病菌のフルジオキシニルに対する感受性検定法, 第10回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :27-34. C
- (12) 堀江博道・山田正和・中澤靖彦・合田健二・関谷銃造 (1997), 関東東山地域におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 関東病虫研報 (44) :91-95. DM
- (13) 堀江博道・合田健二・関谷銃造・山田和正・中澤靖彦 (1998), 関東東山地域におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 今月の農業 42 (1) :80-84. D
- (14) 茨城県病害虫防除所 (1996), 数種作物より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 業務年報 (H8) :123-124. D
- (15) 茨城県病害虫防除所 (1997), 数種作物より分離した灰色かび病菌の薬剤耐性, 業務年報 (H9) :128-133. D
- (16) Hideo Ishii・Wen-Hsin Chung・Masanori Kansako・Kou Shimazu・Kumiko Nishimura (2005), Characterisation of strobilurin-resistant isolates of *Botrytis cinerea*, Abstr. Symp. Antifungals: Discovery and Mode of Action. A
- (17) 石井英夫・鈴木啓史・柿眞真 (2012), ポスカリド耐性灰色かび病菌のsdhB遺伝子変異と新規SDHI剤フルオピラムに対する感受性, 日本農薬学会第37回講演要旨集 :80. AEIJL
- (18) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一 (1996), 東京都における各種薬剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 平成7年度 東京農試研究速報 :179-180. AD
- (19) 久保田まや・竹内純・堀江博道・平野寿一 (1998), 東京都におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生状況, 平成9年度 東京農試研究速報 :124-126. AD
- (20) Makizumi Y.・Takeda S.・Matsuzaki Y.・Nakaune R.・Hamamoto H.・Akutsu K.・Hibi T. (2002), Cloning and Selective Toxicant-induced Expression of BMR1 and BMR3, Novel ABC Transporter Genes in *Botrytis cinerea*, J. Gen. Plant Pathol. 68 (4) :338-341. IJ
- (21) Mitani S.・Komyoji T.・Matsuo N. (1996), Fungicidal activity of pyridylcarbamates against isolates of *Botrytis cinerea* having different resistance levels to benomyl and diethofencarb., Ann. Phytopath. Soc. Jpn 62 (6) :572-
- (22) 村松憲通 (1997), 灰色かび病菌のメパニピリウムに対する感受性検定方法, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-9. CD
- (23) 長浜恵・池田幸子・三澤知央・前田和子・桶田陽子・黒澤健治・松浦準 (1999), 北海道におけるジエトフェンカルブ・チオファネートメチル剤耐性灰色かび病菌の発生, 日植病報(講要) 65 (6) :693-694. AD
- (24) Nakajima M.・Suzuki J.・Hosaka T.・Hibi T.・Akutsu K. (2001), Functional Analysis of an ATP-Binding Cassette Transporter Gene in *Botrytis cinerea* by Gene Disruption, J. Gen. Plant Pathol. 67 (3) :212-214. IJ
- (25) 中山喜一・合田健二・山田正和・中澤靖彦 (1997), 栃木県におけるジエトフェンカルブ混合剤耐性灰色かび病菌の発生, 関東東山病虫研報 44 :103-105. DM
- (26) 野口莉枝子・大嶋菜保美・久保麗子・坂野真平・沢田治子・木村真・山口勇・藤村真 (2004), 灰色かび病菌のフェンヘキサミド感受性とステロール合成遺伝子の多型解析, 日植病報(講要) 70 (3) :254. DH
- (27) 岡田清嗣・草刈眞一・瓦谷光男・田口聖 (1997), 灰色かび病菌選択分離培地の改良と薬剤耐性菌モニタリング, 日植病報(講要) 63 (3) :224. C
- (28) 大島美知代・藤村真・本山高幸・山口勇 (2001), 灰色かび菌の浸透圧センサー遺伝子(BcOS1)のクリーニングとジカルボキシイミド圃場耐性変異の同定, 日本農薬学会第26回大会講演要旨集 :81. IJ
- (29) 大島美知代・藤村真・岡田清嗣・竹内妙子・山口勇 (2002), PCR-RFLPによる灰色かび病菌のジカルボキシイミド圃場耐性の検出, 日植病報(講要) 68 (2) :262-263. CH
- (30) 大島美知代・石井英夫(2004), チトクロームb遺伝子のコドン143部位に変異が見られる灰色かび病菌の検出, 日植病報(講要) 70 (3) :253-254. CI
- (31) M. Oshima・S. Banno・K. Okada・T. Takeuchi・M. Kimura・A. Ichiishi・I. Yamaguchi・M. Fujimura (2006), Survey of mutations of a histidine kinase gene BcOS1 in dicarboximide-resistant field isolates of *Botrytis cinerea*, J. Gen. Plant Path. 72 (1) :65-73. IJ
- (32) 櫻井誠也・萩原寛之・柳瀬勇次 (2011), ペンチオピラドの作用性と各種病原菌に対する感受性検定の検討, 農薬学会誌 36 (4) :520-523. C
- (33) 佐藤充通・山田正和・中澤靖彦・堀江博道 (1997), 爪楊枝を用いた灰色かび病菌の薬剤感受性簡易検定法, 関東病虫研報 44 :97-101. CM
- (34) 瀬古隆司 (1997), 灰色かび病菌のシプロジニルに対する感受性検定法, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :19-27. C
- (35) 泉津弘佑・小林甫・田中千尋 (2008), フェニルピロール系・ダイカルボキシイミド系殺菌剤が攪乱する灰色かび病菌(*Botrytis cinerea*)の浸透圧応答シグナル伝達経路の網羅的機能解析, 日本農薬学会大会講演要旨集 :115. IJ
- (36) 杉井信次 (1997), 灰色かび病菌のシプロジニルに対する感受性検定法, 第7回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :10-18. C
- (37) 鈴木淳子・中島雅己・保坂壮彦・日比忠明・阿久津克己 (2001), 灰色かび病菌*Botrytis cinerea*のABCトランスポーター遺伝子BMR1の機能解析, 日植病報(講要) 67 (2) :217-218. BHJ
- (38) 鈴木啓史・黒田克利 (2010), 灰色かび病菌のペンチオピラドとポスカリドに対する感受性検定法, 関西病虫研報 52 :45-51. CD
- (39) 鈴木啓司・黒田克利・貴田健一・松澤章彦・高垣真喜一 (2011), メパニピリウム耐性灰色かび病菌の発生, 日植病報 77 (1) :1-6. ACE
- (40) 鈴木啓史・田口裕美・黒田克利 (2012), ポスカリド感受性の低下した灰色かび病菌のYBA寒天培地ペーパーディスク法による検出, 日植病報(講要) 78 (1) :56. C
- (41) 高垣真喜一 (1999), 灰色かび病菌のアニリノピリミジン系殺菌剤に対する感受性検定法の統一化に向けて, 第9回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-8. CD
- (42) 高垣真喜一 (2000), アニリノピリミジン系殺菌剤の灰色かび病菌に対する感受性検定法, 植物防疫 54 (4) :23-27. CD

- (43) Makiichi Takagaki, Satoshi Kataoka, Kenichi Kida, Koichiro Kaku and Tsutomu Shimizu (2011), A method for monitoring the sensitivity of *Botrytis cinerea* to pyribencarb, *J. Pestic. Sci.*, 36 (2) :255-259. C
- (44) 高橋和人・Fountain James・石井英夫 (2008), アゾキシストロビンとAOX阻害剤の同時処理による灰色かび病菌の細胞死, *日植病報(講要)* 74 (1):38. I
- (45) 山田正和・合田健二・堀江博道・中澤靖彦 (1996), 関東東山地域における灰色かび病菌のベンズイミダゾール系薬剤、ジカルボキシイミド系薬剤およびジエトフェンカルブに対する感受性(1993-1994年), *日植病報(講要)* 62 (3) :
- (46) 山田正和・石井英夫・中澤靖彦 (1997), ベンズイミダゾール系薬剤およびジエトフェンカルブに対して感受性の異なる灰色かび病菌の β -チューブリン遺伝子の塩基配列, *日植病報(講要)* 63 (3) :225-226. J

その他 細菌病

- (1) Ampaabeng Gyedu KYEREMEH・Toshio KIKUMOTO・Duen-yau CHUANG・Yoshiyuki TAKAHARA・Yoshio EHARA (1999), Studies on Integration of Bactericide-resistant Biocontrol Agents into Conventional Copper-bactericide Sprays, *日植病報* 65 (6) :571-575. N
- (2) Watanabe K.・Sato M.(2002), A Novel Conjugative Plasmid Conferring Multiple-antibiotic Resistance Detected in Epiphytic Strains of *Enterobacter cloacae*, *J. Gen. Plant Pathol.* 68 (3) :212-219. AIJ

その他 耐性機構

- (1) 穴澤初夫・藤村真・一石昭彦 (2009), アカパンカビのDNA修復変異株におけるフルジオキシニル耐性菌の出現頻度, *日本農薬学会大会講演要旨集* :125. IJ
- (2) M. Fujimura・N. Ochiai・A. Ichiishi・R. Usami・K. Horikoshi・I. Yamaguchi (2000), Sensitivity to Phenylpyrrole Fungicides and Abnormal Glycerol Accumulation in Os and Cut Mutant Strains of *Neurospora crassa*, *J. Pesticide*
- (3) A. Gafur・C. Tank・K. Shimizu・S. Ouchi・M. Tsuda (1998), Genetic analysis of *Cochliobolus heterostrophus* polyoxin-resistant mutants, *Mycoscience* 39 (2) :155-159. BH
- (4) 石井英夫・Hollomon D. M.・足立嘉彦・Van Raak M. (1996), 各種植物病原系状菌の薬剤感受性と β -チューブリン遺伝子の塩基配列, *日植病報(講要)* 62 (3) :284-285. IJL
- (5) 石井英夫・T. Joseph-Horne・D. W. Hollomon・西村久美子 (1999), ストロビルリン系殺菌剤とシアン耐性呼吸阻害剤、没食子酸 n -プロピルの協力作用, *日本農薬学会第24回大会講演要旨集* :61. I
- (6) H. Ishii (1999), DNA-Based Approaches for Diagnosis of Fungicide Resistance, *Abstr. 2nd Pan-Pacific Conf. Pestic. Sci.* :58. J
- (7) H.Ishii (2002), DNA-Based Approaches for Diagnosis of Fungicide Resistance, *Agrochemical Resistance-Extent, Mechanism, and Detection*, ACS Symposium Series 808 :242-259. J
- (8) H. Ishii・T. Joseph-Horne・D. W. Hollomon・K. Nishimura (1999), Synergism Between Strobilurin Fungicides and cyanide-Resistant Respiration Inhibitor *N*-Propyl Gallate, *Abstracts of 14th IPPC* :98. I
- (9) Hideo Ishii (2006), Development of strobilurin resistance in phytopathogenic fungi, *Abstr. Annu. Meeting Korean Soc. Plant Pathol.* :17-21. N
- (10) Hideo Ishii (2007), Diagnosis of fungicide resistance-bioassay or molecular methods, *Abstr. 5th Intr. Symp. Biocontrol Biotechnol.* :3. CJ
- (11) 石井英夫 (2007), DMI耐性菌をめぐって, *植物防疫* 61 (8) :1-3. CIK
- (12) 神奈川県病害虫防除所 (1996), 農薬耐性菌及び抵抗性害虫の検定結果, *病害虫発生予察年報* :93-96. E
- (13) 神奈川県病害虫防除所 (1997), 農薬耐性菌及び抵抗性害虫の検定結果, *病害虫発生予察年報* :92-94. E
- (14) 神奈川県病害虫防除所 (1998), 農薬耐性菌及び抵抗性害虫の検定結果, *病害虫発生予察年報* :94-95. E
- (15) Young-Jin LEE・Hiroshi HAMAMOTO・Ryoji NAKAUNE・Osamu NAWATA・Yoshiyuki MAKIZUMI・Katsumi AKUTSU・Tadaaki HIBI (2001), Distribution of the Consensus Sequences of ABC Transporter Gene among Severe Taxonomically Distinct Phytopathogenic Fungi, *J. Gen. Plant Pathol.* 67 (2) :106-110. HIN
- (16) Matsuo T.・Yamamoto Y.・Muraguchi H.・Kamada T. (1999), Effects of amino-acid substitutions in β tubulin on benomyl sensitivity and microtubule functions in *Coprinus cinereus*, *Mycoscience* 40 :241-249. BIJ
- (17) 松尾正・山本由紀・村口元・鎌田堯 (1999), ウシグソヒトヨタケの β チューブリンにおけるアミノ酸置換のベノミル感受性および微小管機能におよぼす影響, *Mycoscience* 40 (3) :241-249. BI
- (18) 中畝良二・安達喜一・富山雅光・阿久津克己・長谷部亮・日比忠明 (1996), 酵母 *Saccharomyces cerevisiae* のジカルボキシイミド系殺菌剤およびDMI剤に対する耐性機構, *日植病報(講要)* 62 (3) :284. IJ
- (19) 中畝良二 (2003), 植物病原系状菌におけるABCトランスポーターの機能, *日本農薬学会誌* 28 (4) :468-472. IJ
- (20) 坂野真平・鈴木智一・植草秀敏・岡田清嗣・藤村真 (2007), 蛍光プローブ法を用いた殺菌剤耐性変異検出系の構築とその応用, *日本農薬学会大会講演要旨集* :63. CJ
- (21) 佐藤守・渡部賢司 (1998), *Enterobacter cloacae* の伝達性多剤耐性プラスミド, *日植病報(講要)* 64 (4) :390. HJ
- (22) 塩澤あずさ・橋本千穂・落合則幸・坂野真平・木村真・山口勇・藤村真 (2005), アカパンカビのcAMPシグナル伝達系の変異とジカルボキシイミド感受性, *日本農薬学会大会講演要旨集* :38. IJ
- (23) Maarten de Waard (2005), Impact of drug transporters on virulence, fungicide sensitivity and multidrug resistance, 第15回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :53-65. I
- (24) M. Yoshida・Y. Narusaka・E. Minami・H. Ishii (1998), Expression of *Neurospora crassa* β -Tubulin Target Protein of Benzimidazole Fungicides, in *Escherichia coli*, *Abstracts of 9th International Congress of Pesticide chemistry* :4C-002. BI

その他 耐性機構・薬剤

- (1) 石井英夫 (2007), Mode of Action and Resistance Mechanism -Plant Disease Control, *日本農薬学会誌* 32 (Suppl.) :S37-S39. EIJ
- (2) 石井英夫・James Fountain・西村久美子・宮本拓也・牛尾進吾・埋橋志穂美・加藤寛 (2008), ミトコンドリア電子伝達系阻害剤耐性菌の諸性質と各種薬剤の発病抑制効果, *日本農薬学会大会講演要旨集* :112. CEFJ
- (3) 神頭武嗣・坂野真平・岡部明子・菊池麻里・有江力 (2007), Mode of Action and Resistance Mechanism and New Targets iii. *Disease Control*, *日本農薬学会誌* 32 (Suppl.) :S108-S111. EIJ

その他 薬剤

- (1) 藤村真・平山美由紀・佐藤真之・野口莉枝子・坂野真平・木村真・山口勇 (2005), 蛍光ハイブリプローブをもちいた灰色かび病菌のジカルボキシイミドおよびベンズイミダゾール耐性の複数変異の同時検出, 日植病報(講要) 71 (3) :
- (2) 原本雅昇・山中譽・細川浩靖・濱村洋・佐野慎亮 (2001), 新規殺菌剤NF-149に関する研究(第2報) NF-149の圃場における効力と作用特性, 日本農薬学会第26回大会講演要旨集 :152. EL
- (3) M. Haramoto・H. Yamanaka・H. Hosokawa・H. Sano・H. Hamamura・S. Sano (2002), CYFLUFENAMID: A NOVEL FUNGICIDE FOR THE CONTROL OF POWDERY MILDEW, 10th IUPAC International Congress on the Chemistry of Crop Protection, Basel 2002, Book of Abstracts Vol. 1 :76. DEL
- (4) S. P. Heaney・S. M. Dale・S. A. Davies (1998), Measuring baseline sensitivities to the strobilurin fungicide azoxystrobin in plant pathogen populations, 第8回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :9-15. C
- (5) 保坂壮彦・鈴木備平・中島雅己・日比忠明・阿久津克己 (1999), *Botrytis cinerea* 薬剤耐性株との接触培養による *B.tulipae* のジカルボキシイミド系薬剤耐性獲得, 日植病報(講要) 65 (3) :358. I
- (6) 石井英夫・西村久美子・岩本晋 (1998), 数種植物病原糸状菌のアニリノピリミジン系およびストロビルリン系薬剤感受性検定法の検討, 日植病報(講要) 64 (4) :395. C
- (7) H. Ishii・K. Nishimura・S. Iwamoto (1997), Testing Methods for Anilinopyrimidine and Strobilurin Sensitivities of Some Phytopathogenic Fungi, Ann. 5th Intr. Conf. Plant Dis. :493-500. C
- (8) 石井英夫・堤箸幸子・山口敏和・矢野和孝・杉山知子 (2002), ストロビルリン系薬剤耐性菌にみられる変異型チトクロームb遺伝子の高感度検出法の検討, 日植病報(講要) 68 (2) :263. CGH
- (9) 石井英夫・西村久美子 (2007), ストロビルリン系薬剤耐性菌のボスカリド感受性, 日本農薬学会大会講演要旨集
- (10) 片岡智・高垣真喜一・中野達生・野崎和俊・角康一郎・清水力(2006), 新規殺菌剤KIF-7767の作用機作に関する研究, 日本農薬学会大会講演要旨集 :62. EJJ
- (11) 木村幸 (2012), 新規殺菌剤フルチアニル(ガッテン®)の作用特性と感受性検定, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :39-47. CD
- (12) Kristin Klappach (2006), Resistance management and practical application for boscalid—A new broad-spectrum fungicide, 第16回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :30-40. CD
- (13) Kang Beum Kwan・Yun-Sik Kim・Ji Young Min・Sung Woo Park・Nguyen Van Bach・Heung Tae Kim(2005), The resistance of *Colletotrichum acutatum* to benzimidazoles, 日本農薬学会大会講演要旨集 :42. DEK
- (14) Leroux P.・Chapeland F.・Arnold A.・Gredt M. (2000), New Cases of Negative Cross-resistance between Fungicides, Including Sterol Biosynthesis Inhibitors, J. Gen. Plant Pathol. 66 (1) :75-81. ADI
- (15) 松村誠 (2009), 新規殺菌剤テブフロキンの生物活性について, 第27回農薬生物活性研究会シンポジウム講演要旨 :1-4. CDE
- (16) 松村誠 (2012), 新規殺菌剤テブフロキン(トライ®)の作用特性と感受性検定, 第22回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :29-38. CD
- (17) Mitani S.・Komyoji T.・Matsuo N. (1996), Fungicidal activity of pyridylcarbamates against isolates of *Botrytis cinerea* having different resistance levels to benomyl and diethofencarb., Ann. Phytopath. Soc. Jpn 62 (6) :572-
- (18) Mitani, S.・Araki, S.・Yamaguchi, T.・Takii, Y.・Ohshima, T.・Matsuo, N (2001), Antifungal activity of the novel fungicide cyazofamid against *Phytophthora infestans* and other plant pathogenic fungi *in vitro*., Pestic. Biochem. Physiol. 70 (2) :92-99. CE
- (19) Mitani, S.・Araki, S.・Takii, Y.・Ohshima, T.・Matsuo, N.・Miyoshi, H (2001), The biochemical mode of action of the novel selective fungicide cyazofamid: Specific inhibition of mitochondrial complex III in *Pythium spinosum*., Pestic. Biochem. Physiol. 71 (2) :107-115. N
- (20) Mitani, S.・Araki, S.・Yamaguchi, T.・Takii, Y.・Ohshima, T.・Matsuo, N (2002), Biological properties of the novel fungicide cyazofamid against *Phytophthora infestans* on tomato and *Pseudoperonospora cubensis* on cucumber. , Pest Manag. Sci. 58 (2) :139-145. E
- (21) Mitani, S.・Kamachi, K.・Sugimoto, K.・Araki, S.・Yamaguchi, T (2003), Control of cucumber downy mildew by cyazofamid., J. Pesticide Sci. 28 (1) :64-68. E
- (22) Mitani, S.・Sugimoto, K.・Hayashi, H.・Takii, Y.・Ohshima, T.・Matsuo, N (2003), Effects of cyazofamid against *Plasmiodiophora brassicae* Woronin on Chinese cabbage., Pest Manag. Sci. 59 (3) :287-293. E
- (23) 三宅裕 (2004), ペンチアバリカルブイソプロピルの作用性と感受性検定方法, 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :1-8. CD
- (24) Akiyoshi Okada・Shinpei Banno・Aiyoshi Ichiishi・Makoto Kimura・Isamu Yamaguchi・Makoto Fujimura (2005), Pyrrolnitrin Interferes with Osmotic Signal Transduction in *Neurospora*, J. Pestic. Sci. 30 (4) :378-383. IJL
- (25) 佐野慎亮・山中譽・細川浩靖・原本雅昇・濱村洋 (2001), 新規殺菌剤NF-149に関する研究(第1報) NF-149の生物活性と作用性, 日本農薬学会第26回大会講演要旨集 :151. EL
- (26) Gerd Stammer (2008), Mode of action, biological performance and latest monitoring results of boscalid sensitivity, 第18回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :30-43. CD
- (27) Reinhard Stierl (2004), Qo-inhibitory fungicides - a review, 第14回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集
- (28) 杉本光二・三谷滋・蒲池健・小川宗和・林博之・大橋かおり・松尾憲総 (1999), 1998年に北海道で発生した各種重要病害に対するフルアジナムの殺菌活性, 日植病報(講要) 65 (6) :694. D
- (29) Makiichi Takagaki・Ichirou Miura・Kozo Nagayama (2004), A Method for Monitoring the Sensitivity of *Botrytis cinerea* to Mepanipyrim, J. Pestic. Sci. 29 (4) :369-371. CDE
- (30) 高垣真喜一・片岡智・福本俊一郎・石井英夫・山口純一郎・稲田稔・間佐古将則・野崎和俊 (2006), 新規殺菌剤ピリベンカルブ(ISO申請中)の各種QoI剤耐性菌に対する防除効果, 日植病報(講要) 72 (4) :274-275. EK
- (31) 高垣真喜一 (2009), 新規殺菌剤ピリベンカルブの開発と耐性菌マネジメント, 第19回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集 :33-41. C
- (32) Wang-Ching HO・Wen-Hsiung KO (1999), Temporal Distribution of Mating Types and Cultural Variation of *Phytophthora infestans* at the Volcano District on the Island of Hawaii, 日植病報(講要) 65 (3) :286-292. DI
- (33) Yamaguchi Ken-ichi・Fukui Keiko・Takahashi Masayoshi(1998), Fungicide sensitivity of non-pathogenic *Fusarium* isolate MT0062, a potential biocontrol agent, and induction of benomyl-resistant mutants, J. Pestic. Sci. 23(4) :
- (34) Chinami Yokota (2004), Cyflufenamid A New Fungicide against Powdery Mildew on Various Crops, AGROCHEMICALS JAPAN (84) :12-14. DEL

- (35) 横田因 (2004), 新規殺菌剤シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤の作用特性と使い方, 植物防疫 58 (3) :18-
- (36) M. Yoshida・Y. Narusaka・E. Minami・H. Ishii (1999), Expression of *Neurospora crassa* β -tubulin, target protein of benzimidazole fungicides, in *Escherichia coli*, *Pestic. Sci.* 55 :362-364. *BI*